

第3期湯河原町子ども・子育て支援事業計画の策定について

1 計画の位置づけ

(1) 法的根拠

子ども・子育て支援事業計画は、子ども・子育て支援法に基づき、子ども・子育て支援施策を計画的に提供するため、5年を一期として市町村における策定が義務付けられた計画であり、国の「子ども・子育て支援法に基づく基本指針」を踏まえて策定する必要があります。

令和2年度を始期とする「湯河原町子ども・子育て支援事業計画」の終期が令和6年度であることから、令和7年度を始期とする第3期の「湯河原町子ども・子育て支援事業計画」を改めて作成する必要があります。

■根拠法（子ども・子育て支援法第61条）

市町村は、基本指針に即して、5年を一期とする教育・保育及び地域の子ども・子育て支援事業の提供体制の確保その他この法律に基づく業務の円滑な実施に関する計画を定めるものとする。

(2) 計画期間

本計画は、令和7年度を初年度とし、令和11年度までの5年間を期間とします。

R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
第2期計画					第3期計画					第4期計画				

2 計画の策定方法等

(1) アンケートの実施

小学生以下の保護者及び町内在住の中学生・高校生から20代までの町民を対象に生活実態や意識についてアンケートを実施しました。

※集計結果は、別添（参考資料）を参照

(2) 計画の策定体制

P T A連絡協議会や町内保育園保護者会などの子どもの保護者や子ども・子育ての専門機関等で構成する「湯河原町子ども・子育て会議」を開催し、計画策定に当たっての専門的見地からの意見等をいただきます。

また、計画素案の段階においてパブリックコメントを実施し、広く住民の意見等を募り、実態に即した計画となるよう努めます。

3 計画の策定スケジュール

時 期	内 容
令和6年 6月 中旬	・ 常任委員会〔第3期計画の策定等について報告〕 ・ 湯河原町こども計画策定のためのアンケート集計結果の公表（町ホームページ）
7月 中旬	・ 子ども・子育て会議（第1回）の開催
8月 月上旬 ～	・ 第3期計画（素案）の作成開始
11月 中旬	・ 子ども・子育て会議（第2回）の開催
12月 月上旬	・ 常任委員会〔第3期計画（素案）を説明〕
12月 月中旬 ～	・ 第3期計画（素案）に対するパブリックコメントの実施
令和7年 2月 月上旬	・ 子ども・子育て会議（第3回）の開催
2月 月下旬	・ 概要版完成 ・ 常任委員会〔第3期計画を説明〕
4月 1日	・ 第3期計画の開始

※スケジュールに変動が生じる場合があります。

(参考資料)

湯河原町こども計画策定のためのアンケート調査

報告書

令和6年5月
湯河原町

目 次

I	調査概要.....	1
1	調査の目的	1
2	調査の設計	1
3	回収結果	1
4	報告書の見方	1
II	調査結果概要.....	3
	結果概要	3
	本調査における湯河原町の現状値	7
	（参考）子ども大綱（令和5年12月22日）	
	「こどもまんなか社会」の実現に向けた数値目標	8
	【目標1】今の社会は「こどもまんなか社会」の実現に向かっていると思うか（問20）...	9
	【目標2】最近の生活全般の満足度（問21）	10
	【目標3】今の自分が好きだ（問22）	11
	【目標4】学校ではすぐに友達ができる（問23）	12
	【目標5】自分には自分らしさというものがあると思う（問24）	13
	【目標6】困ったときに助けてくれる人がいると思いますか（問25～29）	14
	【目標7】社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験（問11）	15
	【目標8】子ども政策に関して意見を聞いてもらえていると思うか（問39）	16
	【目標9】自分の将来について明るい希望を持っているか（問30）	17
	【目標10】湯河原町の将来は明るいと思うか（問31）	18
	【目標11】日本の社会が結婚、妊娠、こども・子育てに温かい社会の実現に 向かっていると思うか（問17）	19
	【目標12】子どもの世話や看病で頼れる人はいるか（問18）	20
III	調査結果 本人調査	21
	あなたのことについて	21
1	居住地区	21
2	性別	21
3	年齢	22
4	職業	22
5	就業経験	23
6	同居者	23
7	結婚状況	24
8	理想の子ども数	24
9	お世話をしている人	25
10	行っているお世話の内容	26

困難に直面した経験について	27
11 社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験.....	27
12 直面した困難.....	28
13 役に立った困難の乗り越えた方や望む支援.....	29
14 家族や知り合い以外に相談したい相手.....	30
15 相談したくないと思う理由.....	31
こども・若者支援について	32
16 子ども食堂で食事をしたことがあるか.....	32
17 必要だと思う子ども・若者支援.....	33
ヤングケアラーについて	34
18 ヤングケアラーの認知状況.....	34
19 ヤングケアラーにあてはまると思うか.....	34
あなたの気持ちや考えについて	35
20 今の社会は「こどもまんなか社会」の実現に向かっていると思うか.....	35
21 最近の生活全般の満足度.....	35
22 今の自分が好きだ.....	36
23 学校ですぐに友達ができる.....	36
24 自分には自分らしさというものがあると思う.....	37
25 家族・親族は、困った時に助けてくれると思う.....	37
26 学校で出会った友人は、困った時に助けてくれると思う.....	38
27 職場・アルバイト関係の人は、困った時に助けてくれると思う.....	38
28 地域の方は、困った時に助けてくれると思う.....	39
29 インターネット上における人やグループは、困った時に助けてくれると思う.....	39
30 自分の将来について明るい希望を持っているか.....	40
31 湯河原町の将来は明るいと思うか.....	40
32 将来希望する夢や進路はあるか.....	41
33 安心できる場所はあるか.....	41
34 生きづらさを感じることもあるか.....	41
35 どの程度、孤独であると感じることがあるか.....	42
36 知っている子ども・若者を対象とした育成支援機関等.....	43
37 利用したいと思うか.....	44
情報の入手先について	45
38 知識や情報の入手先.....	45
こどもや若者の意見について	46
39 子ども政策に関して意見を聞いてもらえていると思うか.....	46
40 住んでいるまちや身のまわりの生活などをより良くするために意見を言う方法.....	47
41 子どもや若者のための取り組みについての意見・ご要望.....	48
IV 調査結果 保護者調査	53

世帯のことについて	53
1 居住地区	53
2 同居者人数	53
3 18 歳以下の同居者数	54
4 同居家族	54
5 現在の暮らしの状況	55
6 昨年世帯の収入	55
7 家計の支出の中で負担が大きいと感じるもの	56
8 子どもが世話をしている家族	56
9 子どもが行っている世話の内容	57
母親・父親の就労について	58
10 母親・父親の就労状況	58
11 母親が働いていない理由	59
お子さんが困難に直面した経験について	60
12 子どもが直面した困難	60
13 役に立った困難の乗り越えた方や望む支援	61
子育て支援について	62
14 公的支援制度の利用経験	62
15 幼少期に利用したい・したかった子育て支援サービス	64
16 利用したい平日 1 時間の利用金額	
【一時預かり事業】【ファミリー・サポート・センター】	65
17 日本の社会が結婚、妊娠、こども・子育てに温かい社会の実現に 向かっていると思うか	66
18 子どもの世話や看病で頼れる人はいるか	66
19 子ども食堂に子どもを参加させたいと思うか	67
20 参加させたい・参加している理由	67
ヤングケアラーについて	68
21 ヤングケアラーの認知度	68
22 子どもは「ヤングケアラー」にあてはまると思うか	68
相談や情報の入手先について	69
23 子育てや教育について気軽に相談できる人や場所	69
24 県や町が実施している子育てや生活に関する支援の情報の入手先	70
町の取り組みについて	71
25 充実が必要だと思う子育て・生活支援	71
26 充実が必要だと思う子ども・若者支援	72
27 自由記述	73
V 調査票	85

I 調査概要

1 調査の目的

本調査は、こども基本法第10条に基づく「こども計画」、及び子ども・子育て支援法に基づく「子ども・子育て支援事業計画」として、令和7年度から令和11年度までの5か年を計画期間とした（仮称）湯河原町こども計画（第3期湯河原町子ども・子育て支援事業計画）を策定することを目的に、町民の生活実態や意識についてお聞きするものです。

2 調査の設計

	本人調査	保護者調査
調査対象	町内在住の中学生・高校生から20代までの町民	小学生以下の子どもの保護者
標本数	中学生 429人 高校生から20代 600人	807人
調査方法	郵送による配布・回収の併用	施設を通じた直接配布・回収と 郵送による配布・回収の併用
調査期間	2024年3月5日（火）～3月15日（金）	

3 回収結果

	本人調査	保護者調査
配布数	1,029	807
回収数	274	474
有効回収数	272	473
有効回収率	26.4%	58.6%

4 報告書の見方

- ・ 比率はすべてパーセントで表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。そのためパーセントの合計が100%にならないこともあります。
- ・ 回答率（%）は、その質問の回答者数を母数として算出しました。
- ・ 基数となるべき実数は、nとして掲載しました。比率は、この件数を100%として算出しています。
- ・ 複数回答が可能な質問では、比率算出の基数は回答者数（票数）とし、その項目を選び○印をつけた人が全体からみて何%なのかという見方をしました。そのため、各項目の比率の合計は通常100%を超える場合もあります。
- ・ 本報告書の表の見出し及び文章中での回答選択肢の表現は、趣旨が変わらない程度に簡略化して掲載している場合があります。

Ⅱ 調査結果概要

■本人調査

●あなたのことについて

こども基本法第二条において、『「こども」とは、心身の発達の過程にある者をいう』と定義されています。また、こども家庭庁は、こども政策を推進するにあたり、こども・若者のみなさんの声を聴き、反映し、こどもや若者の視点に立った政策の実現を掲げています。

→そこで、本町では20代までを対象にアンケートを実施しました。

●困難に直面した経験について

社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験では、「今までに経験があった（または、現在ある）」11.4%と「どちらかといえば、あった（ある）」18.4%を合わせた約3割が困難に直面した経験があるとなっています。

役に立った困難の乗り越えた方や望む支援では、「家族や友人・知人への相談」49.3%が最も多く、以下「困難とは関係のない仲間、居場所での時間」13.2%、「同じような境遇の人同士で交流できる場所」9.2%、「電話やSNSなどでの相談」7.4%となっています。

家族や知り合い以外に相談したい相手では、「相手が同じ悩みを持っている、持っていたことがある」44.5%が最も多く、以下「相手が同世代である」40.4%、「相手が同性である」25.4%、「匿名で（自分が誰かを知られずに）相談できる」23.9%、「無料で相談できる」22.8%となっています。

→困難に直面した際、匿名でSNSなどを利用し相談できる場の構築の検討が求められます。

●こども・若者支援について

必要だと思う子ども・若者支援では、「放課後などに気軽に行ける安全な居場所の提供」39.0%が最も多く、以下「いじめや虐待などの悩みを相談できる窓口の充実」36.4%、「青少年や若者が参加できるイベント等の開催」34.9%、「経済的な困難を抱えている家庭の支援」33.1%、「多様な授業（国際交流等）を取り入れるなど、学校教育の充実」29.4%となっています。

→こども・若者支援については、安全・相談窓口・交流の場の提供・経済的支援など多方面における支援が求められています。

●ヤングケアラーについて

ヤングケアラーの認知状況では、「聞いたことはない」51.1%が最も多く、以下「聞いたことがあり、内容も知っている」27.2%、「聞いたことはあるが、よく知らない」21.0%となっています。

ヤングケアラーにあてはまると思うかでは、「あてはまらない」78.7%が最も多く、以下「わからない」17.3%、「あてはまる」2.9%となっています。

→ヤングケアラーについては、よく知らないが2割、自分自身があてはまるかわからないが約2割となっており、適正な支援につなげるため、さらなる情報の周知が求められます。

●あなたの気持ちや考えについて

最近の生活全般の満足度では、平均は6.65点、『7点以上』は56.6%となっています。

自分の将来について明るい希望を持っているかでは、「希望がある」26.8%、「どちらかといえば希望がある」38.2%を合わせた『希望がある』が65%を占めています。

湯河原町の将来は明るいと思うかでは、「明るい」8.1%、「どちらかといえば明るい」21.3%を合わせた『明るい』が約3割となっています。

生きづらさを感じることはあるかでは、「ある」が46.3%となっています。

どの程度、孤独であると感じることがあるかでは「時々ある」20.2%、「しばしばある・常にある」5.9%を合わせ、約4人に1人が孤独を感じやすくなっています。

知っている子ども・若者を対象とした育成支援機関等では、「児童相談所・福祉事務所などの児童福祉機関」43.4%が最も多く、以下「通信制高校のサポート校」36.4%、「教育支援センター」32.0%、「職業安定所・ジョブカフェ・地域若者サポートステーションなどの就労支援機関」26.5%となっています。一方「どれも知らない」は27.6%となっています。

→子ども・若者を対象とした育成支援機関の周知を重ね、生きづらさや孤独の解消、希望や幸せの向上につながる施策の検討が求められます。

●情報の入手先について

知識や情報の入手先では、「インターネット検索」85.3%が最も多く、以下「SNS（LINE,Instagram,TikTok,X等）」77.6%、「家族や友人との会話」69.1%、「テレビ・ラジオ」62.5%、「本」32.0%となっています。

→デジタルを活用した情報の効率的な周知施策の検討が必要です。

●子どもや若者の意見について

子ども政策に関して意見を聞いてもらえていると思うかでは、「わからない」30.1%が最も多く、以下「そう思わない」22.1%、「どちらかというと思わない」19.5%となっています。約7割が「意見を聞いてもらえる」と感じていません。

住んでいるまちや身のまわりの生活などをより良くするために意見を言う方法では、「アンケート調査」47.4%が最も多く、以下「SNS（LINE,X等）」40.8%、「意見箱」35.7%、「同じ年代の人が集まるグループで意見を言い合う」22.1%、「大人もいるグループで意見を言い合う」11.8%、「考えたことがない」11.8%となっています。

→子ども政策に関して、子どもや若者からの幅広い意見収集方法の検討が必要です。

●世帯のことについて

小学生以下の子どもの保護者を対象に実施しています。

現在の暮らしの状況では、「ふつう」50.1%が最も多く、「やや苦しい」31.5%と「大変苦しい」9.7%、を合わせた『苦しい』が4割を占めています。

昨年の世帯の収入では、「127万円を超える」86.3%、「127万円を超えない」11.2%となっています。

※厚生労働省国民生活基礎調査の結果では、2021（令和3）年の貧困線（等価可処分所得の中央値の半分）は127万円となっており、「相対的貧困率」（貧困線に満たない世帯員の割合）は15.4%とされています。

コロナ渦の影響、昨今の物価高、等価可処分所得の回答が難しいことを考慮し、この調査では参考に、世帯の収入が127万円を超えるかを聞いています。

→暮らしの状況を苦しいと感じる子育て世帯への支援施策の再検討が求められます。

●母親・父親の就労について

母親の就労状況では、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」40.0%が最も多く、以下「正社員・正規職員・会社役員」29.2%、「働いていない（専業主婦／主夫を含む）」12.9%、「自営業（家族従業者、内職、自由業、フリーランスを含む。）」11.8%、「嘱託・契約社員・派遣職員」3.2%となっています。

父親の就労状況では、「正社員・正規職員・会社役員」64.3%が最も多く、以下「自営業（家族従業者、内職、自由業、フリーランスを含む。）」20.7%、「いない、わからない」8.7%、「嘱託・契約社員・派遣職員」1.5%、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」1.5%となっています。

母親が働いていない理由では、「子育てを優先したため」47.5%が最も多く、以下「自分の病気や障がいのため」16.4%、「働きたいが、希望する条件の仕事がないため」13.1%、「その他の理由」9.8%、「家族の介護・介助のため」1.6%となっています。

→近年増えている働く母親について、働きやすさを確保する施策の検討が求められます。

●お子さんが困難に直面した経験について

子どもが直面した困難では、「直面していない」70.4%が最も多く、以下「友人との関係」18.6%、「不登校」4.2%、「家族との関係」4.2%、「いじめ」3.4%となっています。

役に立った困難の乗り越えた方や望む支援では、「家族や友人・知人への相談」24.1%が最も多く、以下「金銭的な支援制度」6.8%、「困難とは関係のない仲間、居場所での時間」6.6%、「その他」6.3%、「町役場や民間機関の相談窓口での支援」5.9%となっています。

→困難を乗り越える際、必要な支援制度につながるための支援が求められます。

●子育て支援について

子育て支援については、いずれも「利用したことがない・利用する必要がなかった」が半数を超え多くなっています。(1) 児童扶養手当では、「利用したことがある」が3割を占め、多くなっています。

「一時預かり事業」「ファミリー・サポート・センター」は有料でも利用したい人が約9割を占め多くなっています。

日本の社会が結婚、妊娠、こども・子育てに温かい社会の実現に向かっていると思うかでは、「そう思わない」43.8%が最も多く、以下「どちらかといえば、そう思わない」33.0%、を合わせた『そう思わない』が約8割となっています。

子どもの世話や看病で頼れる人はいるかでは、「いない」が21.6%、「そのことで頼らない」が5.3%となっています。

→結婚、妊娠、こども・子育てに温かい社会の実現に向かっていると感じられる、子育て支援が求められます。

●ヤングケアラーについて

ヤングケアラーの認知度では、「聞いたことがあり、内容も知っている」65.5%が最も多く、以下「聞いたことはない」17.3%、「聞いたことはあるが、よく知らない」16.7%となっています。

子どもは「ヤングケアラー」にあてはまると思うかでは、「あてはまらない」90.3%が最も多く、以下「わからない」5.9%、「あてはまる」2.3%となっています。

→ヤングケアラーの認知を進めるための、更なる周知が求められます。

●相談や情報の入手先について

県や町が実施している子育てや生活に関する支援の情報の入手先では、「広報ゆがわら」48.8%が最も多く、以下「家族や友人からの情報」41.6%、「教育・保育施設や学校からのお便り」40.2%、「町や県のホームページ」18.0%、「SNS」14.2%となっています。

→デジタルを活用した情報の効率的な周知施策の展開を図るとともに、「広報ゆがわら」や「教育・保育施設や学校からのお便り」での情報提供の充実が必要です。

●町の取り組みについて

充実が必要だと思う子育て・生活支援では、「保育料や授業料の負担軽減」56.7%が最も多く、以下「子どもの医療費支援の充実」53.1%、「仕事で帰宅が遅くなる場合や休日勤務の場合等の保育サービスの充実」44.2%、「病児・病後児保育の充実」41.9%となっています。

充実が必要だと思う子ども・若者支援では、「放課後などに気軽に行ける安全な居場所の提供」50.7%が最も多く、以下「インターネットの適正な利用について学ぶ機会の充実」46.7%、「多様な授業（国際交流等）を取り入れるなど、学校教育の充実」41.9%、となっています。

→町の取り組みについては、多方面における支援が求められています。現在実施している取り組みを整理し、必要な取り組みを再度検討していくことが必要です。

本調査における湯河原町の現状値

本調査の実施において、こども大綱「こどもまんなか社会」の実現に向けた数値目標として掲げられた項目について、の本町における現状値を把握しました。

数値目標に関連したクロス集計表は、P9以降に掲載しています。

目標	項目	集計結果	調査票の別
1	「こどもまんなか社会の実現に向かっている」と思う人の割合	11.0%	中学生・高校生～20代の 本人調査より
2	「生活に満足している」と思うこどもの割合	56.6%	
3	「今の自分が好きだ」と思うこども・若者の割合（自己肯定感の高さ）	64.7%	
4	社会的スキルを身につけているこどもの割合	63.6%	
5	「自分には自分らしさというものがある」と思うこども・若者の割合	83.1%	
6	「どこかに助けてくれる人がいる」と思うこども・若者の割合	97.1%	
7	「社会生活や日常生活を円滑に送ることができている」と思うこども・若者の割合	54.4%	
8	「こども政策に関して自身の意見が聴いてもらえている」と思うこども・若者の割合	27.2%	
9	「自分の将来について明るい希望がある」と思うこども・若者の割合	65.1%	
10	「湯河原町の将来は明るい」と思うこども・若者の割合	29.4%	
11	「結婚、妊娠、こども・子育てに温かい社会の実現に向かっている」と思う人の割合	23.0%	小学生以下の子どもの 保護者調査より
12	「こどもの世話や看病について頼れる人がいる」と思う子育て当事者の割合	72.5%	

Ⅱ 調査結果概要

(参考) 子ども大綱(令和5年12月22日) 「こどもまんなか社会」の実現に向けた数値目標

	項目	目標	現状	出典
1	「こどもまんなか社会の実現に向かっている」と思う人の割合	70%	15.7% 2023年	こども家庭庁「こども政策の推進に関する意識調査」
2	「生活に満足している」と思うこどもの割合	70%	60.8% 2022年	OECD「生徒の学習到達度調査(PISA)」
3	「今の自分が好きだ」と思うこども・若者の割合(自己肯定感の高さ)	70%	60.0% 2022年	こども家庭庁「こども・若者の意識と生活に関する調査」
4	社会的スキルを身につけているこどもの割合	80%	74.2% 2022年	OECD「生徒の学習到達度調査(PISA)」
5	「自分には自分らしさというものがある」と思うこども・若者の割合	90%	84.1% 2022年	こども家庭庁「こども・若者の意識と生活に関する調査」
6	「どこかに助けしてくれる人がいる」と思うこども・若者の割合	現状維持	97.1% 2022年	こども家庭庁「こども・若者の意識と生活に関する調査」
7	「社会生活や日常生活を円滑に送ることができている」と思うこども・若者の割合	70%	51.5% 2022年	こども家庭庁「こども・若者の意識と生活に関する調査」
8	「こども政策に関して自身の意見が聴いてもらえている」と思うこども・若者の割合	70%	20.3% 2023年	こども家庭庁「こども政策の推進に関する意識調査」
9	「自分の将来について明るい希望がある」と思うこども・若者の割合	80%	66.4% 2022年	こども家庭庁「こども・若者の意識と生活に関する調査」
10	「自国の将来は明るい」と思うこども・若者の割合	55%	31.0% 2018年	こども家庭庁「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」
11	「結婚、妊娠、こども・子育てに温かい社会の実現に向かっている」と思う人の割合	70%	27.8% 2023年	こども家庭庁「こども政策の推進に関する意識調査」
12	「こどもの世話や看病について頼れる人がいる」と思う子育て当事者の割合	90%	83.1% 2022年	国立社会保障・人口問題研究所「生活と支え合いに関する調査」よりこども家庭庁作成

※項目ごと対象の年齢が限定されています。

【目標１】今の社会は「こどもまんなか社会」の実現に向かっていると思うか（問20）

上段：人 下段：%		全体	『向かっている』	『向かっていない』	わからない	無回答
全 体		272 100.0	30 11.0	117 43.0	120 44.1	5 1.8
問 1 居住地区	福浦	9 100.0	- -	1 11.1	8 88.9	- -
	川堀	10 100.0	1 10.0	5 50.0	3 30.0	1 10.0
	吉浜	51 100.0	6 11.8	24 47.1	21 41.2	- -
	中央	42 100.0	10 23.8	19 45.2	11 26.2	2 4.8
	鍛冶屋	45 100.0	2 4.4	22 48.9	20 44.4	1 2.2
	門川	18 100.0	2 11.1	10 55.6	6 33.3	- -
	城堀	18 100.0	2 11.1	7 38.9	9 50.0	- -
	宮下	37 100.0	3 8.1	10 27.0	24 64.9	- -
	宮上	23 100.0	2 8.7	12 52.2	9 39.1	- -
	温泉場	3 100.0	- -	1 33.3	2 66.7	- -
	奥湯河原	- -	- -	- -	- -	- -
	その他	10 100.0	- -	3 30.0	6 60.0	1 10.0
問 2 性別	男性	118 100.0	12 10.2	48 40.7	55 46.6	3 2.5
	女性	145 100.0	16 11.0	64 44.1	63 43.4	2 1.4
	答えたくない	7 100.0	1 14.3	4 57.1	2 28.6	- -
問 3 年代	10代	195 100.0	25 12.8	74 37.9	92 47.2	4 2.1
	20代	63 100.0	3 4.8	38 60.3	21 33.3	1 1.6
問 21 一般の満足度 生活全	7点未満	113 100.0	8 7.1	56 49.6	49 43.4	- -
	7点以上	154 100.0	22 14.3	61 39.6	71 46.1	- -

Ⅱ 調査結果概要

【目標2】最近の生活全般の満足度（問21）

上段：人 下段：%		全体	7点未満	7点以上	無回答
全 体		272 100.0	113 41.5	154 56.6	5 1.8
問 1 居住地区	福浦	9 100.0	5 55.6	4 44.4	- -
	川堀	10 100.0	5 50.0	4 40.0	1 10.0
	吉浜	51 100.0	16 31.4	35 68.6	- -
	中央	42 100.0	15 35.7	25 59.5	2 4.8
	鍛冶屋	45 100.0	20 44.4	24 53.3	1 2.2
	門川	18 100.0	12 66.7	6 33.3	- -
	城堀	18 100.0	8 44.4	10 55.6	- -
	宮下	37 100.0	17 45.9	20 54.1	- -
	宮上	23 100.0	8 34.8	15 65.2	- -
	温泉場	3 100.0	- -	3 100.0	- -
	奥湯河原	- -	- -	- -	- -
	その他	10 100.0	4 40.0	5 50.0	1 10.0
問 2 性別	男性	118 100.0	42 35.6	73 61.9	3 2.5
	女性	145 100.0	66 45.5	77 53.1	2 1.4
	答えたくない	7 100.0	4 57.1	3 42.9	- -
問 3 年代	10代	195 100.0	69 35.4	122 62.6	4 2.1
	20代	63 100.0	37 58.7	25 39.7	1 1.6
問 21 一般の満足度	7点未満	113 100.0	113 100.0	- -	- -
	7点以上	154 100.0	- -	154 100.0	- -

【目標3】今の自分が好きだ（問22）

上段：人 下段：%		全体	『あてはまる』	『あてはまらない』	無回答
全 体		272 100.0	176 64.7	91 33.5	5 1.8
問 1 居住地区	福浦	9 100.0	7 77.8	2 22.2	- -
	川堀	10 100.0	4 40.0	5 50.0	1 10.0
	吉浜	51 100.0	33 64.7	18 35.3	- -
	中央	42 100.0	23 54.8	17 40.5	2 4.8
	鍛冶屋	45 100.0	29 64.4	15 33.3	1 2.2
	門川	18 100.0	12 66.7	6 33.3	- -
	城堀	18 100.0	13 72.2	5 27.8	- -
	宮下	37 100.0	25 67.6	12 32.4	- -
	宮上	23 100.0	18 78.3	5 21.7	- -
	温泉場	3 100.0	3 100.0	- -	- -
	奥湯河原	- -	- -	- -	- -
	その他	10 100.0	5 50.0	4 40.0	1 10.0
問 2 性別	男性	118 100.0	80 67.8	35 29.7	3 2.5
	女性	145 100.0	92 63.4	51 35.2	2 1.4
	答えたくない	7 100.0	3 42.9	4 57.1	- -
問 3 年代	10代	195 100.0	128 65.6	63 32.3	4 2.1
	20代	63 100.0	39 61.9	23 36.5	1 1.6
問 21 一般の満足度 生活全	7点未満	113 100.0	54 47.8	59 52.2	- -
	7点以上	154 100.0	122 79.2	32 20.8	- -

Ⅱ 調査結果概要

【目標4】学校ではすぐに友達ができる（問23）

上段：人 下段：%		全体	『その通りだ』	『その通りでない』	無回答
全 体		272 100.0	173 63.6	90 33.1	9 3.3
問 1 居住地区	福浦	9 100.0	8 88.9	1 11.1	- -
	川堀	10 100.0	4 40.0	5 50.0	1 10.0
	吉浜	51 100.0	33 64.7	18 35.3	- -
	中央	42 100.0	29 69.0	11 26.2	2 4.8
	鍛冶屋	45 100.0	26 57.8	18 40.0	1 2.2
	門川	18 100.0	13 72.2	5 27.8	- -
	城堀	18 100.0	9 50.0	8 44.4	1 5.6
	宮下	37 100.0	23 62.2	12 32.4	2 5.4
	宮上	23 100.0	17 73.9	5 21.7	1 4.3
	温泉場	3 100.0	2 66.7	1 33.3	- -
	奥湯河原	- -	- -	- -	- -
	その他	10 100.0	4 40.0	5 50.0	1 10.0
問 2 性別	男性	118 100.0	79 66.9	34 28.8	5 4.2
	女性	145 100.0	89 61.4	52 35.9	4 2.8
	答えたくない	7 100.0	3 42.9	4 57.1	- -
問 3 年代	10代	195 100.0	123 63.1	67 34.4	5 2.6
	20代	63 100.0	42 66.7	17 27.0	4 6.3
問 21 一般の満足度 生活全	7点未満	113 100.0	64 56.6	47 41.6	2 1.8
	7点以上	154 100.0	109 70.8	43 27.9	2 1.3

【目標5】自分には自分らしさというものがあると思う（問24）

上段：人 下段：%		全体	『あてはまる』	『あてはまらない』	無回答
全 体		272 100.0	226 83.1	40 14.7	6 2.2
問 1 居住地区	福浦	9 100.0	9 100.0	- -	- -
	川堀	10 100.0	7 70.0	2 20.0	1 10.0
	吉浜	51 100.0	43 84.3	8 15.7	- -
	中央	42 100.0	32 76.2	8 19.0	2 4.8
	鍛冶屋	45 100.0	33 73.3	11 24.4	1 2.2
	門川	18 100.0	14 77.8	4 22.2	- -
	城堀	18 100.0	16 88.9	2 11.1	- -
	宮下	37 100.0	34 91.9	2 5.4	1 2.7
	宮上	23 100.0	23 100.0	- -	- -
	温泉場	3 100.0	3 100.0	- -	- -
	奥湯河原	- -	- -	- -	- -
	その他	10 100.0	7 70.0	2 20.0	1 10.0
問 2 性別	男性	118 100.0	101 85.6	14 11.9	3 2.5
	女性	145 100.0	117 80.7	25 17.2	3 2.1
	答えたくない	7 100.0	6 85.7	1 14.3	- -
問 3 年代	10代	195 100.0	161 82.6	30 15.4	4 2.1
	20代	63 100.0	54 85.7	7 11.1	2 3.2
問 21 一般の満足度 生活全	7点未満	113 100.0	84 74.3	28 24.8	1 0.9
	7点以上	154 100.0	142 92.2	12 7.8	- -

Ⅱ 調査結果概要

【目標6】困ったときに助けてくれる人がいると思いますか（問25～29）

上段：人 下段：%		全体	「どこかに助けてくれる人がいる」と思う	「どこかに助けてくれる人がいる」と思わない	無回答
全 体		272 100.0	264 97.1	2 0.7	6 2.2
問 1 居住地区	福浦	9 100.0	9 100.0	- -	- -
	川堀	10 100.0	9 90.0	- -	1 10.0
	吉浜	51 100.0	51 100.0	- -	- -
	中央	42 100.0	40 95.2	- -	2 4.8
	鍛冶屋	45 100.0	43 95.6	- -	2 4.4
	門川	18 100.0	18 100.0	- -	- -
	城堀	18 100.0	18 100.0	- -	- -
	宮下	37 100.0	35 94.6	2 5.4	- -
	宮上	23 100.0	23 100.0	- -	- -
	温泉場	3 100.0	3 100.0	- -	- -
	奥湯河原	- -	- -	- -	- -
	その他	10 100.0	9 90.0	- -	1 10.0
問 2 性別	男性	118 100.0	114 96.6	- -	4 3.4
	女性	145 100.0	141 97.2	2 1.4	2 1.4
	答えたくない	7 100.0	7 100.0	- -	- -
問 3 年代	10代	195 100.0	190 97.4	- -	5 2.6
	20代	63 100.0	60 95.2	2 3.2	1 1.6
問 21 一般の満足度 生活全	7点未満	113 100.0	112 99.1	- -	1 0.9
	7点以上	154 100.0	152 98.7	2 1.3	- -

【目標7】社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験（問11）

上段：人 下段：%		全体	『あった（ある）』	『なかった（ない）』	わからない、 答えられない	無回答
全 体		272 100.0	81 29.8	148 54.4	42 15.4	1 0.4
問1 居住地区	福浦	9 100.0	2 22.2	6 66.7	1 11.1	- -
	川堀	10 100.0	3 30.0	5 50.0	2 20.0	- -
	吉浜	51 100.0	14 27.5	32 62.7	5 9.8	- -
	中央	42 100.0	14 33.3	24 57.1	4 9.5	- -
	鍛冶屋	45 100.0	16 35.6	20 44.4	9 20.0	- -
	門川	18 100.0	6 33.3	7 38.9	5 27.8	- -
	城堀	18 100.0	6 33.3	11 61.1	1 5.6	- -
	宮下	37 100.0	13 35.1	18 48.6	5 13.5	1 2.7
	宮上	23 100.0	5 21.7	14 60.9	4 17.4	- -
	温泉場	3 100.0	- -	3 100.0	- -	- -
	奥湯河原	- -	- -	- -	- -	- -
	その他	10 100.0	1 10.0	4 40.0	5 50.0	- -
問2 性別	男性	118 100.0	38 32.2	54 45.8	25 21.2	1 0.8
	女性	145 100.0	41 28.3	88 60.7	16 11.0	- -
	答えたくない	7 100.0	2 28.6	4 57.1	1 14.3	- -
問3 年代	10代	195 100.0	53 27.2	104 53.3	38 19.5	- -
	20代	63 100.0	24 38.1	36 57.1	2 3.2	1 1.6
問21 一般の満足度 生活全	7点未満	113 100.0	45 39.8	50 44.2	18 15.9	- -
	7点以上	154 100.0	34 22.1	96 62.3	23 14.9	1 0.6

Ⅱ 調査結果概要

【目標8】子ども政策に関して意見を聞いてもらえていると思うか（問39）

上段：人 下段：%		全体	『そう思う』	『そう思わない』	わからない	無回答
全 体		272 100.0	74 27.2	113 41.5	82 30.1	3 1.1
問 1 居住地区	福浦	9 100.0	6 66.7	- -	3 33.3	- -
	川堀	10 100.0	3 30.0	6 60.0	1 10.0	- -
	吉浜	51 100.0	12 23.5	22 43.1	16 31.4	1 2.0
	中央	42 100.0	13 31.0	20 47.6	9 21.4	- -
	鍛冶屋	45 100.0	13 28.9	16 35.6	15 33.3	1 2.2
	門川	18 100.0	5 27.8	8 44.4	5 27.8	- -
	城堀	18 100.0	5 27.8	6 33.3	7 38.9	- -
	宮下	37 100.0	6 16.2	17 45.9	14 37.8	- -
	宮上	23 100.0	5 21.7	11 47.8	6 26.1	1 4.3
	温泉場	3 100.0	1 33.3	1 33.3	1 33.3	- -
	奥湯河原	- -	- -	- -	- -	- -
	その他	10 100.0	4 40.0	3 30.0	3 30.0	- -
問 2 性別	男性	118 100.0	36 30.5	45 38.1	35 29.7	2 1.7
	女性	145 100.0	38 26.2	65 44.8	41 28.3	1 0.7
	答えたくない	7 100.0	- -	2 28.6	5 71.4	- -
問 3 年代	10代	195 100.0	65 33.3	64 32.8	64 32.8	2 1.0
	20代	63 100.0	5 7.9	42 66.7	15 23.8	1 1.6
問 21 一般の満足度 生活全	7点未満	113 100.0	24 21.2	58 51.3	30 26.5	1 0.9
	7点以上	154 100.0	48 31.2	54 35.1	50 32.5	2 1.3

【目標9】自分の将来について明るい希望を持っているか（問30）

上段：人 下段：%		全体	『希望がある』	『希望がない』	無回答
全 体		272 100.0	177 65.1	87 32.0	8 2.9
問 1 居住地区	福浦	9 100.0	6 66.7	3 33.3	- -
	川堀	10 100.0	8 80.0	2 20.0	- -
	吉浜	51 100.0	37 72.5	12 23.5	2 3.9
	中央	42 100.0	23 54.8	17 40.5	2 4.8
	鍛冶屋	45 100.0	27 60.0	17 37.8	1 2.2
	門川	18 100.0	9 50.0	9 50.0	- -
	城堀	18 100.0	14 77.8	4 22.2	- -
	宮下	37 100.0	23 62.2	12 32.4	2 5.4
	宮上	23 100.0	17 73.9	6 26.1	- -
	温泉場	3 100.0	2 66.7	1 33.3	- -
	奥湯河原	- -	- -	- -	- -
	その他	10 100.0	6 60.0	4 40.0	- -
問 2 性別	男性	118 100.0	84 71.2	30 25.4	4 3.4
	女性	145 100.0	88 60.7	53 36.6	4 2.8
	答えたくない	7 100.0	3 42.9	4 57.1	- -
問 3 年代	10代	195 100.0	133 68.2	58 29.7	4 2.1
	20代	63 100.0	33 52.4	27 42.9	3 4.8
問 21 一般の満足度 生活全	7点未満	113 100.0	55 48.7	55 48.7	3 2.7
	7点以上	154 100.0	118 76.6	31 20.1	5 3.2

Ⅱ 調査結果概要

【目標10】湯河原町の将来は明るいと思うか（問31）

上段：人 下段：%		全体	『明るい』	『暗い』	わからない	無回答
全 体		272 100.0	80 29.4	126 46.3	58 21.3	8 2.9
問 1 居住地区	福浦	9 100.0	2 22.2	3 33.3	4 44.4	- -
	川堀	10 100.0	3 30.0	6 60.0	1 10.0	- -
	吉浜	51 100.0	9 17.6	29 56.9	11 21.6	2 3.9
	中央	42 100.0	15 35.7	16 38.1	9 21.4	2 4.8
	鍛冶屋	45 100.0	8 17.8	25 55.6	11 24.4	1 2.2
	門川	18 100.0	4 22.2	12 66.7	2 11.1	- -
	城堀	18 100.0	9 50.0	6 33.3	3 16.7	- -
	宮下	37 100.0	10 27.0	15 40.5	10 27.0	2 5.4
	宮上	23 100.0	11 47.8	9 39.1	3 13.0	- -
	温泉場	3 100.0	1 33.3	2 66.7	- -	- -
	奥湯河原	- -	- -	- -	- -	- -
	その他	10 100.0	6 60.0	2 20.0	2 20.0	- -
問 2 性別	男性	118 100.0	37 31.4	58 49.2	19 16.1	4 3.4
	女性	145 100.0	42 29.0	64 44.1	35 24.1	4 2.8
	答えたくない	7 100.0	1 14.3	4 57.1	2 28.6	- -
問 3 年代	10代	195 100.0	70 35.9	88 45.1	33 16.9	4 2.1
	20代	63 100.0	7 11.1	33 52.4	20 31.7	3 4.8
問 21 一般の満足度 生活全	7点未満	113 100.0	24 21.2	60 53.1	26 23.0	3 2.7
	7点以上	154 100.0	54 35.1	63 40.9	32 20.8	5 3.2

【目標11】日本の社会が結婚、妊娠、こども・子育てに温かい社会の実現に向かっていると思うか（問17）

上段：人 下段：%		全体	『そう思う』	『そう思わない』	無回答
全 体		473 100.0	109 23.0	363 76.7	1 0.2
問 1 居住地区	福浦	21 100.0	2 9.5	19 90.5	- -
	川堀	20 100.0	3 15.0	17 85.0	- -
	吉浜	73 100.0	14 19.2	59 80.8	- -
	中央	89 100.0	18 20.2	70 78.7	1 1.1
	鍛冶屋	70 100.0	19 27.1	51 72.9	- -
	門川	33 100.0	7 21.2	26 78.8	- -
	城堀	25 100.0	8 32.0	17 68.0	- -
	宮下	89 100.0	27 30.3	62 69.7	- -
	宮上	34 100.0	5 14.7	29 85.3	- -
	温泉場	4 100.0	1 25.0	3 75.0	- -
	奥湯河原	2 100.0	2 100.0	- -	- -
	その他	6 100.0	1 16.7	5 83.3	- -
問 5 現在の暮らしの状況	大変苦しい	46 100.0	6 13.0	40 87.0	- -
	やや苦しい	149 100.0	23 15.4	126 84.6	- -
	ふつう	237 100.0	66 27.8	170 71.7	1 0.4
	ややゆとりがある	38 100.0	12 31.6	26 68.4	- -
	大変ゆとりがある	1 100.0	1 100.0	- -	- -
問 6 帯の収入 昨年世	1 2 7 万円を超える	408 100.0	93 22.8	314 77.0	1 0.2
	1 2 7 万円を超えない	53 100.0	10 18.9	43 81.1	- -

Ⅱ 調査結果概要

【目標12】子どもの世話や看病で頼れる人はいるか（問18）

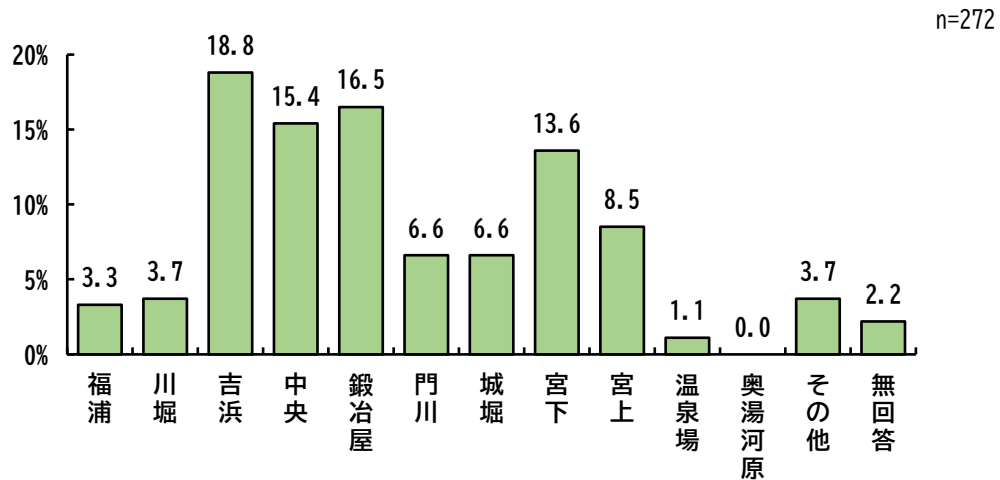
上段：人 下段：%		全体	いる	『いない・そのことで頼らない』	無回答
全 体		473 100.0	343 72.5	127 26.8	3 0.6
問 1 居住地区	福浦	21 100.0	15 71.4	6 28.6	- -
	川堀	20 100.0	18 90.0	2 10.0	- -
	吉浜	73 100.0	52 71.2	21 28.8	- -
	中央	89 100.0	60 67.4	28 31.5	1 1.1
	鍛冶屋	70 100.0	54 77.1	15 21.4	1 1.4
	門川	33 100.0	24 72.7	8 24.2	1 3.0
	城堀	25 100.0	18 72.0	7 28.0	- -
	宮下	89 100.0	61 68.5	28 31.5	- -
	宮上	34 100.0	28 82.4	6 17.6	- -
	温泉場	4 100.0	3 75.0	1 25.0	- -
	奥湯河原	2 100.0	2 100.0	- -	- -
	その他	6 100.0	5 83.3	1 16.7	- -
問 5 現在の暮らしの状況	大変苦しい	46 100.0	31 67.4	15 32.6	- -
	やや苦しい	149 100.0	99 66.4	48 32.2	2 1.3
	ふつう	237 100.0	179 75.5	57 24.1	1 0.4
	ややゆとりがある	38 100.0	33 86.8	5 13.2	- -
	大変ゆとりがある	1 100.0	1 100.0	- -	- -
問 6 帯の収入 昨年世	1 2 7 万円を超える	408 100.0	294 72.1	111 27.2	3 0.7
	1 2 7 万円を超えない	53 100.0	39 73.6	14 26.4	- -

Ⅲ 調査結果 本人調査

あなたのことについて

1 居住地区

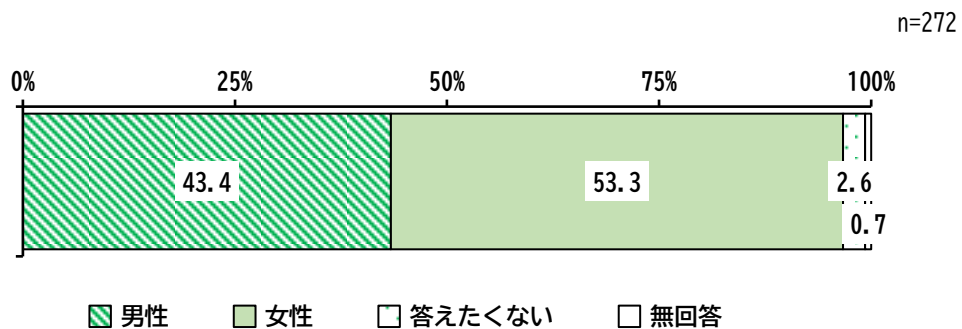
問1 お住まいの地区をお答えください。(あてはまるもの1つに○)



居住地区では、「吉浜」18.8%が最も多く、以下「鍛冶屋」16.5%、「中央」15.4%、「宮下」13.6%、「宮上」8.5%となっています。

2 性別

問2 あなたの性別についてお答えください。(あてはまるもの1つに○)

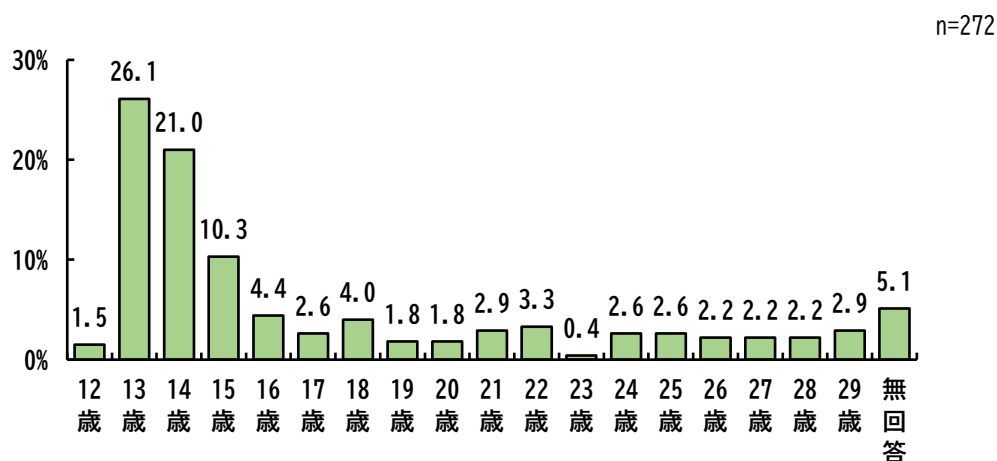


性別では、「女性」53.3%、「男性」43.4%、「答えたくない」2.6%となっています。

Ⅲ 調査結果 本人調査

3 年齢

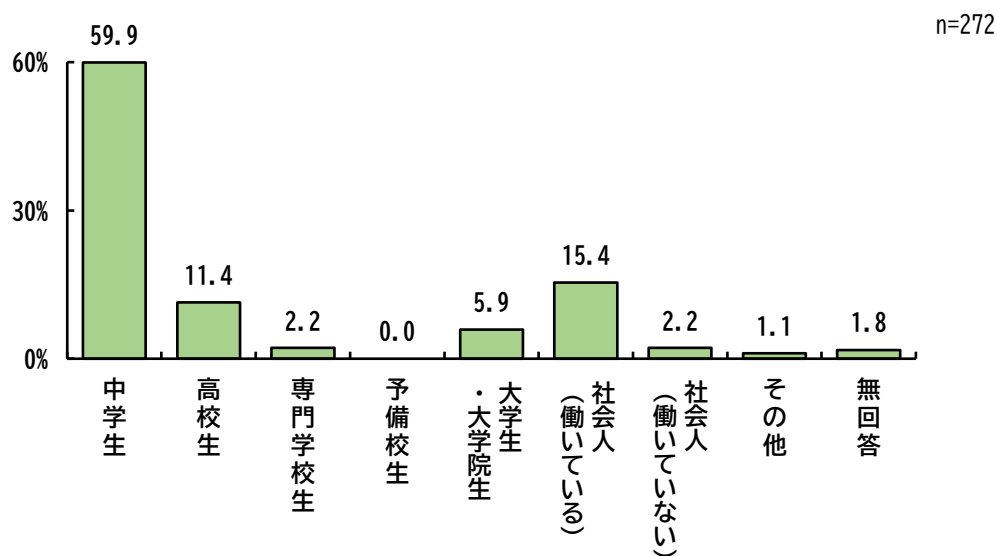
問3 あなたの年齢を教えてください。(数字で記入してください)



年齢では、「13歳」26.1%、「14歳」21.0%が多く、『10代』71.7%、『20代』23.2%となっています。

4 職業

問4 あなたの職業などを教えてください。(あてはまるもの主なもの1つに○)

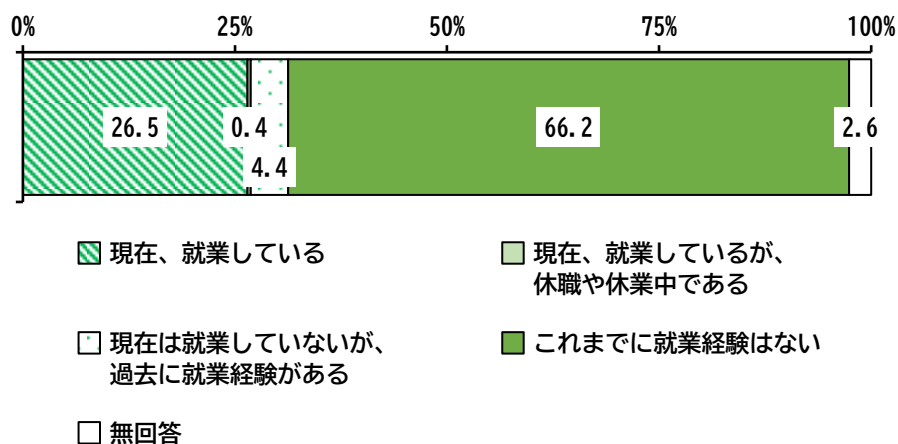


職業では、「中学生」59.9%が最も多く、以下「社会人 (働いている)」15.4%、「高校生」11.4%、「大学生・大学院生」5.9%、「専門学校生」2.2%、「社会人 (働いていない)」2.2%となっています。

5 就業経験

問5 あなたの就業経験についてお答えください。(あてはまるもの1つに○)

n=272

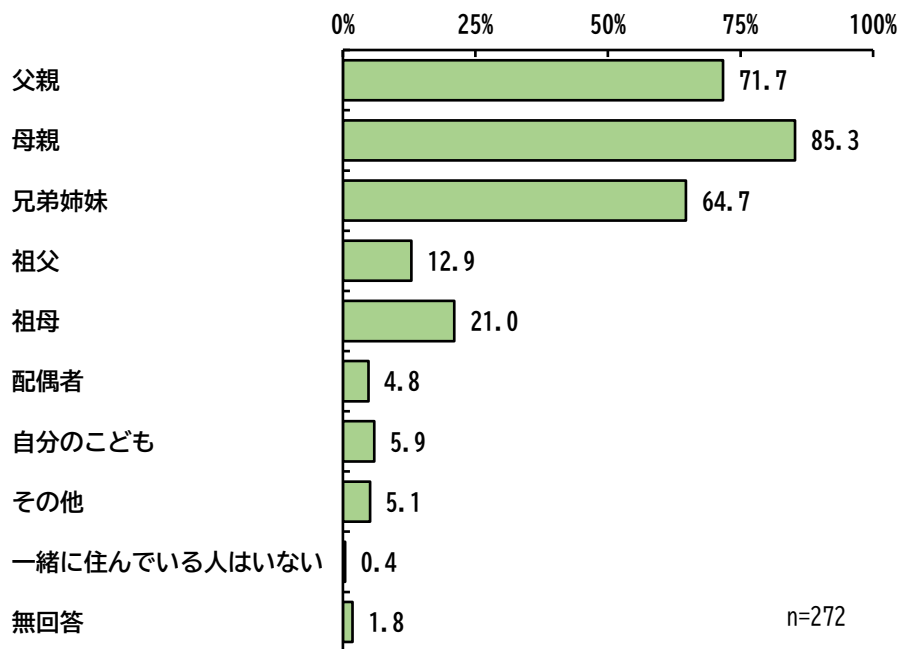


就業経験では、「これまでに就業経験はない」66.2%が最も多く、以下「現在、就業している」26.5%、「現在は就業していないが、過去に就業経験がある」4.4%、「現在、就業しているが、休職や休業中である」0.4%となっています。

『働いている・働いたことのある人』は31.3%となっています。

6 同居者

問6 あなたは誰と一緒に住んでいますか。(あてはまるものすべてに○)

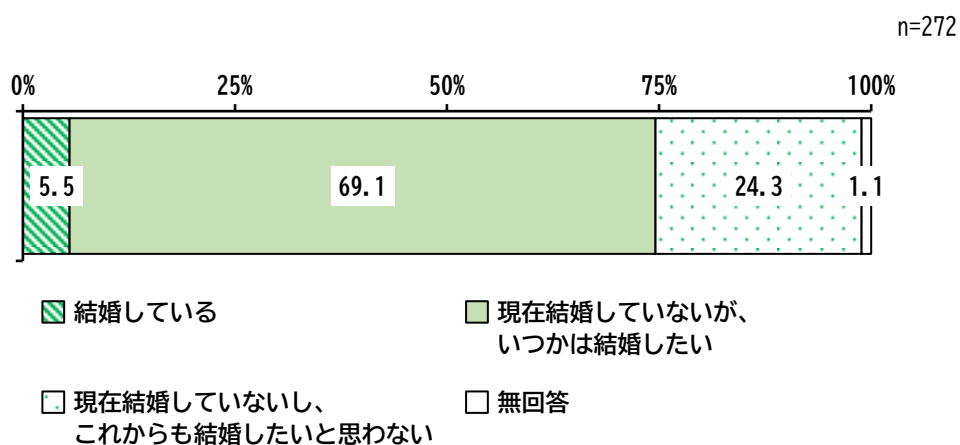


n=272

同居者では、「母親」85.3%が最も多く、以下「父親」71.7%、「兄弟姉妹」64.7%、「祖母」21.0%、「祖父」12.9%となっています。

7 結婚状況

問7 あなたは、結婚していますか。(あてはまるもの1つに○)

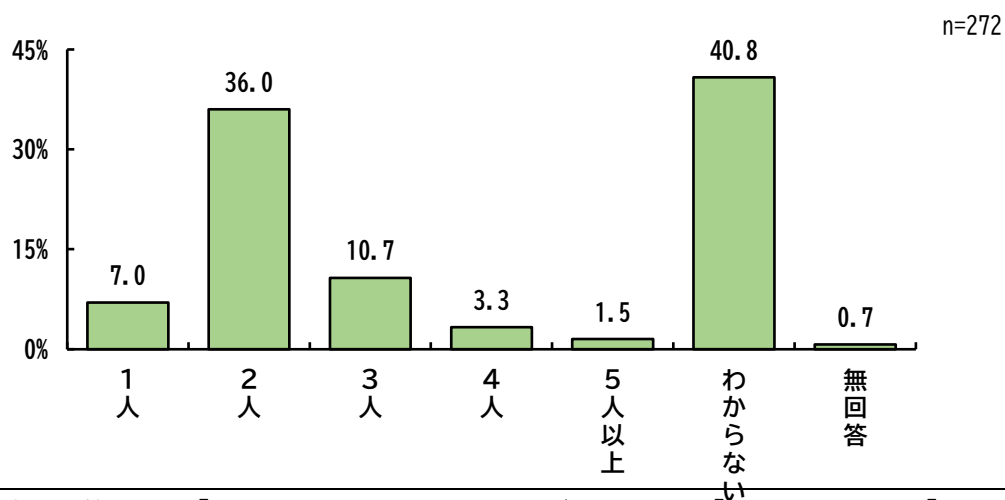


結婚状況では、「現在結婚していないが、いつかは結婚したい」69.1%が最も多く、以下「現在結婚していないし、これからも結婚したいと思わない」24.3%、「結婚している」5.5%となっています。

8 理想の子どもの数

問8 あなたは、将来何人の子どもがほしいですか。

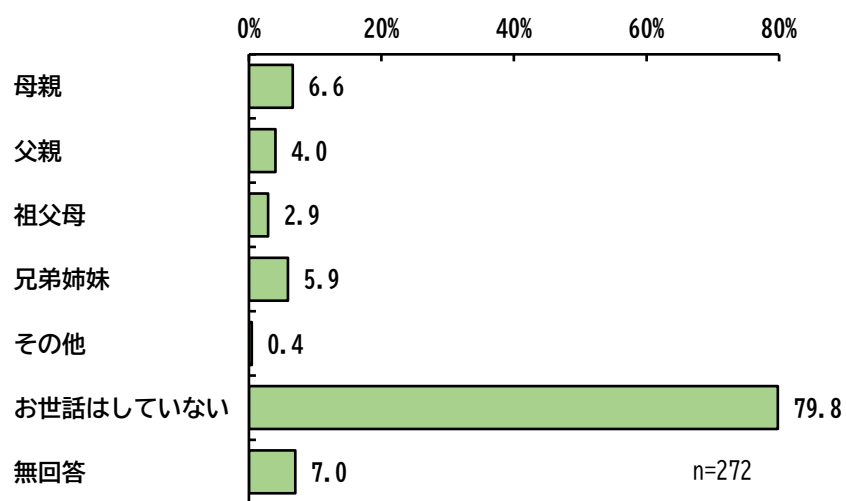
(あなたの理想の子どもの数に1○をつけてください。)



理想の子どもの数では、「わからない」40.8%が最も多く、以下「2人」36.0%、「3人」10.7%、「1人」7.0%、「4人」3.3%となっています。

9 お世話をしている人

問9 家族のうち、あなたがお世話をしている人はいますか。それはどなたですか。あなたからみた続柄でお答えください。(あてはまるものすべてに○)



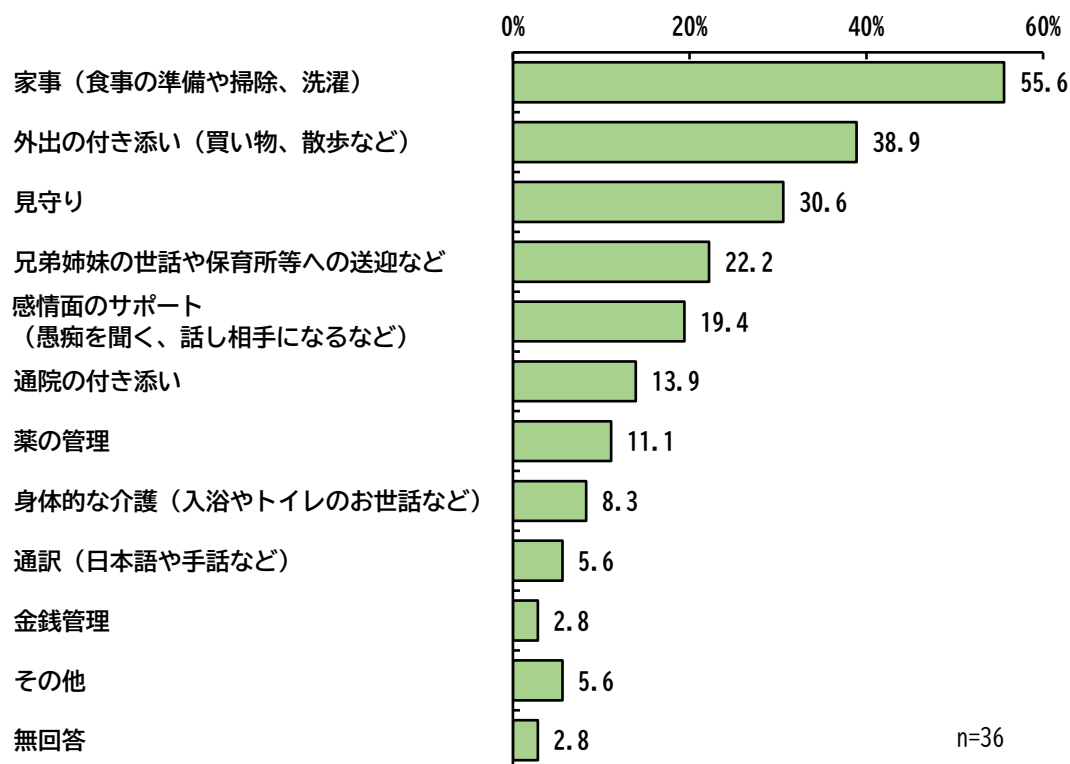
お世話をしている人では、「お世話はしていない」79.8%が最も多く、以下「母親」6.6%、「兄弟姉妹」5.9%、「父親」4.0%、「祖父母」2.9%となっています。

『お世話をしている』は13.2%となっています。

10 行っているお世話の内容

問10 前問で1～5を選んだ人にお聞きします。

あなたが行っているお世話の内容をお答えください。（あてはまるものすべてに○）

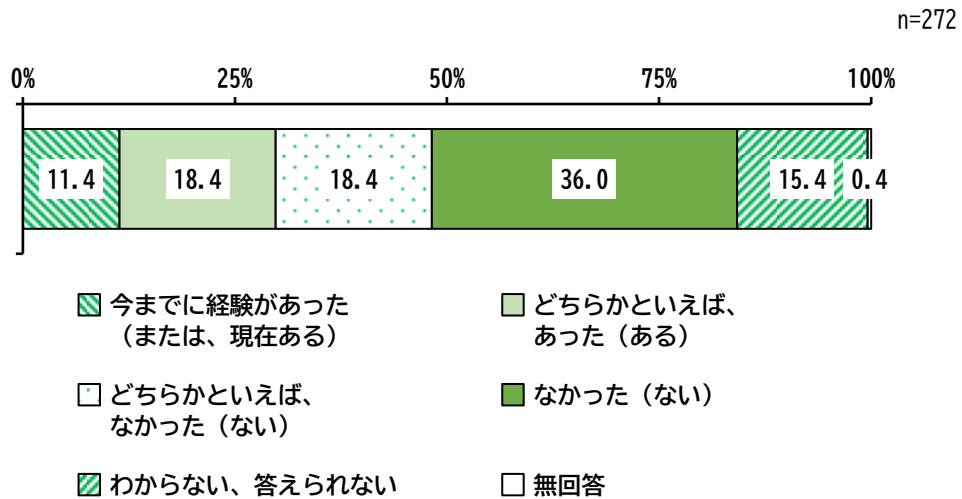


行っているお世話の内容では、「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」55.6%が最も多く、以下「外出の付き添い（買い物、散歩など）」38.9%、「見守り」30.6%、「兄弟姉妹の世話や保育所等への送迎など」22.2%、「感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）」19.4%となっています。

困難に直面した経験について

11 社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験

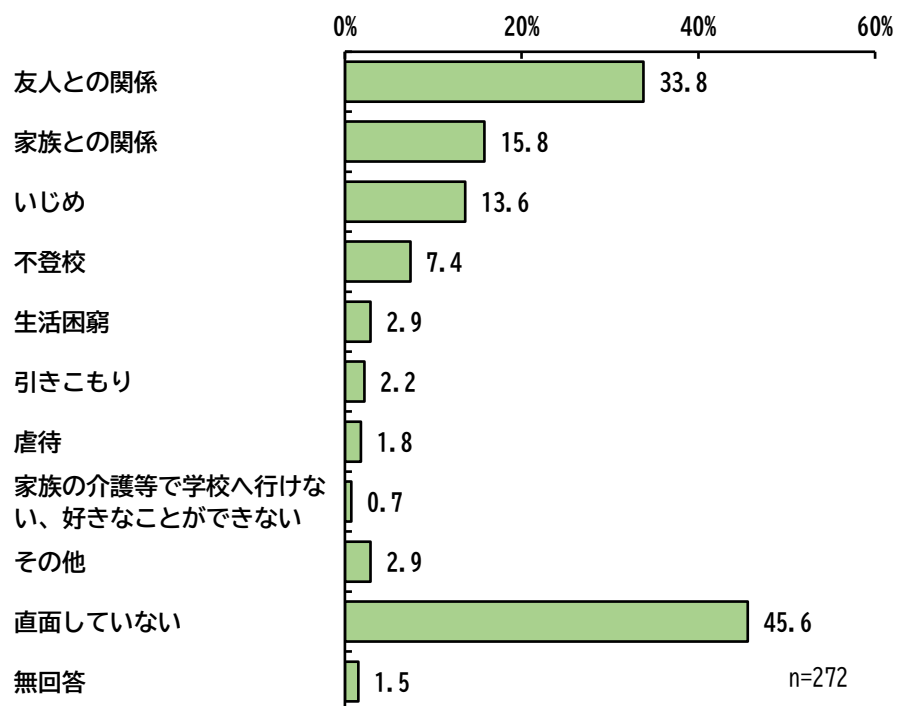
問11 あなたは今までに、社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験がありましたか。または、現在、社会生活や日常生活を円滑に送れていない状況がありますか。最もあてはまるものを選んでください。(あてはまるもの1つに○)



社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験では、「なかった (ない)」36.0%が最も多く、以下「どちらかといえば、あった (ある)」18.4%、「どちらかといえば、なかった (ない)」18.4%、「わからない、答えられない」15.4%、「今までに経験があった (または、現在ある)」11.4%となっています。

12 直面した困難

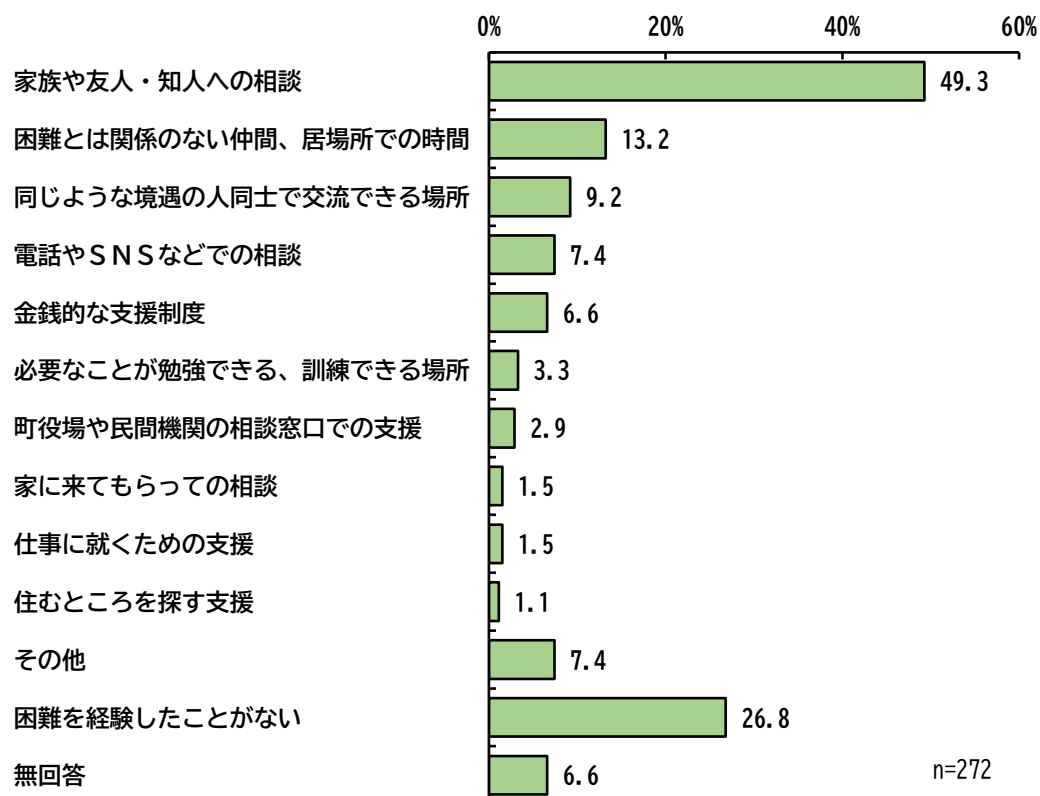
問12 あなたは、次のような困難に直面したことがありますか。（あてはまるものすべてに○）



直面した困難では、「直面していない」45.6%が最も多く、以下「友人との関係」33.8%、「家族との関係」15.8%、「いじめ」13.6%、「不登校」7.4%となっています。

13 役に立った困難の乗り越えた方や望む支援

問13 困難を乗り越えた方は、どういうことが役に立ちましたか。また、困難がまだ続いている方は、どのような支援があればよいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

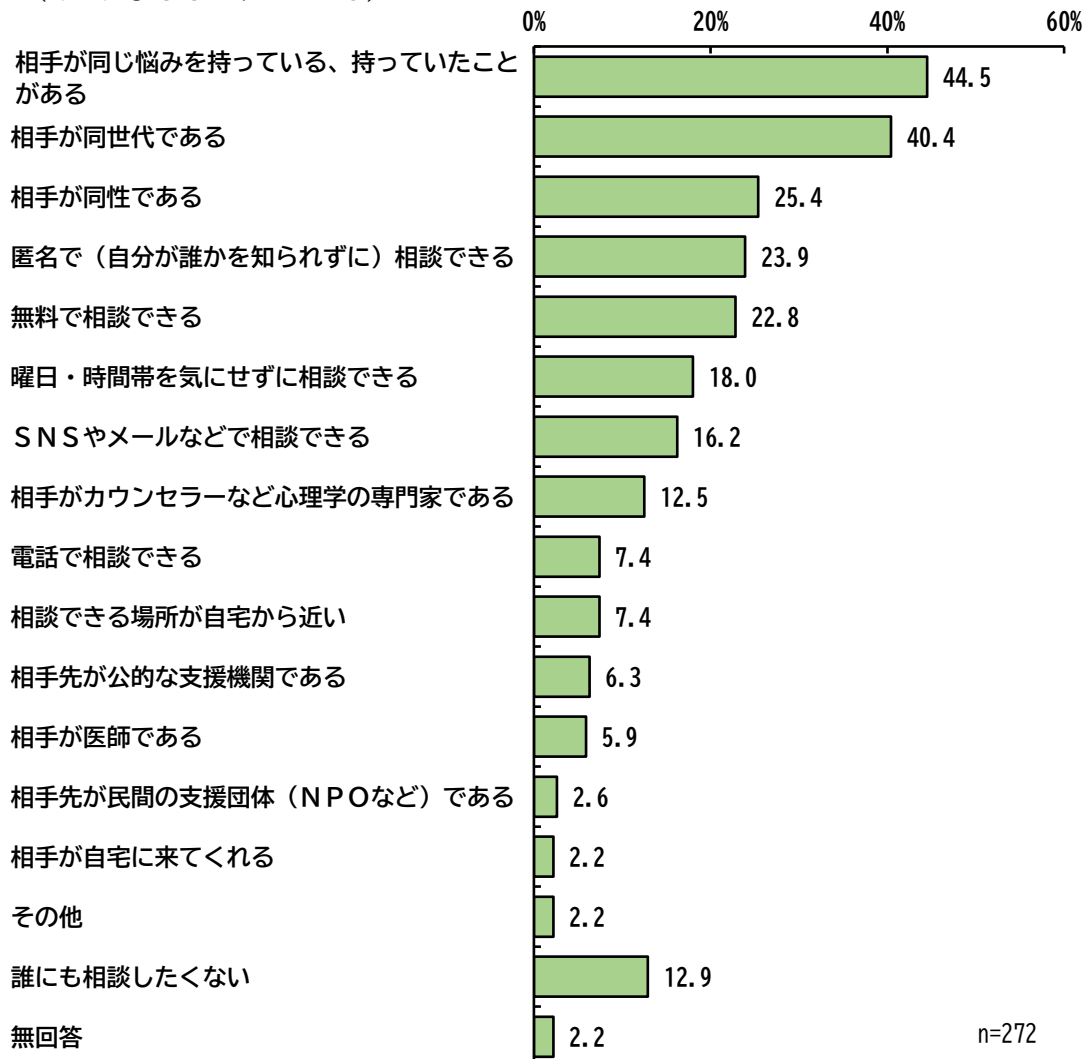


役に立った困難の乗り越えた方や望む支援では、「家族や友人・知人への相談」49.3%が最も多く、以下「困難とは関係のない仲間、居場所での時間」13.2%、「同じような境遇の人同士で交流できる場所」9.2%、「電話やSNSなどでの相談」7.4%、「その他」7.4%となっています。一方、「困難を経験したことがない」は26.8%となっています。

14 家族や知り合い以外に相談したい相手

問14 あなたが、社会生活や日常生活を円滑に送ることができない状態となったときに、家族や知り合い以外に相談するとすれば、どのような相手や場所なら、相談したいと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

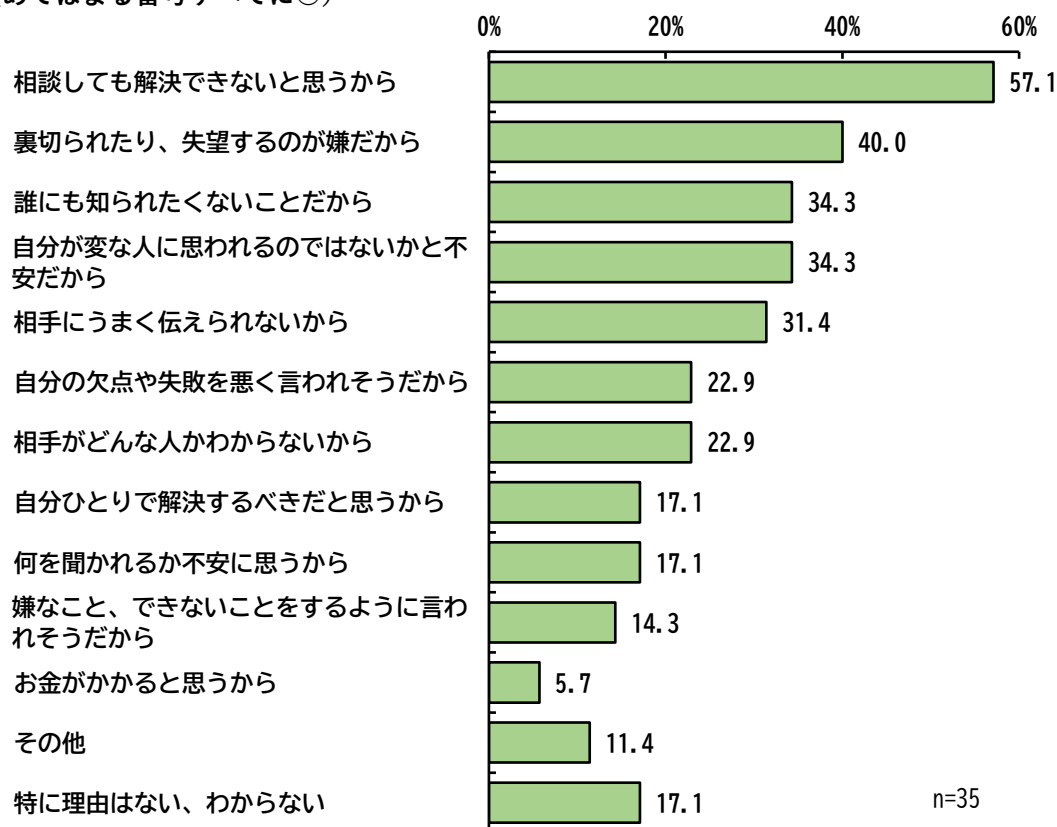


家族や知り合い以外に相談したい相手では、「相手が同じ悩みを持っている、持っていたことがある」44.5%が最も多く、以下「相手が同世代である」40.4%、「相手が同性である」25.4%、「匿名で（自分が誰かを知られずに）相談できる」23.9%、「無料で相談できる」22.8%となっています。

15 相談したくないと思う理由

問15 問14で16を選んだ人にお聞きします相談したくないと思う理由は何ですか。

(あてはまる番号すべてに○)

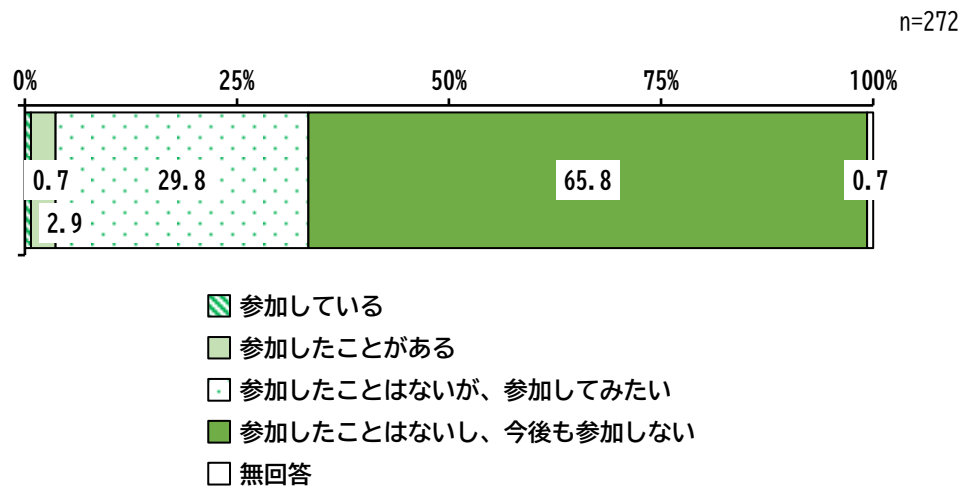


相談したくないと思う理由では、「相談しても解決できないと思うから」57.1%が最も多く、以下「裏切られたり、失望するのが嫌だから」40.0%、「誰にも知られたくないことだから」34.3%、「自分が変な人に思われるのではないかと不安だから」34.3%、「相手にうまく伝えられないから」31.4%となっています。

こども・若者支援について

16 子ども食堂で食事をしたことがあるか

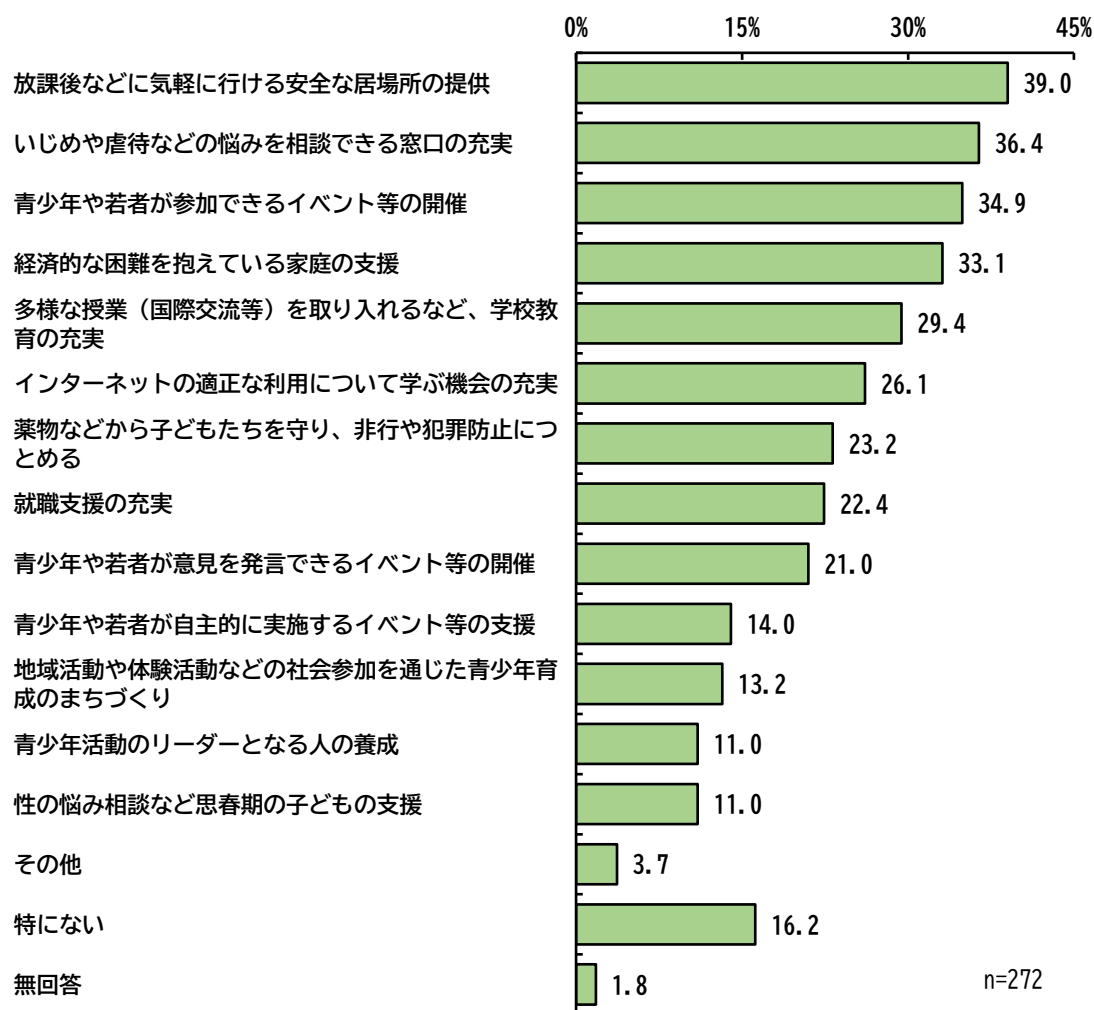
問16 近年、無料又は低額で食事を提供する「子ども食堂」の取組みが増えてきていますが、そうした場所で食事をしたことがありますか。（あてはまるもの1つに○）



子ども食堂で食事をしたことがあるかでは、「参加したことはないし、今後も参加しない」65.8%が最も多く、以下「参加したことはないが、参加してみたい」29.8%、「参加したことがある」2.9%、「参加している」0.7%となっています。

17 必要だと思う子ども・若者支援

問17 どのような子ども・若者支援の充実が必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）



必要だと思う子ども・若者支援では、「放課後などに気軽に行ける安全な居場所の提供」39.0%が最も多く、以下「いじめや虐待などの悩みを相談できる窓口の充実」36.4%、「青少年や若者が参加できるイベント等の開催」34.9%、「経済的な困難を抱えている家庭の支援」33.1%、「多様な授業（国際交流等）を取り入れるなど、学校教育の充実」29.4%となっています。

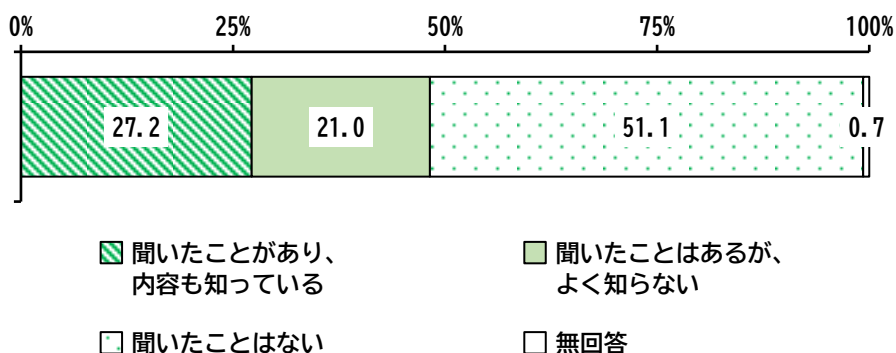
ヤングケアラーについて

18 ヤングケアラーの認知状況

問18 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありましたか。

(あてはまるもの1つに○)

n=272

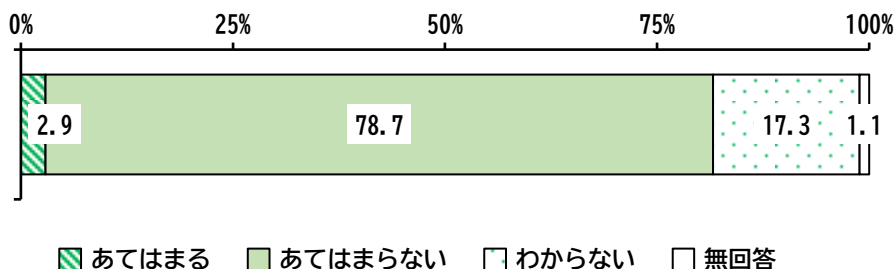


ヤングケアラーの認知状況では、「聞いたことはない」51.1%が最も多く、以下「聞いたことがあります、内容も知っている」27.2%、「聞いたことはあるが、よく知らない」21.0%となっています。

19 ヤングケアラーにあてはまると思うか

問19 あなたは「ヤングケアラー」にあてはまると思いますか。(あてはまるもの1つに○)

n=272



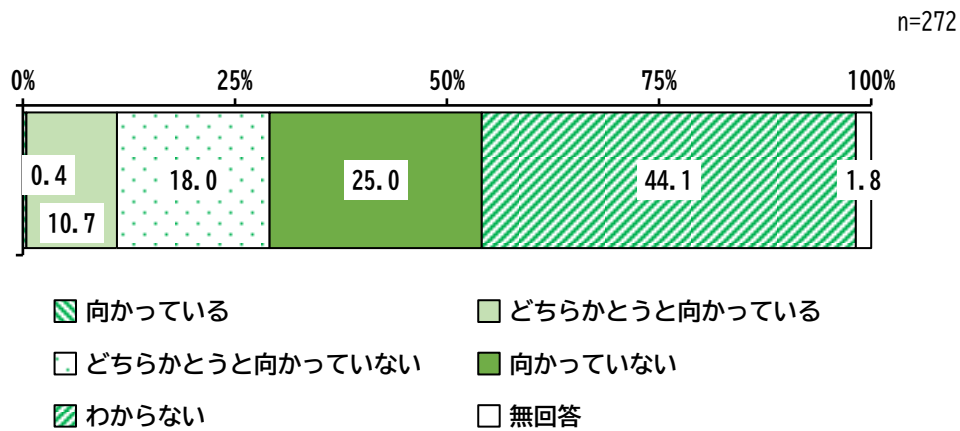
ヤングケアラーにあてはまると思うかでは、「あてはまらない」78.7%が最も多く、以下「わからない」17.3%、「あてはまる」2.9%となっています。

あなたの気持ちや考えについて

20 今の社会は「こどもまんなか社会」の実現に向かっていていると思うか

問20 今の社会は「こどもまんなか社会」の実現に向かっていていると思いますか。

(あてはまるもの1つに○)

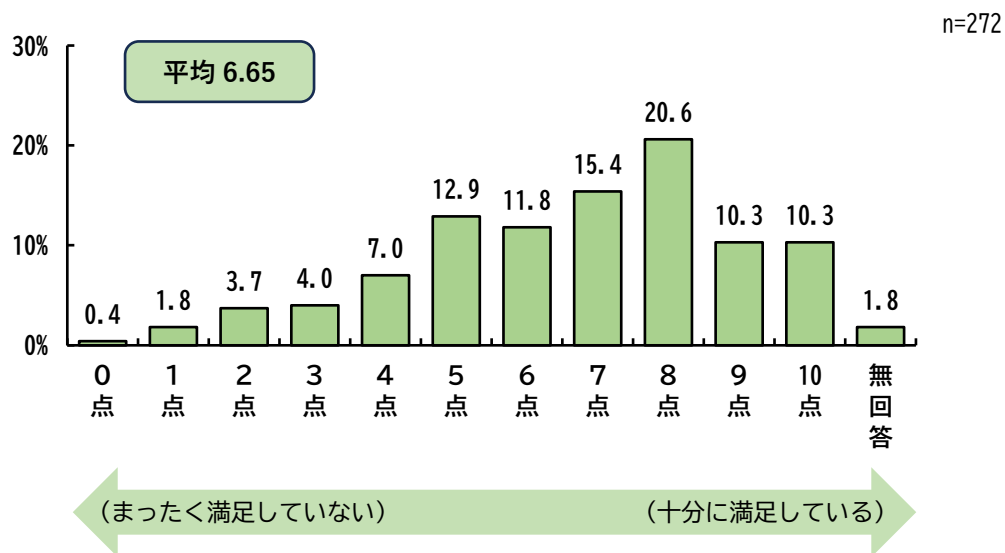


今の社会は「こどもまんなか社会」の実現に向かっていていると思うかでは、「わからない」44.1%が最も多く、以下「向かっていない」25.0%、「どちらかとうと向かっていない」18.0%、「どちらかとうと向かっている」10.7%、「向かっている」0.4%となっています。

21 最近の生活全般の満足度

問21 全体として、あなたはあなたの最近の生活全般に、どのくらい満足していますか。

(あてはまる点数1つに○)

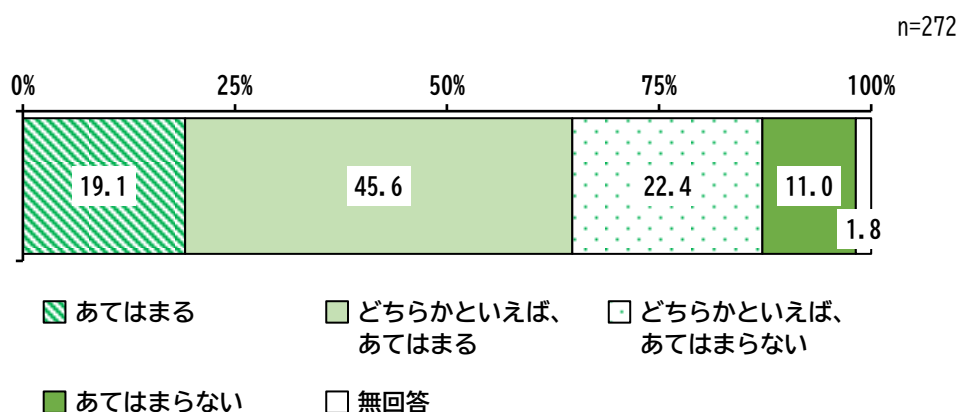


最近の生活全般の満足度では、「8点」20.6%が最も多く、以下「7点」15.4%、「5点」12.9%、「6点」11.8%、「9点」10.3%、「10点 (十分に満足している)」10.3%となっています。

平均は6.65点、『7点以上』は56.6%となっています。

22 今の自分が好きだ

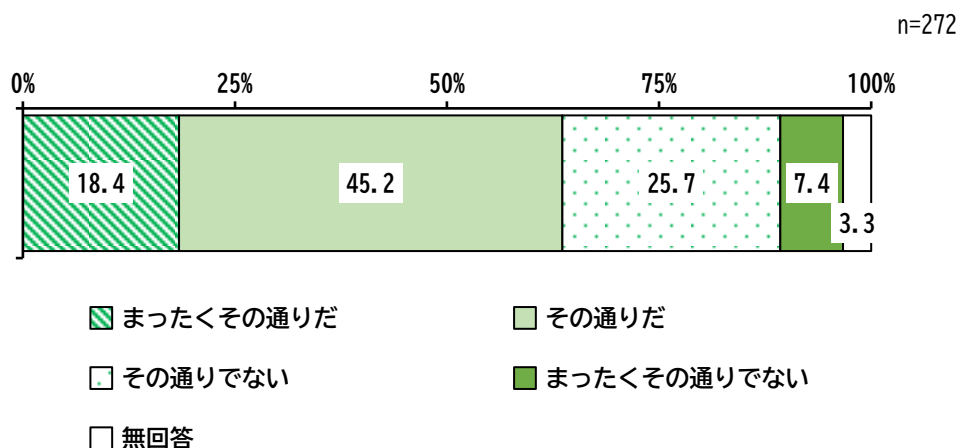
問22 今の自分が好きだ。(あてはまるもの1つに○)



今の自分が好きだでは、「どちらかといえば、あてはまる」45.6%が最も多く、以下「どちらかといえば、あてはまらない」22.4%、「あてはまる」19.1%、「あてはまらない」11.0%となっています。

23 学校ではすぐに友達ができる

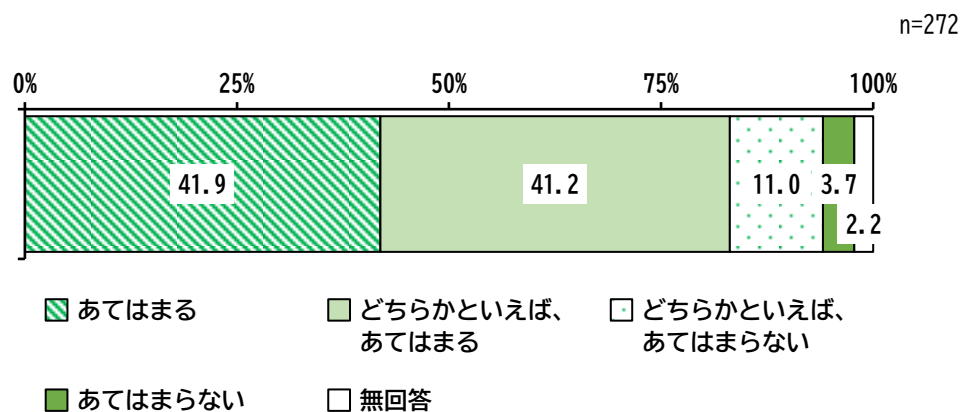
問23 学校ではすぐに友達ができる。(あてはまるもの1つに○)



学校ではすぐに友達ができるでは、「その通りだ」45.2%が最も多く、以下「その通りでない」25.7%、「まったくその通りだ」18.4%、「まったくその通りでない」7.4%となっています。

24 自分には自分らしさというものがあると思う

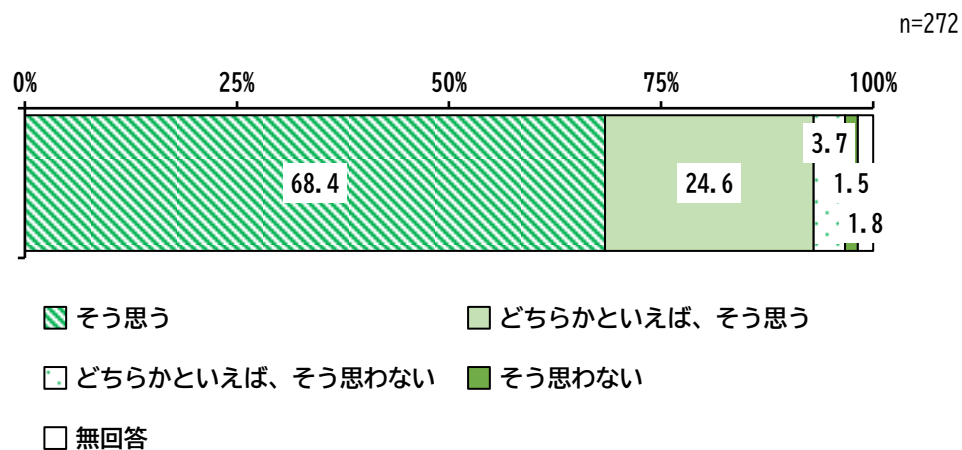
問24 自分には自分らしさというものがあると思う。(あてはまるもの1つに○)



自分には自分らしさというものがあると思うでは、「あてはまる」41.9%が最も多く、以下「どちらかといえば、あてはまる」41.2%、「どちらかといえば、あてはまらない」11.0%、「あてはまらない」3.7%となっています。

25 家族・親族は、困った時に助けてくれると思う

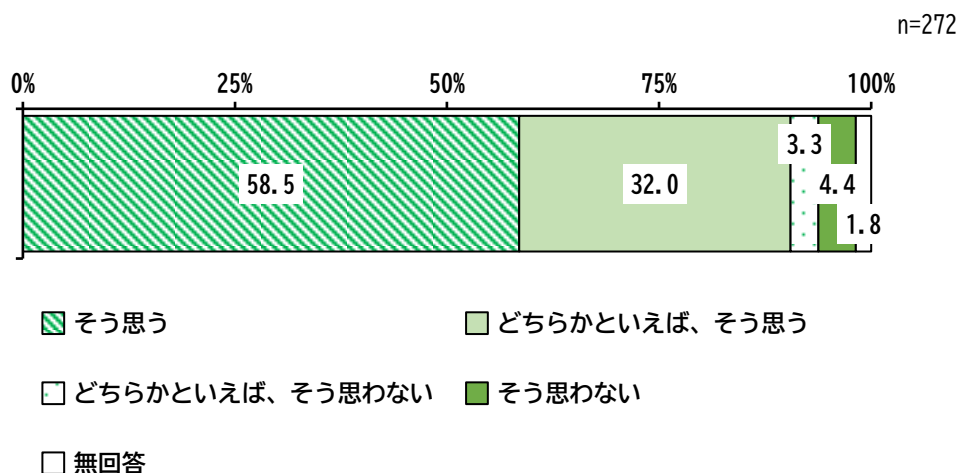
問25 家族・親族は、困った時に助けてくれると思いますか。(あてはまるもの1つに○)



家族・親族は、困った時に助けてくれると思うでは、「そう思う」68.4%が最も多く、以下「どちらかといえば、そう思う」24.6%、「どちらかといえば、そう思わない」3.7%、「そう思わない」1.5%となっています。

26 学校で出会った友人は、困った時に助けてくれると思う

問26 学校で出会った友人（現在通っている学校の友人、かつての同窓生など）は、困った時に助けてくれると思いますか。（あてはまるもの1つに○）

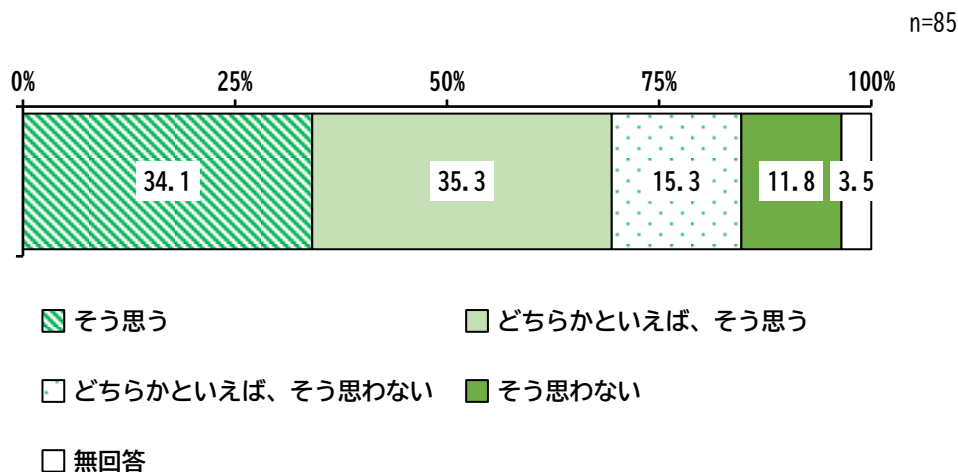


学校で出会った友人は、困った時に助けてくれると思うでは、「そう思う」58.5%が最も多く、以下「どちらかといえば、そう思う」32.0%、「そう思わない」4.4%、「どちらかといえば、そう思わない」3.3%となっています。

27 職場・アルバイト関係の人は、困った時に助けてくれると思う

問27 働いている人・働いていたことがある人にお聞きします。

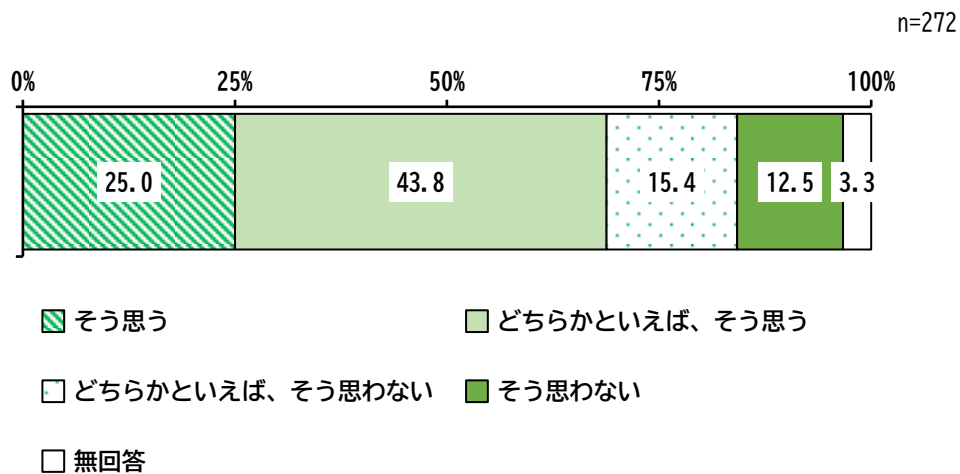
職場・アルバイト関係の人（現在及び過去の職場の同僚・上司・部下、その他仕事の関係で知り合った人など）は、困った時に助けてくれると思いますか。（あてはまるもの1つに○）



職場・アルバイト関係の人は、困った時に助けてくれると思うでは、「どちらかといえば、そう思う」35.3%が最も多く、以下「そう思う」34.1%、「どちらかといえば、そう思わない」15.3%、「そう思わない」11.8%となっています。

28 地域の人は、困った時に助けてくれると思う

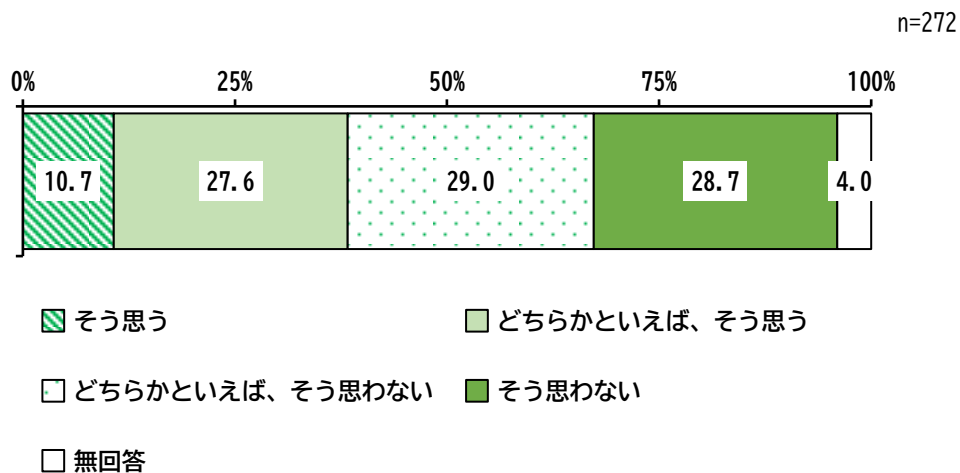
問28 地域の人（近所の人、町内会などの知人、消防団などの地域活動での知人、塾や習い事での知人、参加しているNPO法人など）は、困った時に助けてくれると思いますか。（あてはまるもの1つに○）



地域の方は、困った時に助けてくれると思うでは、「どちらかといえば、そう思う」43.8%が最も多く、以下「そう思う」25.0%、「どちらかといえば、そう思わない」15.4%、「そう思わない」12.5%となっています。

29 インターネット上における人やグループは、困った時に助けてくれると思う

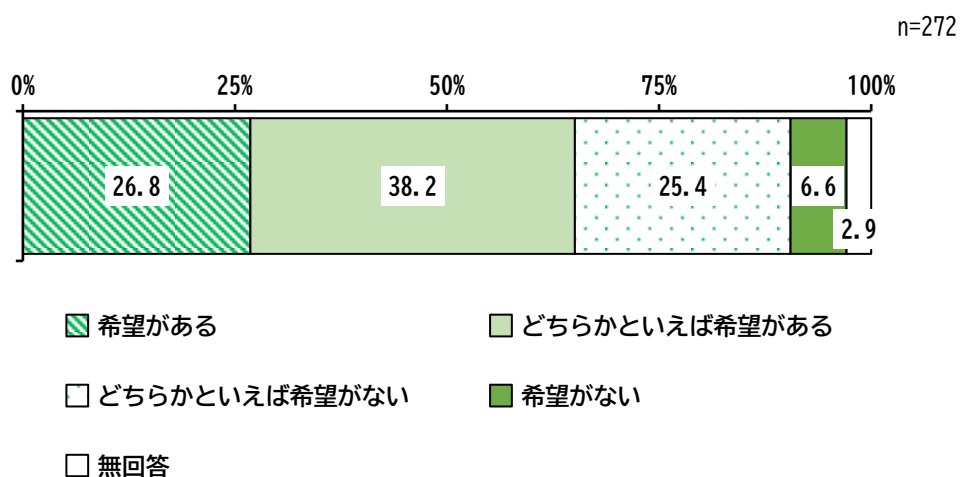
問29 インターネット上における人やグループ（実際には会ったことがなかったり、または、何回か会ったことはあっても、基本的にはインターネット中心の付き合いの人やグループ）は、困った時に助けてくれると思いますか。（あてはまるもの1つに○）



インターネット上における人やグループは、困った時に助けてくれると思うでは、「どちらかといえば、そう思わない」29.0%が最も多く、以下「そう思わない」28.7%、「どちらかといえば、そう思う」27.6%、「そう思う」10.7%となっています。

30 自分の将来について明るい希望を持っているか

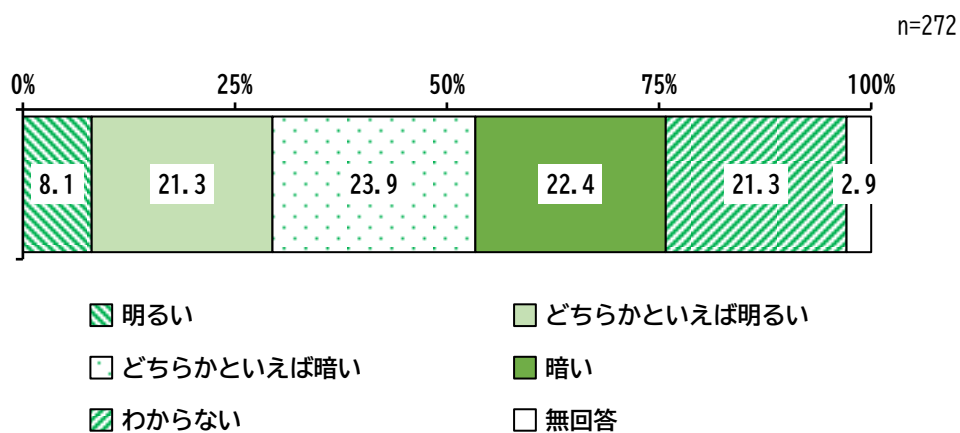
問30 自分の将来について明るい希望を持っていますか。(あてはまるもの1つに○)



自分の将来について明るい希望を持っているかでは、「どちらかといえば希望がある」38.2%が最も多く、以下「希望がある」26.8%、「どちらかといえば希望がない」25.4%、「希望がない」6.6%となっています。

31 湯河原町の将来は明るいと思うか

問31 湯河原町の将来は明るいと思いますか。(あてはまるもの1つに○)

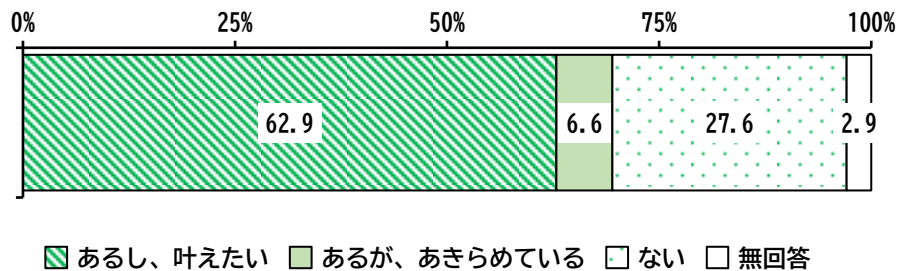


湯河原町の将来は明るいと思うかでは、「どちらかといえば暗い」23.9%が最も多く、以下「暗い」22.4%、「どちらかといえば明るい」21.3%、「わからない」21.3%、「明るい」8.1%となっています。

32 将来希望する夢や進路はあるか

問32 あなたには、将来希望する夢や進路はありますか。(あてはまるもの1つに○)

n=272

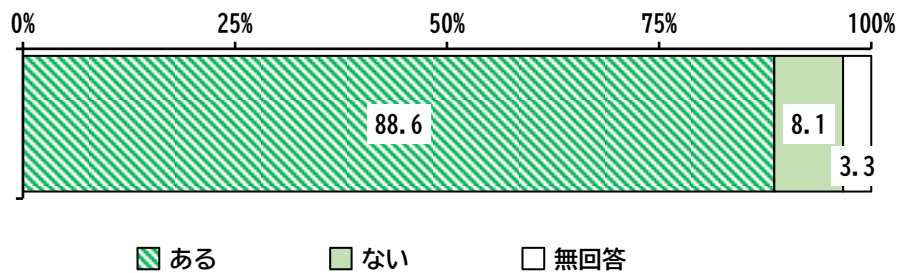


将来希望する夢や進路はあるかでは、「あるし、叶えたい」62.9%が最も多く、以下「ない」27.6%、「あるが、あきらめている」6.6%となっています。

33 安心できる場所はあるか

問33 今のあなたにとって安心できる場所がありますか。(あてはまるもの1つに○)

n=272

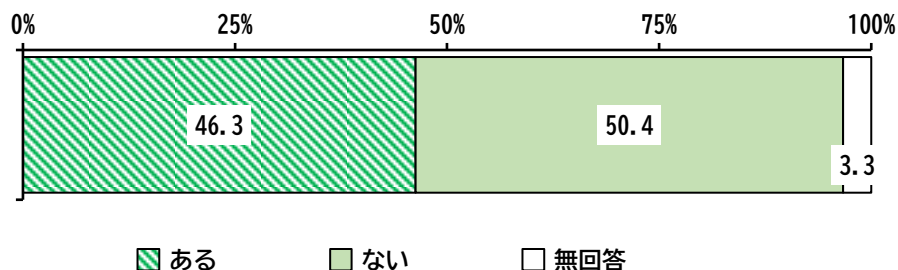


安心できる場所はあるかでは、「ある」88.6%、「ない」8.1%となっています。

34 生きづらさを感じることもあるか

問34 あなたは生きづらさを感じることはありませんか。(あてはまるもの1つに○)

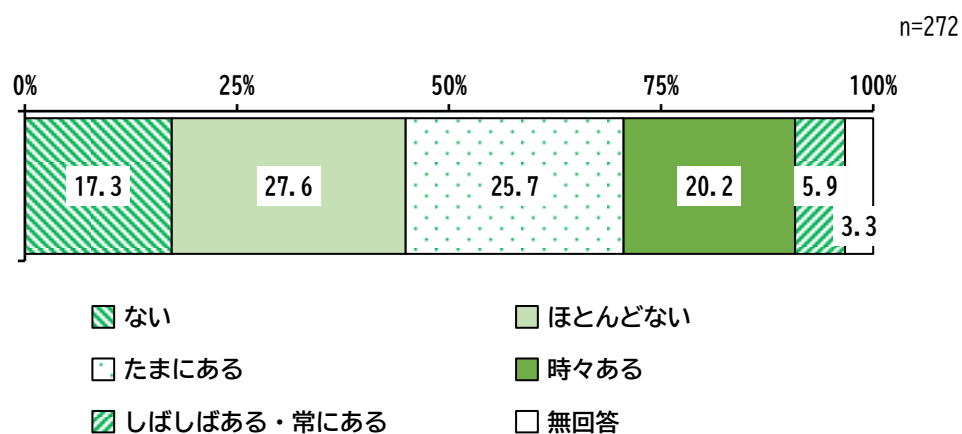
n=272



生きづらさを感じることはないかでは、「ない」50.4%、「ある」46.3%となっています。

35 どの程度、孤独であると感じることがあるか

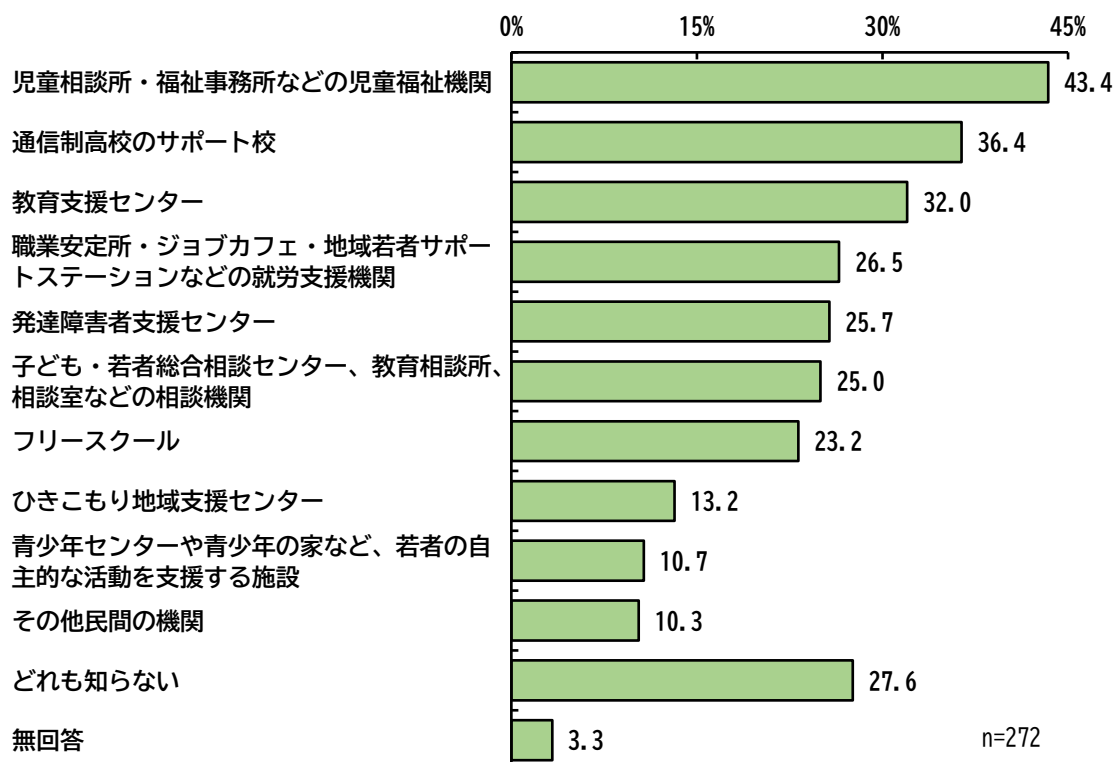
問35 あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。（あてはまるもの1つに○）



どの程度、孤独であると感じることがあるかでは、「ほとんどない」27.6%が最も多く、以下「たまにある」25.7%、「時々ある」20.2%、「ない」17.3%、「しばしばある・常にある」5.9%となっています。

36 知っている子ども・若者を対象とした育成支援機関等

問36 あなたは、子ども・若者を対象とした育成支援機関等を知っていますか。知っている育成支援機関等をすべて選んでください。（あてはまるものすべてに○）

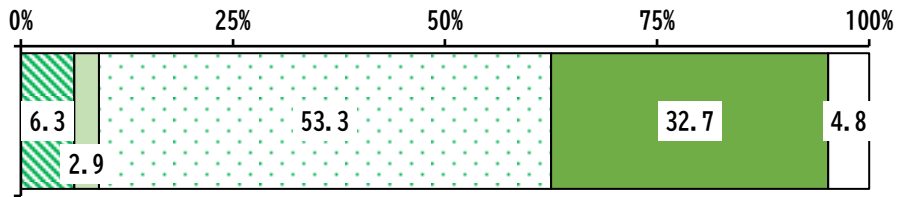


知っている子ども・若者を対象とした育成支援機関等では、「児童相談所・福祉事務所などの児童福祉機関」43.4%が最も多く、以下「通信制高校のサポート校」36.4%、「教育支援センター」32.0%、「職業安定所・ジョブカフェ・地域若者サポートステーションなどの就労支援機関」26.5%となっています。一方「どれも知らない」は27.6%となっています。

37 利用したいと思うか

問37 前問にあるこれらの機関について、利用したいと思いますか。（あてはまるもの1つに○）

n=272



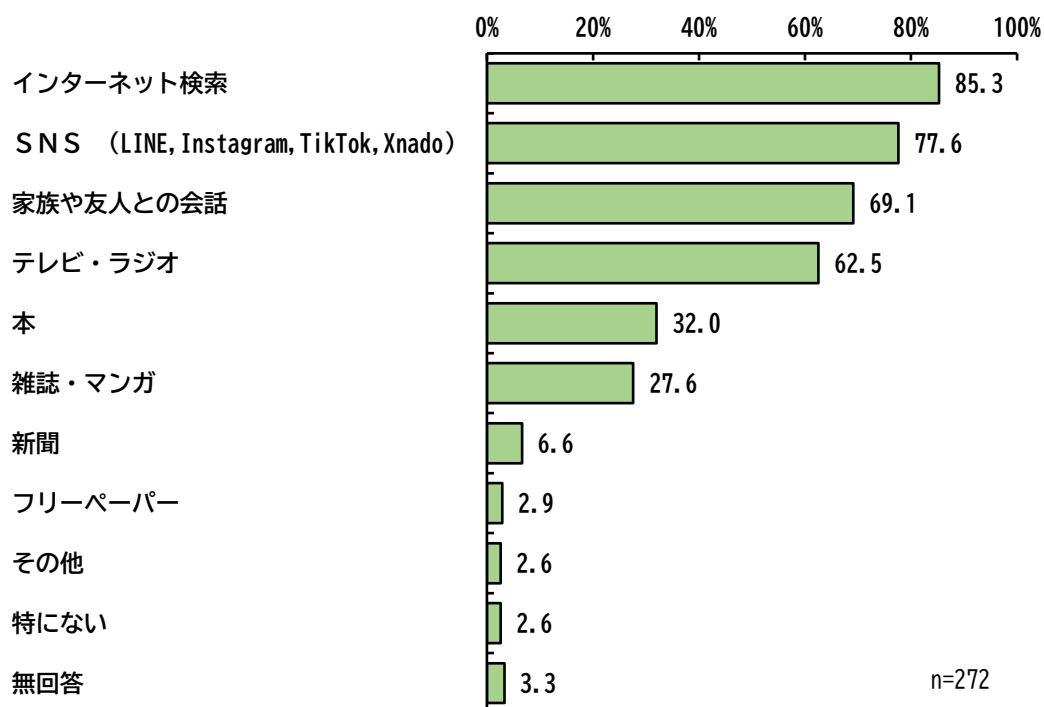
- ☒ 利用したことがあり、今後も何かがあれば利用したいと思う
- ☐ 利用したことはあるが、今後は何かあっても利用したいと思わない
- ☐ 利用したことはないが、今後何かあれば利用したい
- ☒ 利用したことがなく、今後何かあっても利用したいと思わない
- ☐ 無回答

利用したいと思うかでは、「利用したことはないが、今後何かあれば利用したい」53.3%が最も多く、以下「利用したことがなく、今後何かあっても利用したいと思わない」32.7%、「利用したことがあり、今後も何かがあれば利用したいと思う」6.3%、「利用したことはあるが、今後は何かあっても利用したいと思わない」2.9%となっています。

情報の入手先について

38 知識や情報の入手先

問38 あなたは知識や情報をどのように入手していますか。（あてはまるものすべてに○）



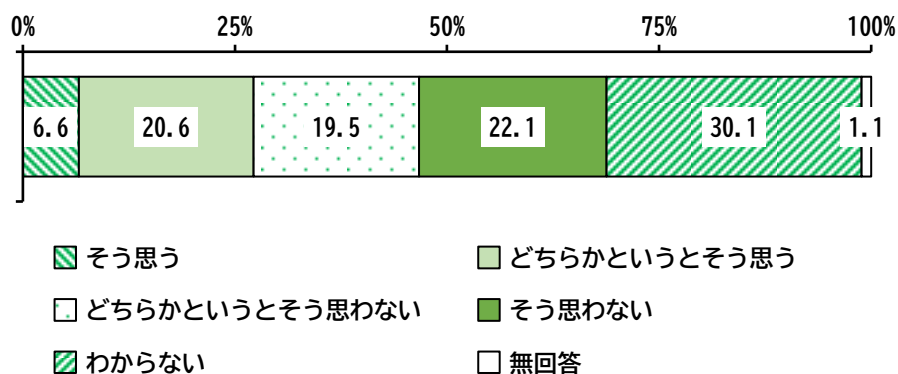
知識や情報の入手先では、「インターネット検索」85.3%が最も多く、以下「SNS (LINE, Instagram, TikTok, Xnado)」77.6%、「家族や友人との会話」69.1%、「テレビ・ラジオ」62.5%、「本」32.0%となっています。

こどもや若者の意見について

39 子ども政策に関して意見を聞いてもらえていると思うか

問39 子ども政策に関して意見を聞いてもらえていると思いますか。(あてはまるもの1つに○)

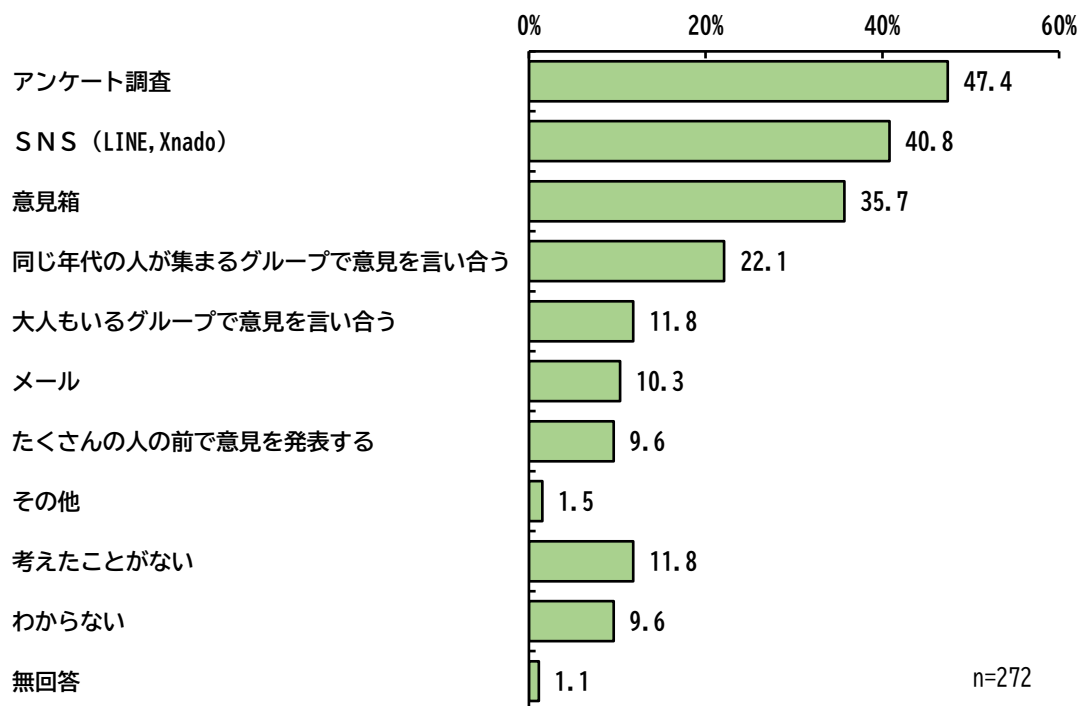
n=272



子ども政策に関して意見を聞いてもらえていると思うかでは、「わからない」30.1%が最も多く、以下「そう思わない」22.1%、「どちらかというと思う」20.6%、「どちらかというと思わない」19.5%、「そう思う」6.6%となっています。

40 住んでいるまちや身のまわりの生活などをより良くするために意見を言う方法

問40 住んでいるまちや身のまわりの生活などをより良くするために、あなたが意見を言う場合、どの方法がよいですか。（あてはまるものすべてに○）



住んでいるまちや身のまわりの生活などをより良くするために意見を言う方法では、「アンケート調査」47.4%が最も多く、以下「SNS (LINE, Xnado)」40.8%、「意見箱」35.7%、「同じ年代の人が集まるグループで意見を言い合う」22.1%、「大人もいるグループで意見を言い合う」11.8%、「考えたことがない」11.8%となっています。

Ⅲ 調査結果 本人調査

41 子どもや若者のための取り組みについての意見・ご要望

問41 子どもや若者のための取り組みについて、ご意見やご要望を自由にご記入ください。

※回答者ごと記入内容が多岐にわたるため、最初の意見をもとに分類しています。

遊ぶ場所について

- 子供はより良くみんなが楽しめるように暮らしてほしいし、若者（大人）の人達には、規則正しい生活をして、健康に生きてほしいと思います。
- イベントを作る。
- 本屋欲しいです。交流しやすいところを作ってほしい
- 子どもが遊べる場所をたくさん作る。体育館部活でももっと練習したい人のために町民体育館がほしい。
- 誰もが楽しめるイベントを作ってほしい
- もっとイベントをやってほしい
- 子どもや若者のための場所をもう少し増やした方が良くと思っています。ゲームセンターやショッピングモール、サイゼリヤなどです。そういったような町の外見を変える意見を集める機会をつくると素敵だと思います。
- 若者が集まって遊ぶことができる場所を増やす。
- 公園に楽しい遊具をつくる
- 年齢関係なく気軽に無料で遊べる所などを設置。
- 子どもや若者が気軽に行けて、本やマンガを買える本屋がほしい。あと、パチンコ屋を広場など子どもが遊べるスペースにしてほしい。湯河原ハロウィンを復活させてもらった上で、他のお祭りと同じようにずっと続けていってほしい。
- 海浜公園と総合運動公園の芝をもっときれいに整備してほしいです。奥湯河原方面のバスの本数減らして、鍛冶屋方面のバスを毎時2本以上にしてほしいです。コンビニ増やしてほしいです。ラウンドワンと映画館もできたらいいなと思ってます。TSUTAYAとユニクロと牛角、くら寿司、町にできたらいいなと5年位思ってます。
- もっと湯河原町に大人だけの場所（パチンコ等）を少なくして、子供がいられる場所を増やしてほしい。
- 若者や子供のイベントを増やした方がいい
- 若者が集まれる場所が欲しい（映画、GU、ゲーセン）。小田原みたいな所がほしい。湯河原なんもない。不便。友達呼べない。まじでなんもない。スナックつぶせ（多い）。ファミマもう2軒ほしい。専門＆大学 交通費支援してほしい。
- 遊ぶ場所が少ないので公園とは別の娯楽施設を建てた方が良くと思っています。学校に行く際の移動費（バス代、電車代など）を無料又は軽減してほしいです。

若者の意見について

- 湯河原も日本も若者が中心ではなく、ご年配の方が中心となって政治などを行っているから、もっと若者が中心となる社会を実現してもらいたい。
- もっと若者の意見そして全体として政治やお金の使い方に気軽に声を届けられるようにしてほしい。
- もっと意見の言いやすい町になると良いと思います。そういう意見を言い合うとか会議とかを学校で友だちとできると気軽に話せると思います。ゲームセンターとか遊ぶ所があると子ども来たり、楽しめると思うので作ってほしいです。学校に行けてない子とかに無理に行かせようとかそういう施設とか逆に負担になると思うので、自分からとか自分が本当に行きたい人だけ行くと良いと思います。
- 政治に関わる人が老人、年寄りでは無く、若い人がやった方が良くと思う。こういうことをする前に早く子どもでも政治に関わるようにした方が良くと思う。
- もっと中学生や高校生の意見を細かく聞いてほしい。湯河原のきれいな自然が知らない所で壊されていて生き物たちの事も考えてほしい。
- いろいろな人に意見を聞く。
- まず今の政治体制を見直すべきだと思う。国会も地方行政も給料が高だけで、景気は変わらず悪化している。国民の税金を国のために使わず、外交や裏金となっている高齢者中心の政治はやめるべき。今の若い世代は自分達にとってかなり生きづらい中生きていると思う。年金制度を賦課方式ではなく、積立方式に変えるべき。若い世代が

高齢者の為に働くのはおかしい。物価を上げるなら賃金も上げるべき、まずは経済・教育から。大学までの学費を免除すべき。

- 子供や若者と大人と一緒に意見を言い合える事が大切
- 湯河原町は高齢者が多いので若者の声は聞いてくれないと思う。いじめられていたとき、教師はもみ消そうとしてきたので信用できない。

経済的な支援について

- 中学校の弁当サービスの半額以上の補助。問17にあることの実施。必ず町民の意見を聞く（反対が多い場合は案を見直す）。1人1台渡されるPCが使いづらく、学校での使用頻度が低いように思える。
- 中学の給食実施について20年以上前から出ているのに予算が年々上がり難しいということをお聞きし、とても残念です。せめて昼食代、お弁当注文の際、町での負担があるとうれしいです。若者たちの為に、もっと手厚い補助があってほしい。
- 子どもの支援をもっと手厚くしてほしい。特に支援金。子どもがほしくても経済的に無理な人が多いと思う。子どもを産めと言うわりに出産にかかるお金が高すぎる。
- 義務教育中だけでもあまり貧富の差を感じられないような、支援対策をしてほしい。支援機関があっても分からない人がいるので、気軽に立ちよれる雰囲気を作ることが大切だと思う(例えば、子供食堂は家でご飯を作ってもらえない、食べれないのかなという偏見がまだある)
- 子育てをするには、金銭的な余裕がなさ過ぎる。医療費が免除されるのは大変有り難いことだが、その他にも他の自治体では様々な取組みがなされていると思うので、参考にしてみてもいいでしょうか
- 医療費を高校生まで無償化してほしい。

安全安心について

- 全員が安心で安全な町づくり、誰もが楽しめる町をつくってください。お願いします
- いじめを受けている子や不登校の子どもにもっと目をむけてほしい。いじめを受けている子や不登校の子たちの安心できる場所を作してほしい。
- 学校の枠組では窮屈さを感じていたり何かしらの問題を抱えている人が、学校という枠組に縛られずに学びや活動ができるオルタナティブがあると良いと思う。それは、支援的・駆け込み寺的ではなく、より自発的にやりたいことに取り組みやすいような、学校教育に縛られない学びを提供できる場所がいくつもあるのが望ましい。
- もっと子どもたちが安全にすごせるような町づくりをしてほしい。(交通面など) 中学校の場所が湯河原町はとても危ない。津波が来てしまったら助かる確率が低くなるので、できるだけ早く変えてほしいです。子どもたちの命がかかってます。おねがいします。
- 湯河原町には健常児しかいないのでしょうか。どんな人でも安心、安全に暮らせる町になったらいいと思います。もっと障害がある人のことも考えた方がいいと思います。
- 湯河原中学校の場所は安全とは思えない。津波の対策はしてない。場所の移動をアンケートとったが却下され、湯河原町民の小学生は湯中に行かせたくないとの意見、中学校側も利益はないと思う。再検討をお願いします

情報の周知について

- 子どものための活動なら子どもに知らせないと意味が無い、今の湯河原は動きをしても(子どものための)子どもに知らせる、知っていないと活動の意味はない、SNSこれは今の子どもが最も利用している最大のツールであるためチラシ、言葉では、金の無駄だがSNSを使用したからと言って利用者が増える事はあまりない、SNSにのせるだけではなくSNSで拡散(バズる)という事が必要不可欠、今の湯河原にはその発想がない。
- 湯河原でやっていることを知らないから広めるための取り組みをした方がいい。
- 子どもや若者のためにどんな取り組みをしているのかよく分からないし、知らないからどんな取り組みをしているのか知る機会が欲しい。
- 何をやっているのか(町独自で)あまり分からないので、広報等にのせたり、町民の目に入るような方法で発信すると良いと思う

Ⅲ 調査結果 本人調査

個人に対する支援について

- 支援の場を用意したって全く意味がない時がある。だって、「自分は大丈夫」と言い聞かせている間に本当は心がもうズタズタになっているから。言いたくても言えない。そんな子はこの世にたくさんいる。その子達みんなを助けてないで、助けれる子を助けて、何の意味があるんですか。
- 子どもや若者に教育、育てやすい福利厚生を手厚いものにして欲しい。
- 子供・若者だけじゃなくて、「障害」や「心の病気」や「疾患」というハンディキャップを背負った子供や若者にもきちんと視点を置いてほしいです。じゃないと、健常者の子供と若者はのびのびと生きられるかもしれませんが「障害」や「心の病気」や「疾患」を持った子供と若者が生きづらくなります。
- 若い子育て世代への支援拡充

働く環境について

- 働く場所（第1・2産業）が少なく、都市部に出ないと働く場所がない。また地方にも関わらず家賃が高い。交通の便も良くない。正直に伝えると子育てをする環境ではないと思う。若年人口を増やすには職・交通・住居の3つが最重要だと考えるので改善してほしい。
- 日本が少子化の中、湯河原では強く早くその影響が出ると考えられる。地元の子供達が湯河原を離れず、又一時的に離れたとしても、帰れる場として、例えば外国企業の工場招致や観光客を多く呼び寄せる為の施策を講じる。それによって地元で働く場があり①子供の頃からなじんだ自然豊かな環境、②物陰にも出やすい素晴らしい環境、プラス（神奈川県内・横浜までも1時間）を子供の頃から将来像の選択肢の優位に位置づけるための取組みが大切。子供が『幼少期～青年期まで湯河原で過ごす』と言うためのビジョン作りへ取組み。

学校に関すること

- 中学校ではハートフル週間という1対1で先生と会話をするのがあるけど小学校にはないから作った方がいいと思う。
- 部活の先生をしっかりしてほしい無参加があるから

その他

- 真剣に取り組んで頂けたらありがたいです。
- みんな平和にいこう
- もっと若者に配慮した町にしたいと思います。
- 夜でも相談できる場所
- 湯河原には「居場所」があり、子どもが過ごしやすい町にはなっていると思う。
- 多様性にすべき。大人だから、親だからと言うのをやめるべき。大人だから何、親だから何、大人なら子どもにはダメって言って自分は遊んでいいの？自分は大人だからって門限破って0時に帰ってきていいの？
- 良いと思う。
- 若者より高齢者支援を。
- 町の将来を担うのは子供であり、その担う人材に対する恩恵や還元が無いのが問題である。同時に、青年は町の外に魅力を感じており、人口が流出する現状に対して、考えた方が良いのではないかと感じる。
- 新しい技術に規制をしないこと。
- 湯河原町は自然豊かで人も優しいのに、観光名所を聞かれても自信をもって答えられない。唯一オススメだった足湯（独歩の湯）もなくなり、楽しい所がない。若者が湯河原町に「Uターン」してくる事は難しいと思う。（就職先も考えるとなおさら）
- 特定の世帯だけではなく同年代ならば世帯問わず、分けへだてなく接するべきであると考えてる。
- 紙媒体でのアンケート調査は時代遅れです。また、返信用封筒も含め、お金をかけすぎです。若者へのアンケートなので、一家に一枚QRコードの紙を送付するだけです。集計も一瞬で終わります。"Google form"を使うと無料でできます。2024年令和の時代です。いい加減変わって下さい。お願いします。
- 町長を変えるべきだと思います。
- 自分は必要とされていると思えるような、頼りにしてもらえる場所が欲しいです。

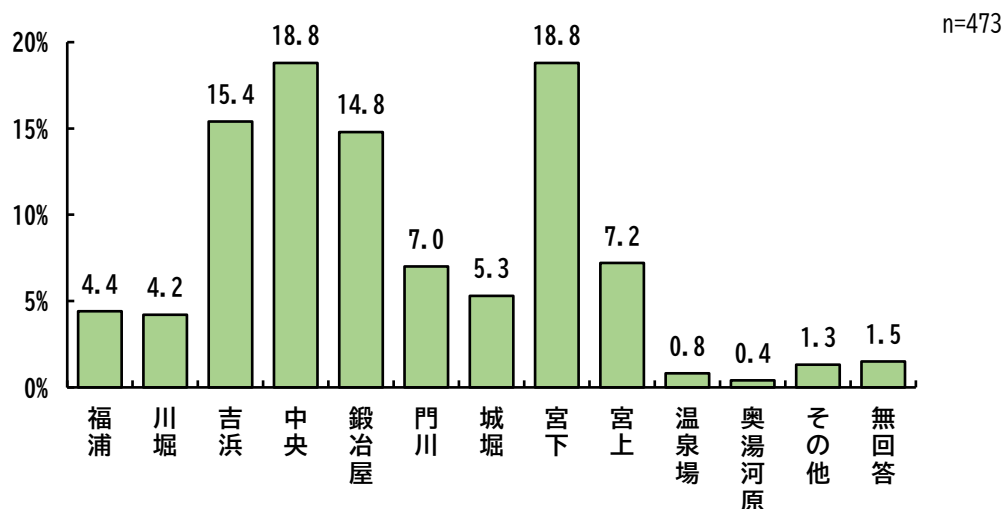
- 頑張ってください。
- このアンケート調査がどうなるのか、結果や湯河原町こども計画の実際を事前には知っておかないと意味のないアンケートのような気がしました。また、子ども・学生を育てている親にも同様のアンケートを実施すべきだと思います。そしてアンケートの意図・目的を明確に開示しないと、若者のニーズは見えてこないと思います。
- 同年代の女性は、ほぼ湯河原を出て生活し、戻って来る予定の人もいない。理由として左記がある。子育て支援の不足（あったとしても認知度が低い）産婦人科が無い。治安の悪さ。特に中学～高校生。湯河原中学のイメージも悪い。実際自分も行っていたがまともに勉強している人が少なく、いじめも多かった。自分の子供は通わせたくないと考えてしまう。良くなったとしても、ウワサ程度のため実際がわからない。遠方の通勤補助がないため、都内に仕事があっても通えない（新幹線補助等）高齢の方が多く、若者の支援は少ないイメージ。公園も、子供のためでない。リハビリ器具があり、老人のため
- 私は障害者です。将来お母さんが死んだら、住む所はどこですか
- 公教育の安定。つながれる場所を増やす。産前・産後の支援の充実
- 私が中学に居た頃にも言われていた中学給食の導入を進めてほしいと感じます。私の周りや私の母の周りでも、度々話題に上がるため、多くの人が関心を持っていると実感します。また、高齢の方々が多く、そちらに力を入れるのはいいことだと思いますが、同時に若い世代へのサポートも見てほしいです。進学について県内の高校に進む成績優秀者への学費補助を県外の学校に進む子達へも広げてほしいです。私立の学校、県外、というだけでも、お金がかかるのに一部の「成績優秀者」へ限定されていたりする補助が多いため、少しでも多くの子が、支援を受けられるようになるといいと感じます
- 湯河原町として力を入れる教育分野がほしい。個人的には、文豪や芸術家に愛された湯河原だからこそ、芸術的な資質、能力を育むフィールドワーク、教室を開いてほしい。また、ただ開くだけでは発信力に弱いので、外部教師を呼んだり、町興しに結びつけてほしい。例えば沼津では、トンネル等に地元の中学生の絵がプリントされていたりする。モニュメント建造ではなく町民で作り上げるアートがあっても良いと思うし、話題性はあると感じる
- 子供をつくりたくても育てる環境も制度も十分でない。低い所得の勤務先できつい生活。老人には良い町だと思うが、参加もない町に正直未来はなく、衰退していくと思う。若者が暮らす町のために支援すべき
- 将来への投資として、子供達へ多く財源を投じていただきたい。子育てしやすい町は将来も明るいと思います。
- 高齢者が多いので仕方ないと思うが、子供や若者に優しい町ではないので少子化は避けられないと思う。交通の便も悪いので私自身、就職のタイミングで出ようと考えています。
- 誰かの「ために」ということに満足せず、本当にその人達のためになっているのか考えてほしいです。偏見ですが、大人はやっていること、特に誰かのためにやっていることに満足し本当にためになっていないイメージがあります。それと頑張ってる所もアピールした方が良いと思います。
- おむつの支援やチャイルドシート支援等、とても助かっています。しかし宮上地区には公園が少なく遊べる場所がありません。又、小さい子を育てていますが、よだれかけ（スタイ）すら湯河原で売っている所がありません。歩けるようになって、靴を買うにも小田原まで行かないといけなのがとても不便と思います。

IV 調査結果 保護者調査

世帯のことについて

1 居住地区

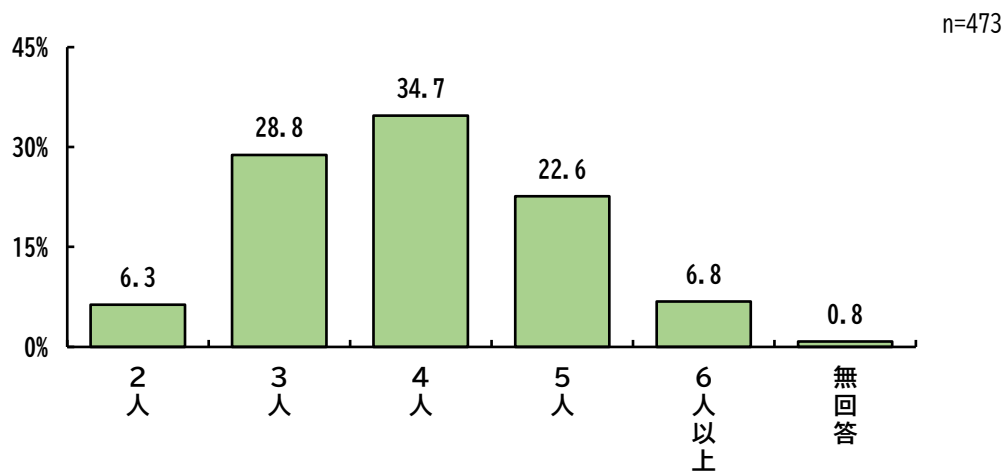
問1 お住まいの地区をお答えください。(あてはまるもの1つに○)



居住地区では、「中央」18.8%や「宮下」18.8%が多く、「吉浜」15.4%、「鍛冶屋」14.8%、「宮上」7.2%となっています。

2 同居者人数

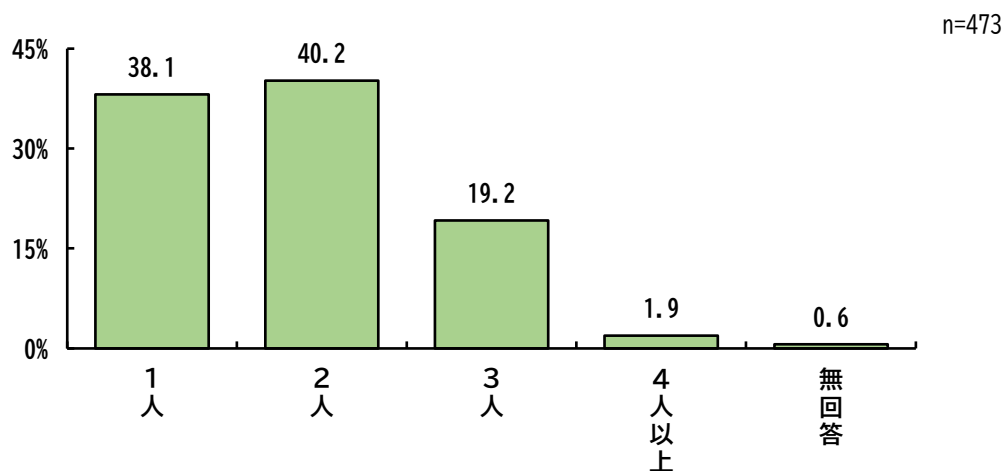
問2 お子さんと同居し、生計を同一にしているご家族の人数をお答えください。



同居者人数では、「4人」34.7%が最も多く、以下「3人」28.8%、「5人」22.6%、「6人以上」6.8%、「2人」6.3%となっています。

3 18歳以下の同居者数

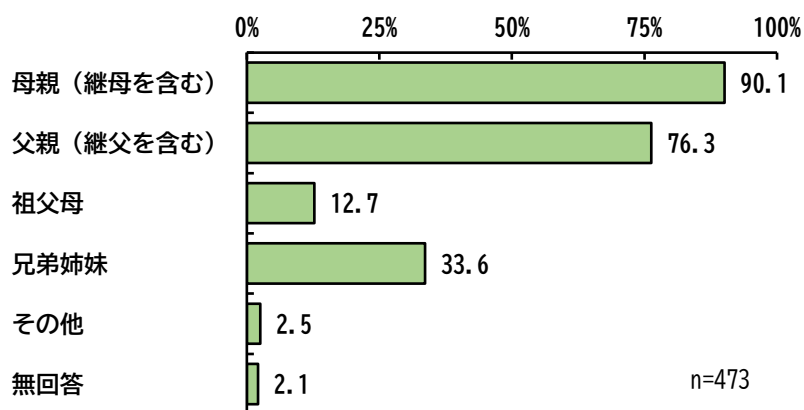
問3 問2で回答したご家族のうち、令和6年1月1日現在、0歳から18歳以下の人の人数をお答えください。



18歳以下の同居者数では、「2人」40.2%が最も多く、以下「1人」38.1%、「3人」19.2%、「4人以上」1.9%となっています。

4 同居家族

問4 問2で回答した生計を同一にしているご家族は、お子さんから見てどの方ですか。
(あてはまるものすべてに○)



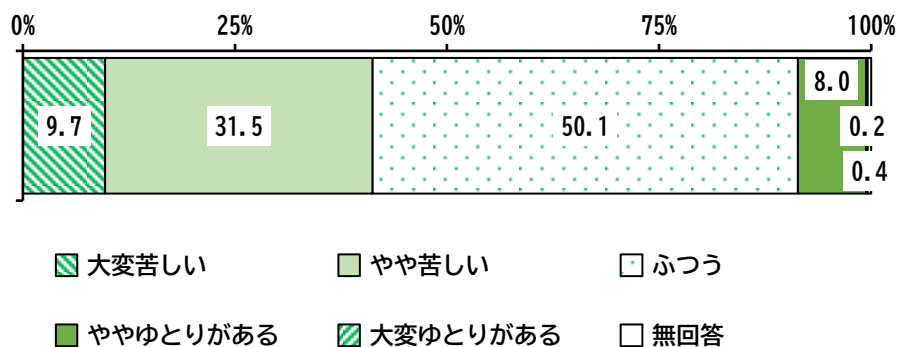
同居家族では、「母親（継母を含む）」90.1%が最も多く、以下「父親（継父を含む）」76.3%、「兄弟姉妹」33.6%、「祖父母」12.7%、「その他」2.5%となっています。

5 現在の暮らしの状況

問5 あなたは、現在の暮らしの状況を総合的に見て、どのように感じていますか。

(あてはまるもの1つに○)

n=473

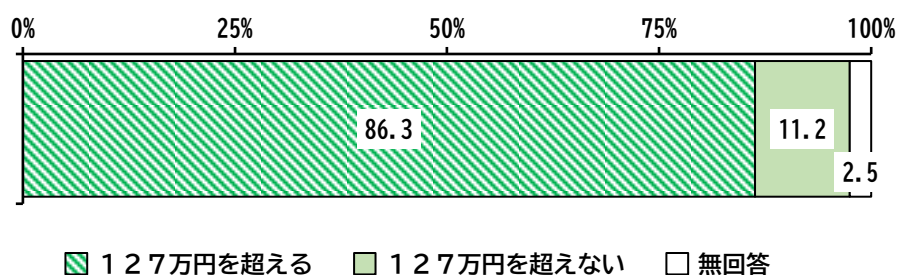


現在の暮らしの状況では、「ふつう」50.1%が最も多く、以下「やや苦しい」31.5%、「大変苦しい」9.7%、「ややゆとりがある」8.0%、「大変ゆとりがある」0.2%となっています。

6 昨年世帯の収入

問6 昨年（令和5年1月～12月）のあなたの世帯の収入（税金や社会保険料等を差し引いた、いわゆる手取り収入）の合計額は、127万円を超えますか。（あてはまるもの1つに○）

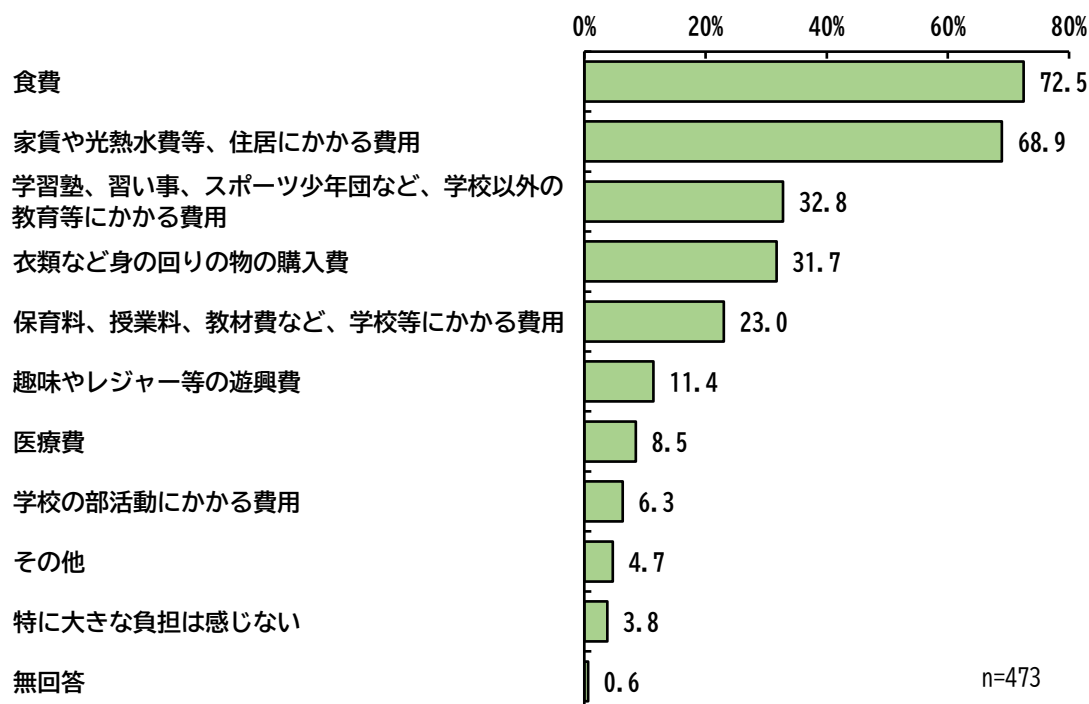
n=473



昨年世帯の収入では、「127万円を超える」86.3%、「127万円を超えない」11.2%となっています。

7 家計の支出の中で負担が大きいと感じるもの

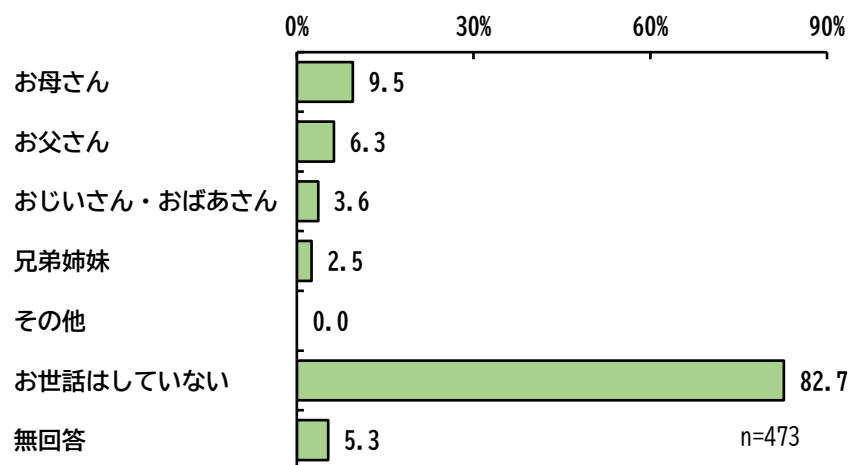
問7 家計の支出の中で、負担が大きいと感じるものは何ですか。（あてはまるものすべてに○）



家計の支出の中で負担が大きいと感じるものでは、「食費」72.5%が最も多く、以下「家賃や光熱水費等、住居にかかる費用」68.9%、「学習塾、習い事、スポーツ少年団など、学校以外の教育等にかかる費用」32.8%、「衣類など身の回りの物の購入費」31.7%、「保育料、授業料、教材費など、学校等にかかる費用」23.0%となっています。

8 子どもが世話をしている家族

問8 家族のうち、お子さんがお世話をしている人はいますか。それはどなたですか。お子さんからみた続柄でお答えください。（あてはまるものすべてに○）

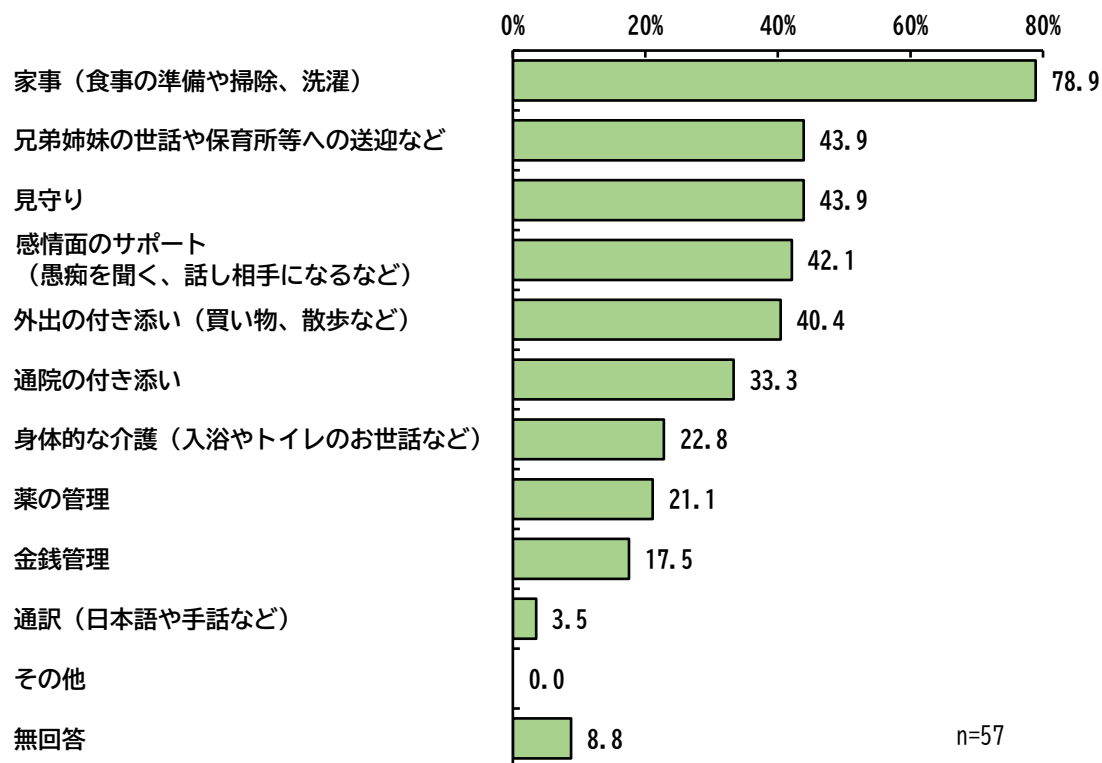


子どもが世話をしている家族では、「お世話はしていない」82.7%と多く、「お母さん」9.5%、「お父さん」6.3%、「おじいさん・おばあさん」3.6%、「兄弟姉妹」2.5%となっています。

9 子どもが行っている世話の内容

問9 問8で1～5を選んだ人にお聞きします。

お子さんが行っているお世話の内容をお答えください。（あてはまるものすべてに○）



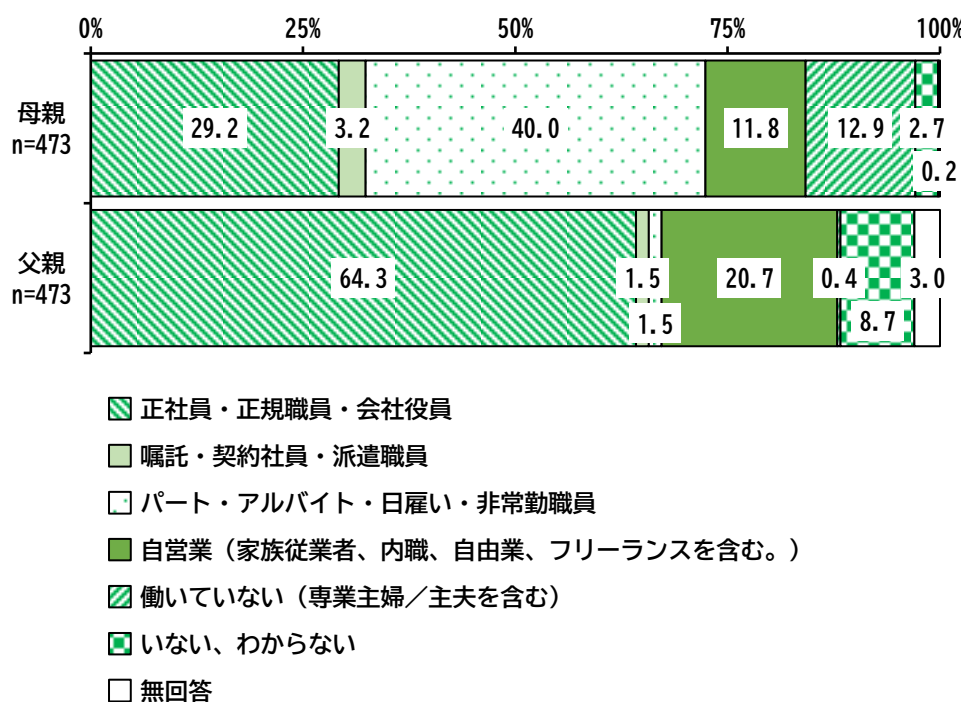
子どもが行っている世話の内容では、「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」78.9%が最も多く、以下「兄弟姉妹の世話や保育所等への送迎など」43.9%、「見守り」43.9%、「感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）」42.1%、「外出の付き添い（買い物、散歩など）」40.4%となっています。

母親・父親の就労について

10 母親・父親の就労状

問10・11 お子さんの母親・父親の就労状況について、あてはまるものをお答えください。

(あてはまるもの1つに○)

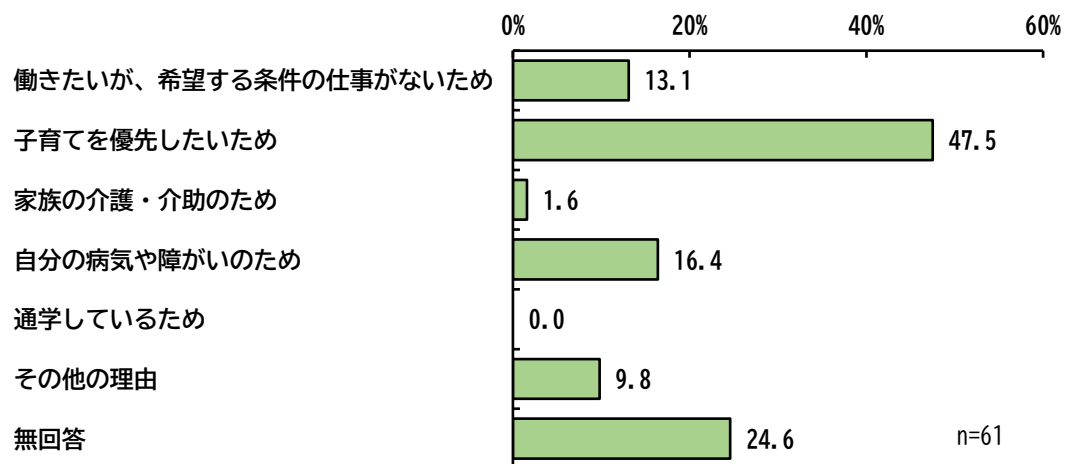


母親の就労状況では、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」40.0%が最も多く、以下「正社員・正規職員・会社役員」29.2%、「働いていない（専業主婦／主夫を含む）」12.9%、「自営業（家族従業者、内職、自由業、フリーランスを含む。）」11.8%、「嘱託・契約社員・派遣職員」3.2%となっています。

父親の就労状況では、「正社員・正規職員・会社役員」64.3%が最も多く、以下「自営業（家族従業者、内職、自由業、フリーランスを含む。）」20.7%、「いない、わからない」8.7%、「嘱託・契約社員・派遣職員」1.5%、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」1.5%となっています。

11 母親が働いていない理由

問11 母親が働いていない理由を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

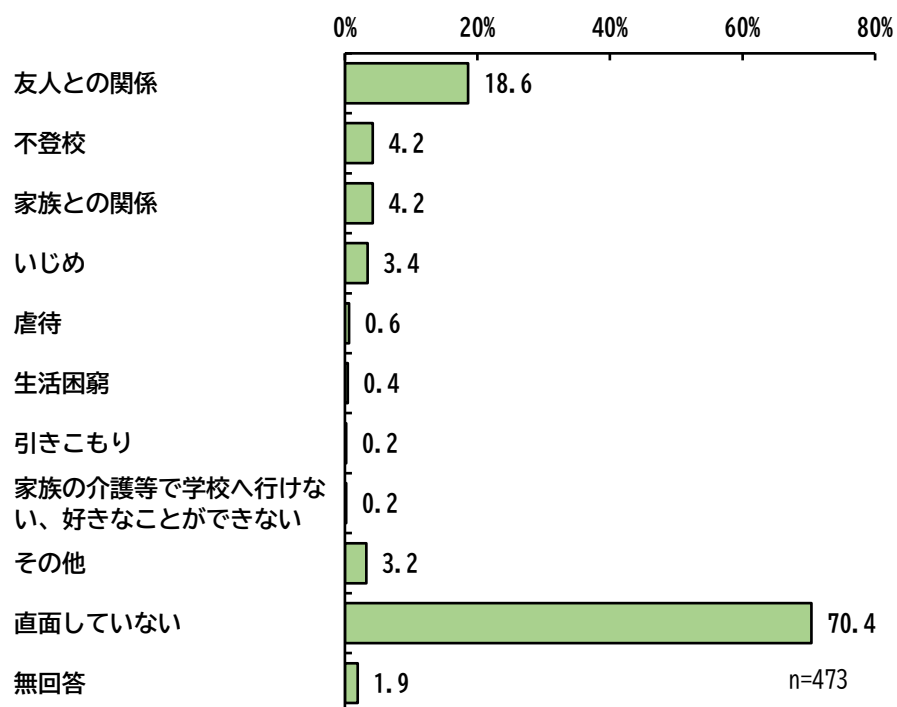


母親が働いていない理由では、「子育てを優先したいため」47.5%が最も多く、以下「自分の病気や障がいのため」16.4%、「働きたいが、希望する条件の仕事がないため」13.1%、「その他の理由」9.8%、「家族の介護・介助のため」1.6%となっています。

お子さんが困難に直面した経験について

12 子どもが直面した困難

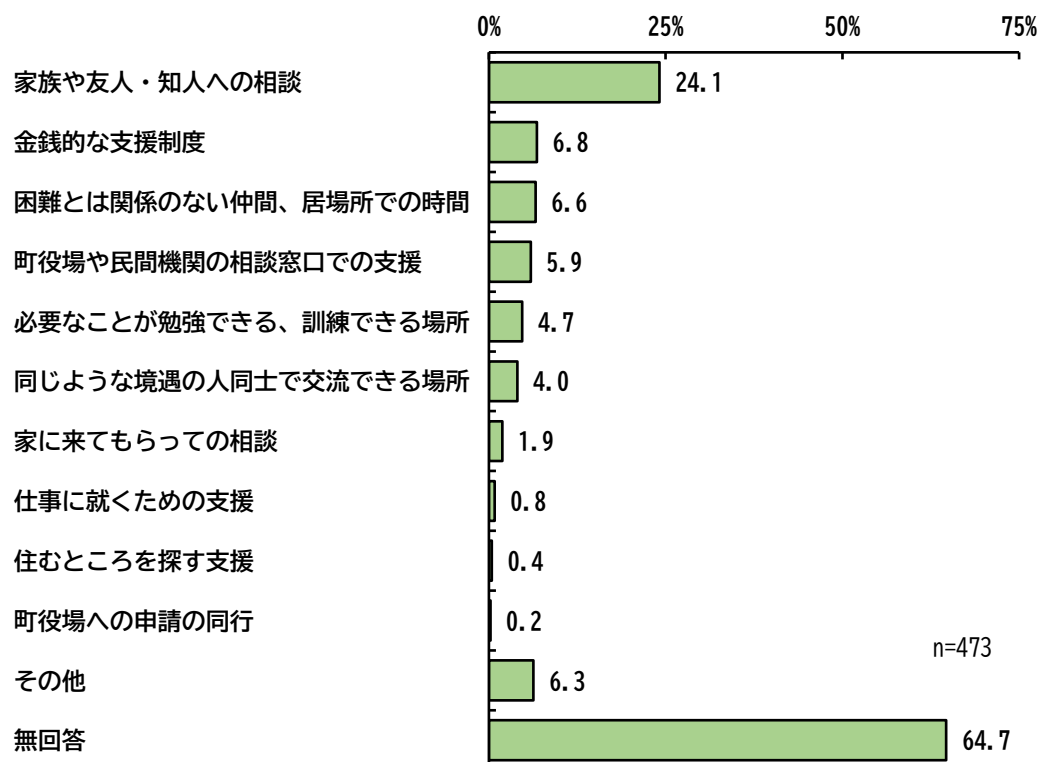
問12 お子さんは、次のような困難に直面したことがありますか。（あてはまるものすべてに○）



子どもが直面した困難では、「直面していない」70.4%が最も多く、以下「友人との関係」18.6%、「不登校」4.2%、「家族との関係」4.2%、「いじめ」3.4%となっています。

13 役に立った困難の乗り越えた方や望む支援

問13 困難を乗り越えた方は、どういうことが役に立ちましたか。また、困難がまだ続いている方は、どのような支援があればよいと思われますか。（あてはまるものすべてに○）

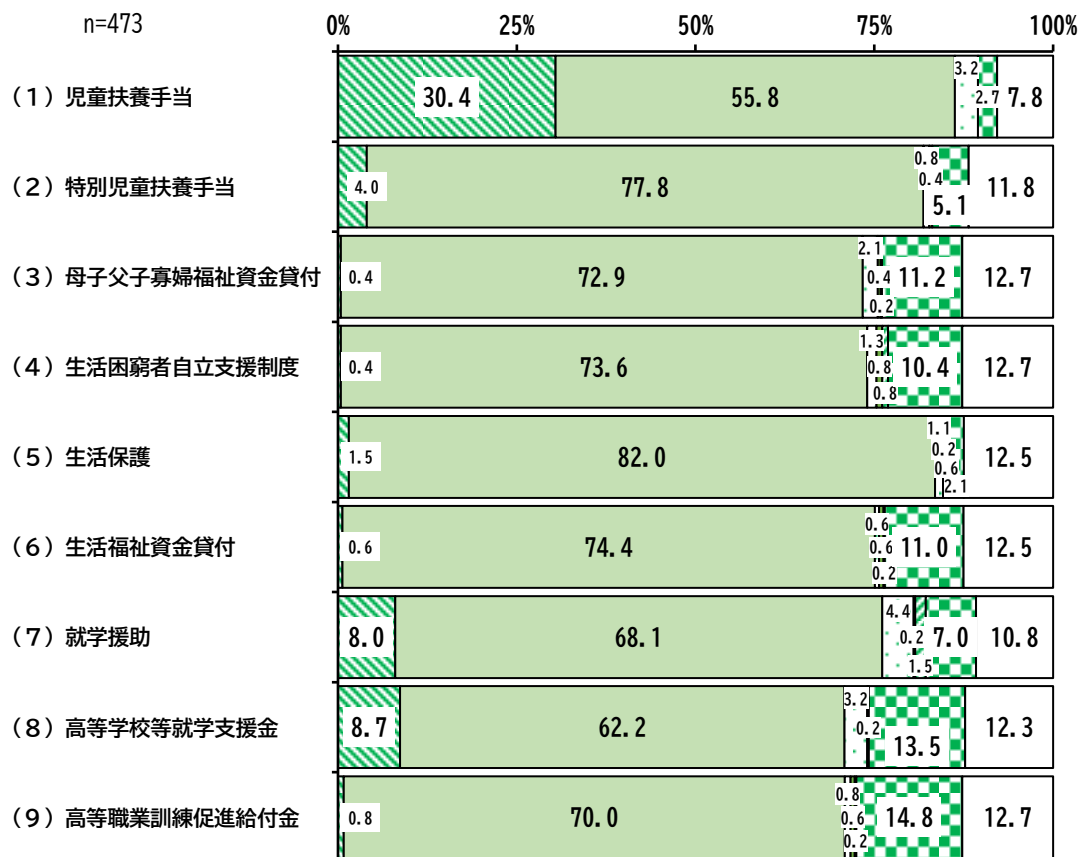


役に立った困難の乗り越えた方や望む支援では、「家族や友人・知人への相談」24.1%が最も多く、以下「金銭的な支援制度」6.8%、「困難とは関係のない仲間、居場所での時間」6.6%、「その他」6.3%、「町役場や民間機関の相談窓口での支援」5.9%となっています。

子育て支援について

14 公的支援制度の利用経験

問14 あなたの世帯では、以下の公的支援制度を利用したことがありますか。((1)～(9)それぞれについて、あてはまるもの1つに○)



■ 利用したことがある

■ 利用したことがない・利用する必要がなかった

□ 利用したことがない・利用したかったが要件に該当しなかった

■ 利用したことがない・利用したかったがどこに相談すればいいかわからなかった

■ 利用したことがない・利用するのがためらわれた

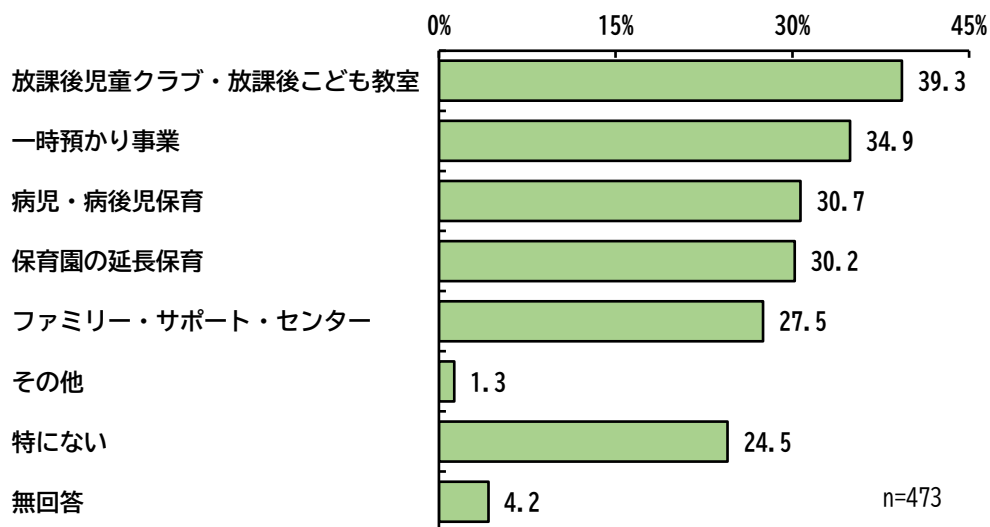
■ 利用したことがない・制度のことを知らなかった

□ 無回答

- (1) 児童扶養手当では、「利用したことがない・利用する必要がなかった」55.8%が多くなっています。以下「利用したことがある」30.4%、「利用したことがない・利用したかったが要件に該当しなかった」3.2%、「利用したことがない・制度のことを知らなかった」2.7%となっています。
- (2) 特別児童扶養手当では、「利用したことがない・利用する必要がなかった」77.8%が多くなっています。以下「利用したことがない・制度のことを知らなかった」5.1%、「利用したことがある」4.0%、「利用したことがない・利用したかったが要件に該当しなかった」0.8%、「利用したことがない・利用したかったがどこに相談すればいいかわからなかった」0.4%となっています。
- (3) 母子父子寡婦福祉資金貸付では、「利用したことがない・利用する必要がなかった」72.9%が多くなっています。以下「利用したことがない・制度のことを知らなかった」11.2%、「利用したことがない・利用したかったが要件に該当しなかった」2.1%、「利用したことがある」0.4%、「利用したことがない・利用したかったがどこに相談すればいいかわからなかった」0.4%となっています。
- (4) 生活困窮者自立支援制度では、「利用したことがない・利用する必要がなかった」73.6%が多くなっています。以下「利用したことがない・制度のことを知らなかった」10.4%、「利用したことがない・利用したかったが要件に該当しなかった」1.3%、「利用したことがない・利用したかったがどこに相談すればいいかわからなかった」0.8%、「利用したことがない・利用するのがためらわれた」0.8%となっています。
- (5) 生活保護では、「利用したことがない・利用する必要がなかった」82.0%が多くなっています。以下「利用したことがない・制度のことを知らなかった」2.1%、「利用したことがある」1.5%、「利用したことがない・利用したかったが要件に該当しなかった」1.1%、「利用したことがない・利用するのがためらわれた」0.6%となっています。
- (6) 生活福祉資金貸付では、「利用したことがない・利用する必要がなかった」74.4%が多くなっています。以下「利用したことがない・制度のことを知らなかった」11.0%、「利用したことがある」0.6%、「利用したことがない・利用したかったが要件に該当しなかった」0.6%、「利用したことがない・利用したかったがどこに相談すればいいかわからなかった」0.6%となっています。
- (7) 就学援助では、「利用したことがない・利用する必要がなかった」68.1%が多くなっています。以下「利用したことがある」8.0%、「利用したことがない・制度のことを知らなかった」7.0%、「利用したことがない・利用したかったが要件に該当しなかった」4.4%、「利用したことがない・利用するのがためらわれた」1.5%となっています。
- (8) 高等学校等就学支援金では、「利用したことがない・利用する必要がなかった」62.2%が多くなっています。以下「利用したことがない・制度のことを知らなかった」13.5%、「利用したことがある」8.7%、「利用したことがない・利用したかったが要件に該当しなかった」3.2%、「利用したことがない・利用したかったがどこに相談すればいいかわからなかった」0.2%となっています。
- (9) 高等職業訓練促進給付金では、「利用したことがない・利用する必要がなかった」70.0%が多くなっています。以下「利用したことがない・制度のことを知らなかった」14.8%、「利用したことがある」0.8%、「利用したことがない・利用したかったが要件に該当しなかった」0.8%、「利用したことがない・利用したかったがどこに相談すればいいかわからなかった」0.6%となっています。

15 幼少期に利用したい・したかった子育て支援サービス

問15 次のうち、幼少期に利用したい子育て支援サービスがありますか。幼少期を過ぎたお子さんの場合、利用したかったサービスを選んでください。（あてはまるものすべてに○）



幼少期に利用したい・したかった子育て支援サービスでは、「放課後児童クラブ・放課後こども教室」39.3%が最も多く、以下「一時預かり事業」34.9%、「病児・病後児保育」30.7%、「保育園の延長保育」30.2%、「ファミリー・サポート・センター」27.5%となっています。

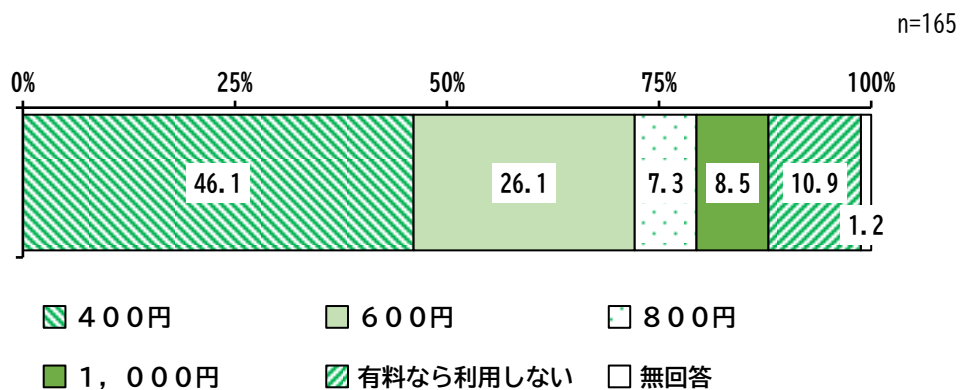
16 利用したい平日1時間の利用金額【一時預かり事業】【ファミリー・サポート・センター】

問16 問15で「4 一時預かり事業」「5 ファミリー・サポート・センター」を選んだ人にお聞きします。

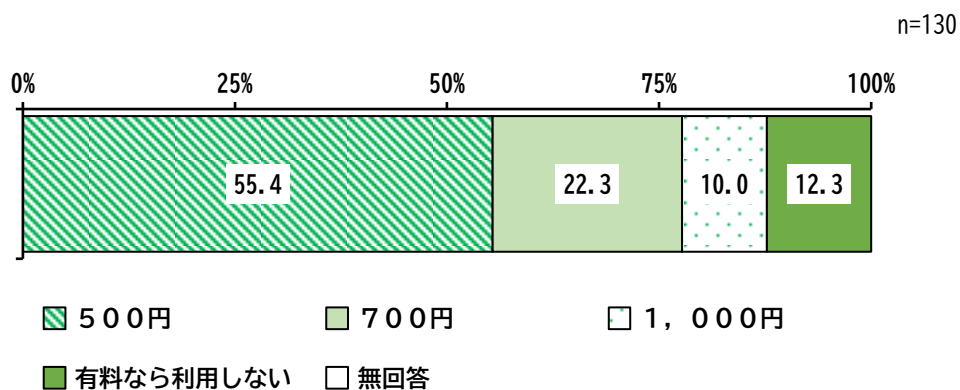
平日1時間の利用金額が、いくらまでであれば利用したいと思いますか。

(あてはまるもの1つずつに○)

【一時預かり事業】



【ファミリー・サポート・センター】



【一時預かり事業】

利用したい平日1時間の利用金額では、「400円」46.1%が最も多く、以下「600円」26.1%、「有料なら利用しない」10.9%、「1,000円」8.5%、「800円」7.3%となっています。

【ファミリー・サポート・センター】

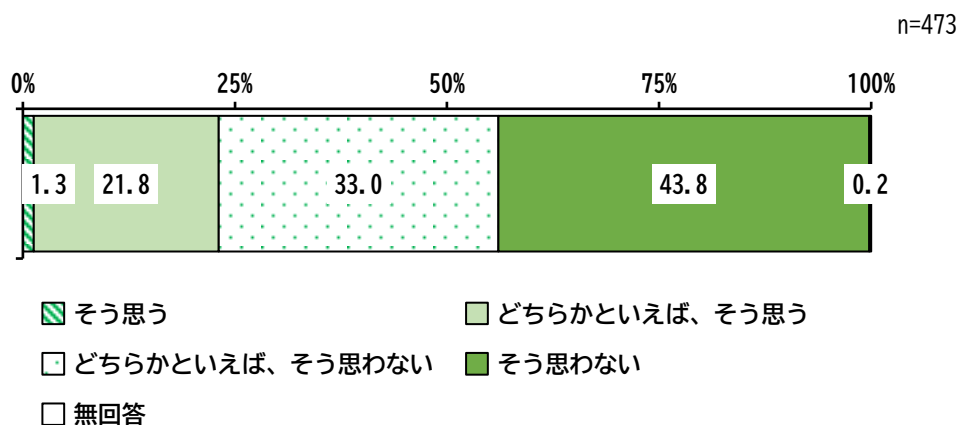
利用したい平日1時間の利用金額では、「500円」55.4%が最も多く、以下「700円」22.3%、「有料なら利用しない」12.3%、「1,000円」10.0%となっています。

IV 調査結果 保護者調査

17 日本の社会が結婚、妊娠、こども・子育てに温かい社会の実現に向かっていると思うか

問17 日本の社会が結婚、妊娠、こども・子育てに温かい社会の実現に向かっていると思いますか。

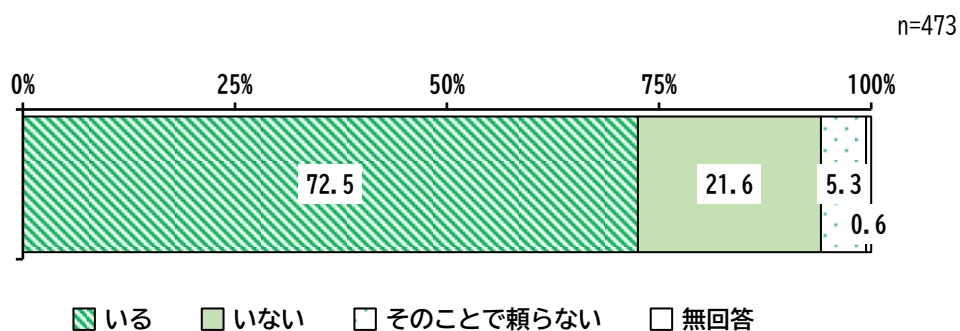
(あてはまるものすべてに○)



日本の社会が結婚、妊娠、こども・子育てに温かい社会の実現に向かっていると思うかでは、「そう思わない」43.8%が最も多く、以下「どちらかといえば、そう思わない」33.0%、「どちらかといえば、そう思う」21.8%、「そう思う」1.3%となっています。

18 子どもの世話や看病で頼れる人はいるか

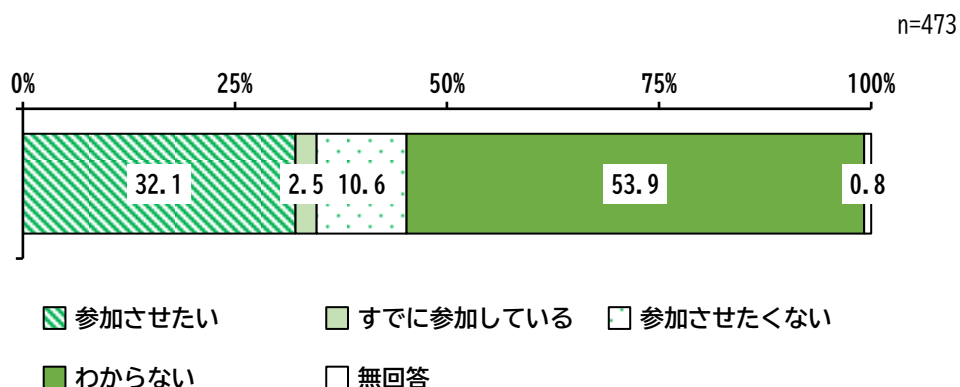
問18 子どもの世話や看病で頼れる人はいますか。(あてはまるものすべてに○)



子どもの世話や看病で頼れる人はいるかでは、「いる」72.5%が最も多く、以下「いない」21.6%、「そのことで頼らない」5.3%となっています。

19 子ども食堂に子どもを参加させたいと思うか

問19 近年、無料又は低額で食事を提供する「子ども食堂」の取組みが増えてきていますが、そうした場所にお子さんを参加させたいと思いますか。(あてはまるもの1つに○)

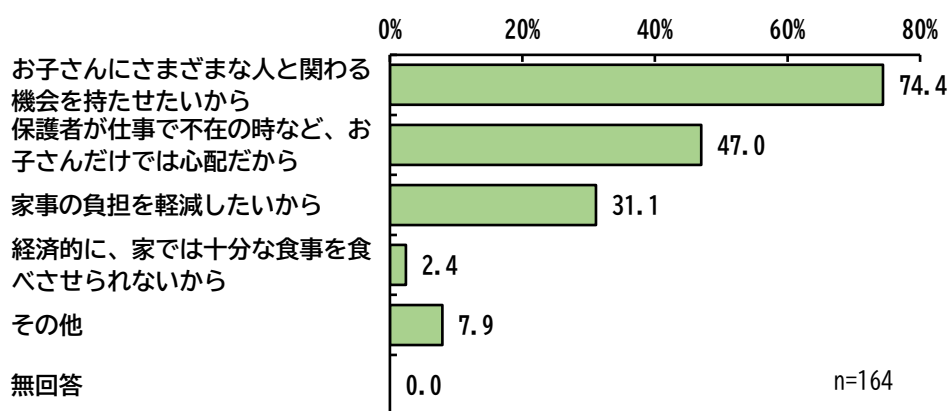


子ども食堂に子どもを参加させたいと思うかでは、「わからない」53.9%が最も多く、以下「参加させたい」32.1%、「参加させたくない」10.6%、「すでに参加している」2.5%となっています。

20 参加させたい・参加している理由

問20 問19で「1 参加させたい」「2 すでに参加している」を選んだ人にお聞きします。

参加させたい・参加している理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

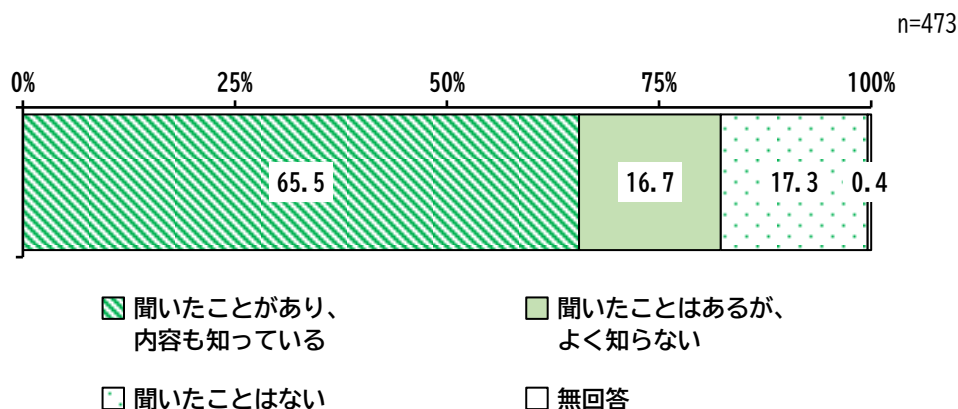


参加させたい・参加している理由では、「お子さんにさまざまな人と関わる機会を持たせたいから」74.4%が最も多く、以下「保護者が仕事で不在の時など、お子さんだけでは心配だから」47.0%、「家事の負担を軽減したいから」31.1%、「その他」7.9%、「経済的に、家では十分な食事を食べさせられないから」2.4%となっています。

ヤングケアラーについて

21 ヤングケアラーの認知度

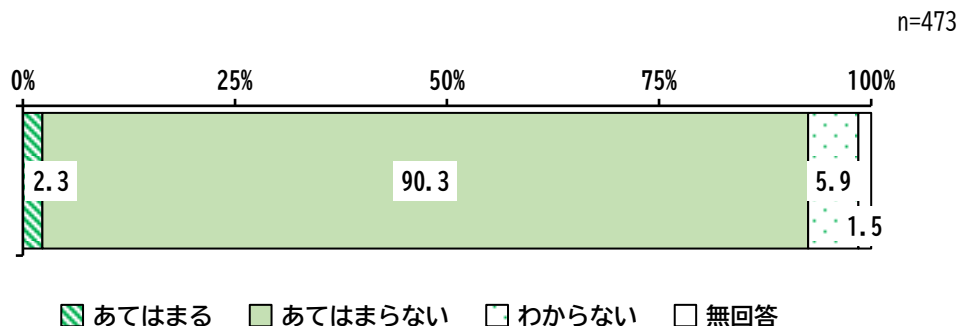
問21 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありましたか。
(あてはまるもの1つに○)



ヤングケアラーの認知度では、「聞いたことがあり、内容も知っている」65.5%が最も多く、以下「聞いたことはない」17.3%、「聞いたことはあるが、よく知らない」16.7%となっています。

22 子どもは「ヤングケアラー」にあてはまると思うか

問22 お子さんは「ヤングケアラー」にあてはまると思いますか。「ヤングケアラー」について下記に説明があるので、それを見てお答えください。(あてはまるもの1つに○)



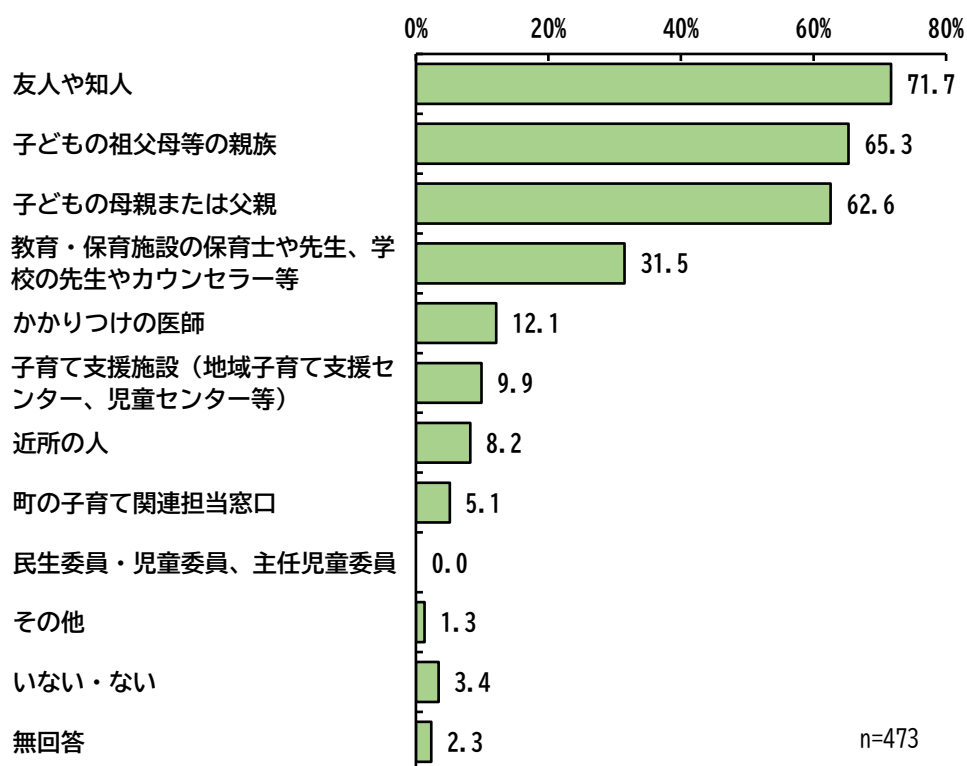
子どもは「ヤングケアラー」にあてはまると思うかでは、「あてはまらない」90.3%が最も多く、以下「わからない」5.9%、「あてはまる」2.3%となっています。

相談や情報の入手先について

23 子育てや教育について気軽に相談できる人や場所

問23 お子さんの子育てや教育について、気軽に相談できる人や場所がありますか。

(あてはまるものすべてに○)

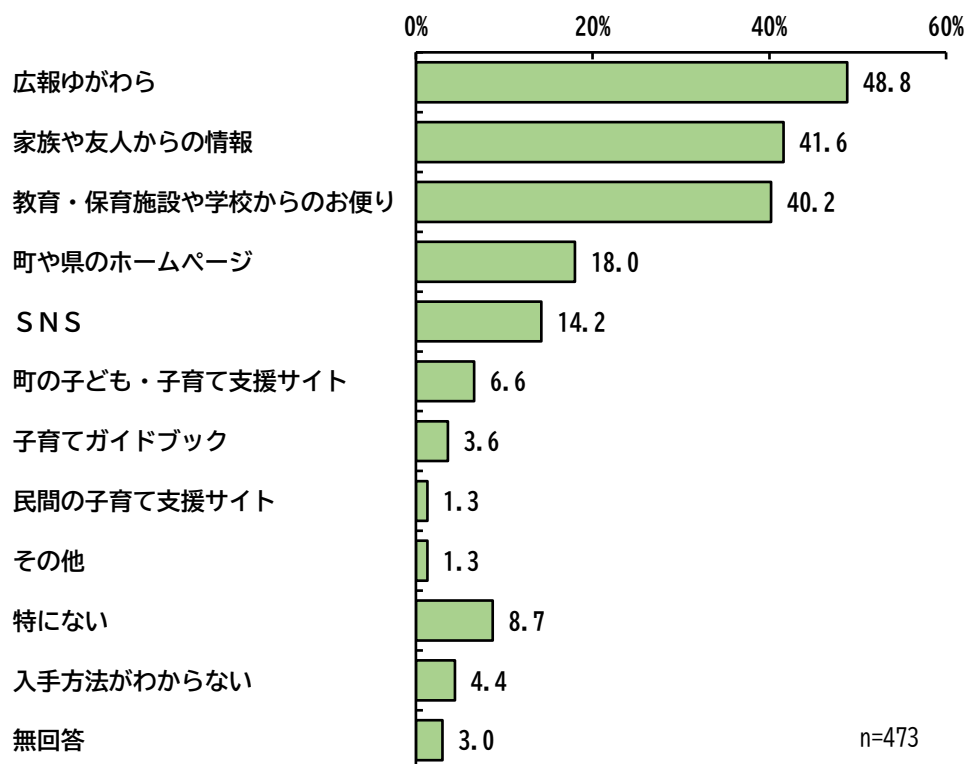


子育てや教育について気軽に相談できる人や場所では、「友人や知人」71.7%が最も多く、以下「子どもの祖父母等の親族」65.3%、「子どもの母親または父親」62.6%、「教育・保育施設の保育士や先生、学校の先生やカウンセラー等」31.5%、「かかりつけの医師」12.1%となっています。

24 県や町が実施している子育てや生活に関する支援の情報の入手先

問24 県や町が実施している子育てや生活に関する支援の情報をどうやって知りますか。

(あてはまるものすべてに○)

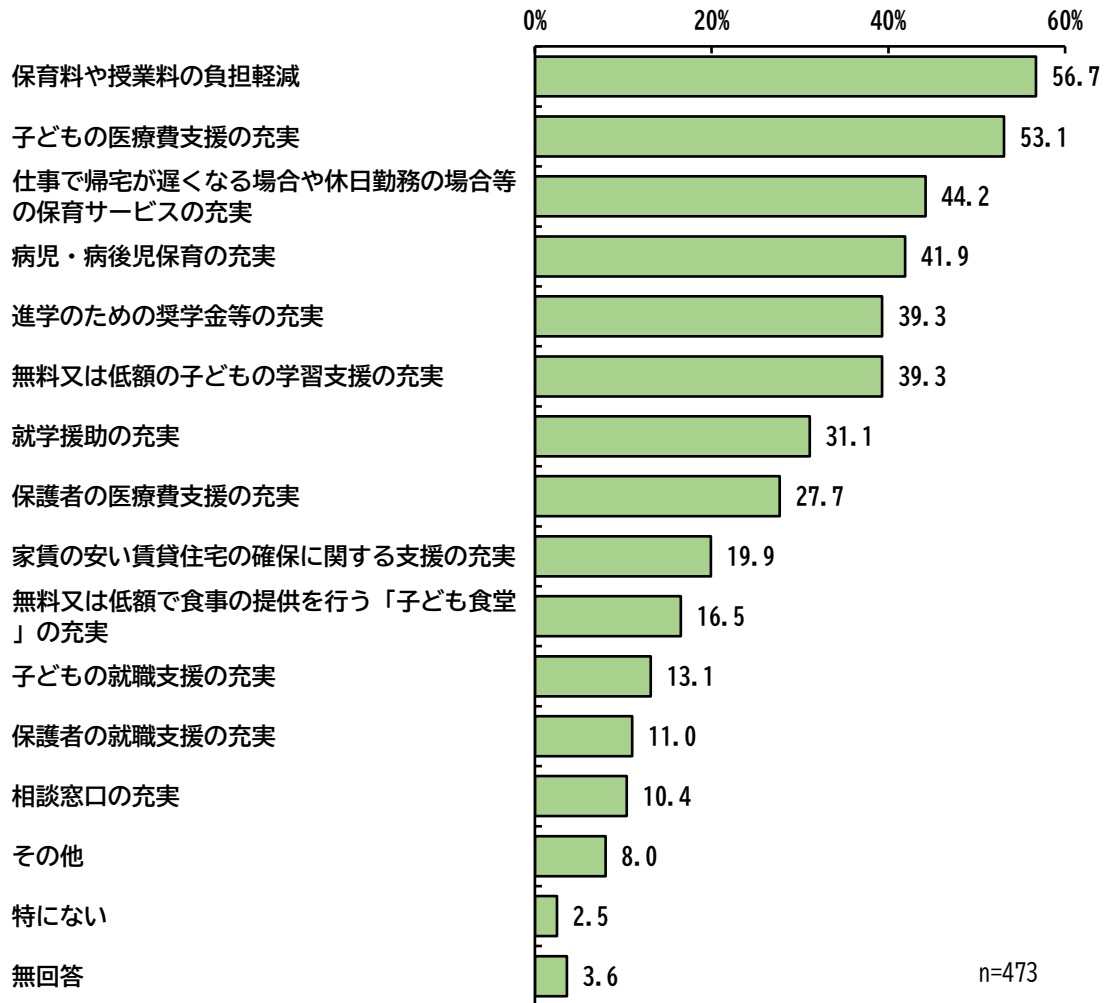


県や町が実施している子育てや生活に関する支援の情報の入手先では、「広報ゆがわら」48.8%が最も多く、以下「家族や友人からの情報」41.6%、「教育・保育施設や学校からのお便り」40.2%、「町や県のホームページ」18.0%、「SNS」14.2%となっています。

町の取り組みについて

25 充実が必要だと思う子育て・生活支援

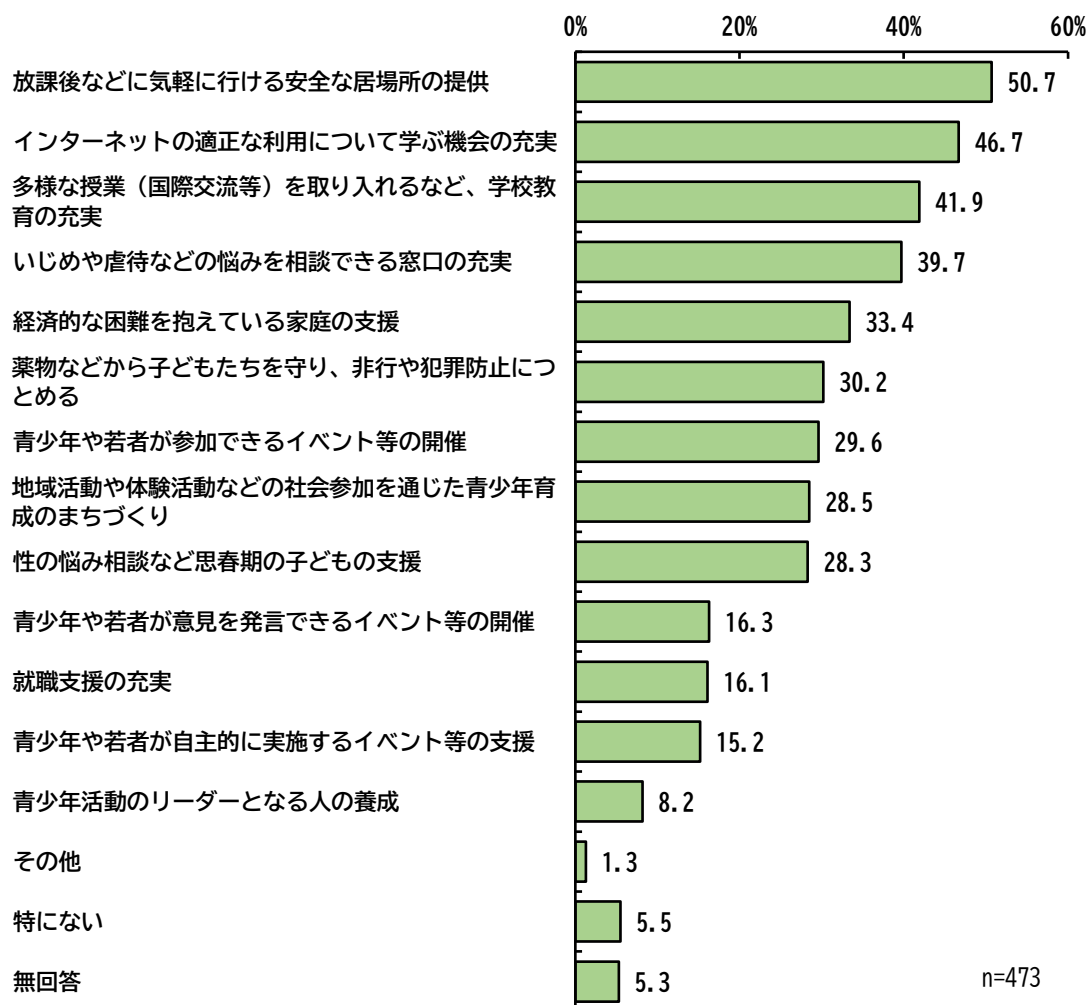
問25 どのような子育て・生活支援の充実が必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）



充実が必要だと思う子育て・生活支援では、「保育料や授業料の負担軽減」56.7%が最も多く、以下「子どもの医療費支援の充実」53.1%、「仕事で帰宅が遅くなる場合や休日勤務の場合等の保育サービスの充実」44.2%、「病児・病後児保育の充実」41.9%、「進学のための奨学金等の充実」39.3%、「無料又は低額の子どもの学習支援の充実」39.3%となっています。

26 充実が必要だと思う子ども・若者支援

問26 どのような子ども・若者支援の充実が必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)



充実が必要だと思う子ども・若者支援では、「放課後などに気軽に行ける安全な居場所の提供」50.7%が最も多く、以下「インターネットの適正な利用について学ぶ機会の充実」46.7%、「多様な授業（国際交流等）を取り入れるなど、学校教育の充実」41.9%、「いじめや虐待などの悩みを相談できる窓口の充実」39.7%、「経済的な困難を抱えている家庭の支援」33.4%となっています。

27 自由記述

問27 子育ての環境や支援について、ご意見やご要望を自由にご記入ください。

※回答者ごと記入内容が多岐にわたるため、最初の意見をもとに分類しています。

経済的支援について

- ひとり親に対しての支援の充実
- 国は、低所得者に支援金は出すが、父母共働きしていても家計が苦しい世帯には、ほぼ何も無い。ひとり親や非課税者など、働きたくても事情があって働けないなど、それぞれの事情はあると思うけど、共働きして税金を納めても、何かと非課税世帯への給付金ばかり。生活が苦しいのは、共働きしている世帯にもいる事を国会議員に分かってもらいたい。子供には貧しい思いをさせたくないの、子供の為に頑張っていますが、少しでも国に分かってもらいたい
- 現在、中2、小6、小4の子育て中です。湯河原町高校生通学定期券購入費補助事業の存在を知り、ありがたいと思うと同時に補助額の妥当性に疑問をもちました。一番近い高校でJRのみ（バス等は含まない）で6ヶ月36,530円かかります。年間20,000円とはどのように算出されたのでしょうか？中学校の“お弁当配食サービス”について、学校給食実施されるまでの臨時手段としてとてもいいと思います。こちらも小学校の給食費の様に町の補助があれば利用しやすいなと思います。申込の有無で不公平かもしれませんが、“とりあえずの臨時手段”という印象です
- 高等学校がない為、小田原・三島・沼津等への通学の交通費の支援が必要かと思います
- 子育て支援紙おむつ等支給事業はとても助かりましたが、1才までなのが残念。2才までは大半の子がおむつを使用するので、せめて2才まで対象にしてほしい。何年も前から中学校給食要望の声があるがいまだに実現していない（動き出したようだが）中学校移転の際もそうだが、意見を聞くパフォーマンスだけして、結局動かないし決定済みなので聞き入れてくれない体制なのだと感じる。収入に関わらず様々な支援があるべきだと思う。収入の少ない世帯はもちろん生活が苦しいが収入が多い世帯はその分多くの税金を払い、結果生活にそこまで余裕があるわけでもない。子どもがすくないのなら、むしろ手厚くしないと減る一方だと思う。入学祝い金や通学費の補助など、少しずつ支援が増えている面もあるので引き続き様々検討して欲しい（高校生まで医療費無償や、給食費無料など）
- ひとり親の家庭への経済的支援の他、子供の長時間保育や自宅へ来てくれる等のサービスを拡充してほしいです。ひとり親だけでなく、このような子育ての支援が手厚くなると女性が働きやすくなり、活性につながると思います。また子供にお金がかかるのは幼少期よりも高校、大学なので、その時期の経済支援があると安心して子育てが出来ます。
- 湯河原町はあまり支援がない。子育てしにくい。不正受給者がいたりするのに…。まじめにやってるのが馬鹿らしい。子供3人いますが生活が大変です。世帯収入300万でも生活は大変です。
- 金銭的支援はもっと見極めが必要。厳しくしろという意味ではない。本当に必要な家庭を支えて欲しい。色々な環境下に置かれた保護者にニーズを聞いて欲しい。生の声を参考に。このような調査ありがたいです。ぜひ生かして欲しいです。
- ひとり親なのですが、大学生が現在いて、中学生になる子も居ます。児童扶養手当は18才までで終了になったので、経済的にとても大変になっています。ひとり親に対しても、これから拡充していけたら幸いです。
- 子どもが4人いるので、習い事などお金がたくさんかかります。給食費、中学の教材費も月に5000円近くかかる。もっと将来をになう子供を多く育てているのだから、子供が多い家庭の支援を増やしてもらいたい。
- シングルマザーの家庭などの生活困窮支援はあるが、シングルファーザー家庭で経済的には問題はないが家事や子育てに時間を充分に取れない家庭向けの支援を増やしてほしい。湯河原中学の学力のレベルが決して高くないと認識しているが、学力を上げるための塾が少ないので、高校受験に苦勞する環境である。中学校で学力向上が出来るシステムを構築してほしい。充実すれば、他からのファミリーの移住者が増えると思う。今のままだと逆に町から外に出て行ってします。
- 子育て支援は母子家庭だけではなく、同じ世代の子供たち全部に支援があれば良いと思います。両親が揃っていても子育てに関わる金銭面は同じです。子供に対しての支援が欲しいです
- 湯河原町は子供が少ない為か他の自治体よりも支援が少ないと感じています。神奈川県でももっと東の方は色々な補助金、制度が充実しているようにも思えます。子供をもっと増やしたい、子供達の住みやすい町にしたいとお考

IV 調査結果 保護者調査

えでしたら、まずは他の都市、関東で取り入れている制度等、湯河原でも行って欲しいと思います。宜しくお願いいたします

- 近頃、金銭面や心にゆとり・余裕がなく育児子育てにも影響を感じます（自分だけでなく世の中）
- 物価高騰するばかりで子供を育てるのか益々金銭的に苦しくなった。子供が少なく習い事1つするにも近所では足らず親の負担が増すばかりです。習い事の需要は上がる一方、湯河原町の支援はなし。部活を外部委託するにもさらに費用は増す事も容易に想像出来る事。習い事やそれに伴う交通費の支援など、よりよい環境を与えてあげるために出来る事をして欲しいです
- ひとり親、低所得の人だけでなく統一してお金の補助して欲しいです
- インフルエンザ予防接種などの注射のお金を町で負担してほしい。
- 低収入の家庭の場合でも経済的なことで不安を感じることなく学校の行ける制度のことを、もっとサイトなどで詳しく載せてくださると良いです（実際の支援の金額など）
- 私はひとり親世帯なので児童扶養手当を頂いていますが、定期的に食料の支援や給付金があると有り難いと思います。また家賃や光熱費の一部支援などがある地域もあるそうです、そういったものがあるとより生活に余裕が出来るのかと思います。毎月不安定な養育費、数ヶ月に1回の児童扶養手当だけですと子供達が体調不良などで数週間休む事になると生活が大変苦しいです。このままですと貯蓄も出来ず将来がとても不安です。現状でもとても有り難いですが、もう少し並レベルの暮らしが出来る事を祈ってます
- 離婚して実家で（父、子）生活している為、金銭的にも生活全般に助かっているが自分に持病があり定期受診料が大変である。昨年度まで医療費の援助を受けていたが今年度から受けられなくなった。安心して生活ができるようひとり親の医療支援の充実を希望する。給料が特別良くなったわけではないのに！
- 1歳までのオムツ支援、本当に助かっています。毎月有り難うございます。1歳を超えてもまだオムツは使うので、2歳、3歳、せめて1歳半でももう少し長く支援の期間が長いと嬉しいです。よろしくお願いします
- 子どもを育てているのに、税が控除されないのはおかしいと思います。年少扶養控除の復活を希望します。子ども手当を付与しているとは言いますが、世帯収入910万円以上の家庭は子ども手当、扶養控除、ともにありません。沢山税金を払っているのに酷だと思えます。実際には世帯年収910万円の家庭は裕福な暮らしではありません。例えば多子世帯であれば育てる為に頑張って働く→あらゆる支援がなくなる→働き損、という連鎖が起こります。結果的に家計の苦しい家庭が増えてしまうのではないのでしょうか。税負担が減り、余裕が出た分を教育資金にまわせば将来的に優秀な大人となり、豊かな日本を構築する要素の一つになると考えます。世界的に見て優秀な人材を育成する必要があると考えます。経費削減のため書面ではなくメール等でアナウンスするようデジタル化を進めるべきだと思います。郵送費（往復、用紙代）が勿体ないです。子育て世代は書面よりスマホのアンケートの方が回答しやすいのではないのでしょうか。どうしても紙を使用するのであれば再生紙など、もっとコストのかからない方法を考えて下さい
- 保育園の利用料無料枠の年齢引き下げ。医療費無料を18歳まで引き上げ。高校、大学、インターナショナルスクール、私立の小中学校の誘致などで選択肢を町内で増やしてほしい（税收UP、人口増につながると思います）湯河原中学校を沿海部から遠ざける移転。保育園の園児募集人数を増やしてほしい（特に2歳児は、育休（民間企業のMax）終了も多いため、需要があるにも関わらず、募集人数も少なく自宅近くの園を希望しても入れず、職場復帰を諦めざるを得なかった）

給食・給食費等について

- 中学生の給食を早く導入してほしい。食費がかかる。食費の補助が無いと、子供を育てるのに十分な量を食べさせてあげられない家庭もある。小学生が雨の日に室内で遊べる所を作ってほしい。（児童館や図書館の一部を自由に来館して遊ぶ事ができるようにする、など）前に、刃物を持った不審者情報は町内の放送で流れたが、その他の不審者情報も町内アナウンスしてほしい。不審者に対する抑止力となる
- 中学校の給食
- 中学校の給食（してほしい）医療費無料。仕事をフルタイムでしているが、学校に行く率が高く休まなければならない。卒業式の袴（お金かかるので）なしならなしの方がありがたい。子供がたくさんいる家族への支援。働かなければやっていけない。以前にファミサポを利用した事があるが、色々聞かれて、え？それで利用するの？みたいな顔をされたので利用しにくい。色々探るのはやめてほしい

- 中学校も給食にしてほしい。お弁当を作る負担をなくしてほしい。教材を無料にしてほしい。道路（学生が通る道）を安全にしてほしい。
- 早く中学校に給食を。今時給食ない所なんて聞いた事がない。
- 給食費が無償化している所が増えているのに湯河原はやらないのか。町ではその話は出ていないのかわかりませんが、出来ない理由やその話が出ているのか・・・。観光に力を入れているのもわかりますが、もう少し町民の事も考えて欲しい
- 湯河原中学校の給食化へ
- 中学校の学校給食があればもう少し家庭の食費をおさえる事が出来るんじゃないかと思います。兄弟がいる家庭は、何年も作り続ける必要が出てくるし家事の軽減にもなると思います
- 町立保育園での主食のみ持っていくのをやめてほしいです。0才～2才児クラスでは完全給食が毎日できるなら、上のクラスも出来るのではないのでしょうか？給食費が上がるのもしょうがないと思います。自宅から主食を持参した後は、管理は全て保育園になります。どのような管理体制か私達親は見れません。食中毒、ノロウイルス等とても心配です。たとえば主食を持参する人、しない人で給食費を変えとか、何か子供達が安全に保育園で楽しくお昼ごはんが食べられて、親も安心してまかせられるような制度にしていきたいです。お願いします
- 中学校のお弁当配食サービスを利用したいと思った事があるが、料金が高すぎる。コンビニやスーパーのお弁当の方が安い。メニューや利用者人数によるのかもしれませんが、もう少し安くしないと利用したくても利用できない人多いですよ
- 中学校の給食を実現させてほしいです。当日いきなりでも0～3才の子を託児できる施設がほしい。長男の入院の際にそのような施設がなく面会など苦労しました（面会は子連れ不可だった為）
- 湯河原の保育園、小学校には給食があるのに中学校が給食システムがないのはどうでしょうか？
- 小学校から中学校までバランスの良い食事を全員におなかいっぱい食べさせられる給食の無償化。どんな状況の家庭であっても、一食はきちんと栄養を摂らせてあげられる。お金を保護者に配るより家の近くでない食堂に足を運ぶより、毎日確実に育ち盛りの子ども達に栄養を届けてあげられる。夏休みは土日祝日に給食の代わりとして子ども食堂があれば良いと思う。身体を作っている最中の小・中学生時代にちゃんとした食事を食べさせてあげられたら、健康な大人になり未来の湯河原町を支える人になってくれるのではないのでしょうか
- 中学校給食の早期実現を強く要望します
- 中学校の給食はいつ進むのでしょうか
- 中学校の給食はいつになったら実現できるのでしょうか？あんな中途半端なお弁当購入制度、意味ないです
- 公立の小中幼の給食

医療費について

- 高校生まで医療費無料。多子世帯への補助や優遇
- 高校卒業までの医療費を0円に。高校卒業まで、子供手当の金額増。中学校の給食制度の開始。湯河原中学校の移転・子供数減少による、小中一貫校の実施
- 近隣地域では、医療費の無償化対象の年齢が引き下げられているので、早急に対応してほしい。中学校の給食化を早急に進めてほしい。弁当づくりは働く母にとってはかなりの負担です
- 子供医療費を他の自治体と同じ様に高校生まで引き上げて欲しい。スタディサポートの先生を増やして欲しい。町の補助で人数が決まっていると聞きました。割り当てられる人数が決まっている為、私の子供が小学1年生の時に入学して2ヶ月後には2人いたサポートの先生が1人他学年に行ってしまい、1人の先生が2クラスのサポートをされていました。1年生だったり日本語が母国語ではない子がいたり、落ち着きのない子供もいるので、是非増やして欲しいです。
- 小児医療費助成を高校生までお願いしたい。小～中学生向けの講座（参加型）を増やしたい（真鶴、小田原市のように）。子どもを産む事の出来る環境を作って欲しい
- 東京都のように高校生の医療費が無料になるとありがたい
- 子ども医療費無料化を高校生までに拡大する。中学校給食の早期の実施。中学校を安全な立地に移転→これらは最優先に取り組んでほしい。湯河原は子育て支援において最も遅れている自治体だと思う。中学校給食は全国的に当たり前にある物。今は給食費無償化の時代になっている。住んでいる所によって医療費に差があるのはおかしい。「何で湯河原は・・・」とがっかりする。地震が多発している昨今、海の目の前にある中学校を何とかしようと思わ

IV 調査結果 保護者調査

ないのがとても不思議→子どもを大事にしていなと思う。子育て支援に本気になればすぐに実現出来るはず。町の活性化を目指すなら子育て環境を充実させて、若い世代にアピールしたら良いのでは？このままでは子育てしやすい自治体に流出していくと思う

- 定期的に医者に通院してる為、子どもの医療費支援を高校生までにして欲しい
- 医療費（子供）の助成を周りの地域と合わせて18歳までにしてほしい。雨の日に遊ぶ場所が少ない。遠足（保育園）が毎年一緒なのは上のクラスになるとあきてしまうのでは
- 湯河原の小児医療費を高校生まで、中学校の給食になる事を切実に望みます。公園ですが小さい鉄棒を設置してほしいと感じました。3才～5才ぐらいの子でもとどくような高さのを利用したいです。あと公園内のコンクリート設備（たこ公園など）
- 神奈川県他の市町村よりも医療費の助成（医療証）の適用年齢がせまいので、せめて同一の内容での助成をお願いしたいです。また、町内での病児保育預かりを行っていないため、仕事で休むことが難しい場合身内を頼るしかなく、負担があると感じました。たださえ子どもが少なく人口減もある町なのに、未来を担う子どもへの支援、子どもを育てる家庭への支援を充実させてほしいと思います。ハッキリ言ってしまえば金銭的援助が必要だと思います。町の予算は限りがあると思いますが、くだらないことで税金を使うくらいなら配ってもらったほうがよっぽど町民のためになるのではないのでしょうか

遊ぶ場所について

- 小学生が夏休みに遊びに行ける施設が無い。居場所もあるが、ゆたぼんの様に平日土日いつでもやっていて、気軽に行ける場所がほしい。本を読んだり、ゲームをしたり、体を動かしたり。暑くて外にも行けず、家を行き来するのも親の介入が無いと難しい。雨の日も遊ぶ場所に困っている
- 放課後や夏休み等の長期休みに学校のグラウンドで自由に遊べるようにしてほしい。今の子どもは外に遊ぶ場所が少なくてかわいそう。学校で自由に遊べたら限られたお友達だけでなく多くの友達と気軽に遊べると思う。防犯等の問題はあると思うが、それは公園でも同じことでは？とにかく外で遊べる（自由に）場所がもっともっと増えてほしい
- 子育ての環境について。子どもには伸び伸びと元気に成長してほしいです。ゲームをするより外で元気に遊んでほしいと考えますが、公園が遠い…だったり公園での遊びが限定されていたり、遊具もなかったり…。とても残念に思います。支援について。物価は高騰するばかりだけど、収入が変化していかない以上、「結婚・妊娠・出産・子育て」に温かい社会はほど遠いと思う。親が働く時間を増やせば、子育て・子どもとの時間は必然的に減り、親ももちろんだけど、子どもの心、精神面での不安、負担は増えるだろう…と安易に想像できる。現在行われている支援も大変助かりますが、ひとり親でなくとも生活が大変な家庭は多いです。ひとり親や生活困難な人のみの手厚いサポートではなく、子育て世帯に対してのサポートをしてほしい。（児童手当の期間や支給額の見直し等）
- （公園の設備）未就学児が遊べる遊具が少ないのでいつも町外の公園へ行っています。せっかく近くに公園があっても子供はすぐ飽きてしまうのもっと魅力のある公園作りや子供同士が仲良く遊べる環境設備を増やして欲しいです
- 湯河原町外から結婚して引っ越してきた時、各地区ごとに公園がある事にとてもびっくりしたのを覚えています。これはとっても珍しくすごく良い町なんだろうなあ～と思いました。実際、公園では誰もが遊んでいてボールを使っているし、小さい子がいると自然とお兄さんお姉さんが気を付けて遊んでいて、昔から脈々と続いている風景なんだろうなと思いました。支援センター「ゆたぼん」も私自身とても助かりました。先生達は本当に親身になってお話をしてくださり、息子も楽しんでいました。まだ子供が幼いというのもあるので意見や要望は特にないのですが、小学校にあがったらまた思う事も出てくるとは思います
- 公園の遊具を充実させてほしい（点検、整備含む）。子育ての金銭的援助が少なすぎる
- 今までよく利用させてもらっていた「駅前居場所」リニューアルされて施設がとっても過ごしやすくなったのは本当のありがたいのですが、「こども食堂」の様な事が始まり、今までは施設が閉まるまで普通にいてもよかったのが、夕方すぎると登録してる子たちしか基本はいちゃいけない、みたいな感じになって「なんであの子たちは居場所でご飯食べてるのに私は食べられないの？」とうちの子も言っていたし、他の子も同じ事を言っている所を2～3回目にしました。登録してる子は無料で食べれるけど、それ以外の子もお金を出せば食べられる様な形にできないのでしょうか？あと、ごはんは家で食べるけど、もう少ししたいのに～とか、お迎えがなかなか来なくてずる

ずるいる子とかもいて、スタッフさん達がとっても大変そうなので、もう少し施設の利用ルールを分かりやすくして明示する必要があるのでは？と思いました

- 湯河原は公園がたくさんあるが、ゴミが落ちていたり犬のフンがあったり、トイレがあまりキレイじゃなかったり、そして駐車場がない。たくさん公園はいらないので熱海の長浜海浜公園や秦野のペコちゃん公園のような、ある程度広くて遊具が充実、駐車場がある管理がしっかりいきとどいた公園が欲しい。そのような公園ができれば伊豆方面に行った観光客なども途中下車したり町の活性化にもつながるのではないかなと思う。中途半端な公園が多すぎると思う
- 湯河原町はとても公園の多い町だと思います。せっかくたくさんの公園が有るので、色々な特性に特化した公園、例えば未就学児が遊びやすい公園や、夏に遊びやすい（小さな噴水など）公園など有ると、もっと公園の利用が増えると思います。特に夏休み中の日中は日よけがなく、誰もいない状態です。坂の多い町なので遊具を立てなくても地形を利用して、丘滑りができる所があれば良いと思います。中学校の給食をお願いします。今年、とうとう湯河原町に本屋さんが1件も無くなってしまいました。図書館を大きくしてほしいです。本の種類（新刊など）を増やしてほしい。個々に勉強できるスペースを増やしてほしい。駐車場も増やしてほしい
- 宮上、温泉場、奥湯河原に子どもを安心して遊ばせられる公園が欲しい。公的施設のトイレをオムツ替え、ベビーカーが使いやすく子どもだけで使えるような明るく清潔なものにしてほしい。学校の教材費の負担を小さくしてほしい。病児保育を町内でぜひ。子どもの一時預かりを日曜も行っていて欲しい。子育てサロンで小学生も預かってほしい。ファミサポは面談やマッチングなどすぐに使いづらいのとっさに困った時の預け先が公的施設でほしい。
- 最近湯河原から本屋がなくなった。映画館、ボーリングはあるか・・・子どもが遊ぶのに小田原まで行かないと遊ぶ事ができない。中学生以上になると湯河原は何もないと子供達自身が感じている。他にもあるが大学に通うのにも電車賃だけでもすごくお金がかかるし時間もかかる。高校も場所にとっては・・・そういう部分で若者は湯河原から離れていくのかな。
- 川端公園のやり直しに150億円もかける必要はなく、子どもの支援できるサービスや公園の設置または拡大に力を入れるべきだ。大和の「ゆとりの森」や平塚にある「わんぱくひろば」のように大型の公園を作ってほしい。子どもも増えるし、他の市からも来て少しは町も活気づくのではないのでしょうか？お年寄りの支援ばかりに力を入れているように感じます。このままでは子どものいる家庭は他の市や町に移住してしまいます。移住支援金もないし、どんどん人が減っていくように感じます。今までのやり方ではなく新しい事に目を向けて下さい
- 子どもが0才の頃から、ゆたぼんを利用しています。子どもを安全に遊ばせられて、支援員さん達が優しくアドバイスを下さって、いつもありがたく感じています。孤独を感じがちな乳児の子育てですが、ゆたぼんがあったおかげで助けられました。ありがとうございます
- 支援センターの充実（屋内外）ハイハイ期の子が遊べるスペースが限られる（ゆたぼん）公園の芝生化etc。長浜海水浴場の遊び場はとても良いです。親子で参加できるイベントの充実。音楽や整体、ヨガなど継続して続けられる場所。病院が子連れで行きづらい。おむつ支援を2才までしてほしい。金銭的援助。歩道を広く平らに（ベビーカー押しづらい）保育園近隣の交通整備。しおにわ保育園周辺の交通量が多く不安。一時保育がほぼ満員で入りづらい。町のイベントの情報を見付けづらい。バスの本数が少ない（高い）
- 公園の数は多くとても良いのですが、駐車場がない所がほとんどで車で行く時に困っています。また幼児が遊べるような遊具がなかったり地面が砂利など、小さい子が遊ぶには少し危ないかなと思う。地面を芝生に変えてもらえるだけでもありがたい。町に西松屋等の子ども用品店を建ててほしい。仕事終わり、休日に気軽に買いに行けなくて困ります
- 湯河原の中央区以外にも公園を作ってほしい（うさぎざわ）
- 小さい子向けの遊具がある公園があると思います。新しい施設は外の人向けだったりするので子ども向けの何かがあれば、また違う層の観光客もきてくれると思いました。役場に行って保育園の相談をしたとき、わからない人が窓口で何回も後ろに聞きにっていて先輩たち職員の振るまいを見ても最終的な答え（もう保育園には入れませんだけ）にも驚きました。中学校が海の真正面なのは、とても心配です。自分の子供は通わせられません
- 湯河原町は公園はたくさんあるが、年配者の健康遊具ばかり増えて子ども用遊具は撤去されることはあっても全然増えていないと思う。千歳川の所にオブジェ？を建てるなら遊具を設置してほしい。公園に駐車場がないから行けない公園もある。駐車場も作って欲しい。1歳までのおむつ支援はありがたいが、1歳でおむつがはずれる子はほとんどいないと思うので2歳まで延長してほしい。支援センターの一時預かり、1時間500円は高い。子育てに疲れて1人でリフレッシュをしたくても預けづらい。子どもが複数人いると更に預けづらくなる。月に1・2回無料

IV 調査結果 保護者調査

で3時間預けられる（もしくは料金を下げる）ようになると、気軽に預けてリフレッシュした育児を頑張ろうと思える。育児ノイローゼにもなりにくくなると思う。まだまだワンオペで頑張っている方は沢山いるのでこういう支援も手厚くして頂けるとありがたいです。支援センターに預けてもご飯を食べさせてもらえないのは時間によっては子どもはお腹を空かせてしまうのでお弁当を用意すればOKとかにしてほしいです

こどもの預かりについて

- 共働き世帯に対して子の預かりに関する支援があるとうれしい
- シングルで子一人子育てしています。私の両親が他界しているため、気をつかわないで預けられる場所が少ないので（もちろん感謝はしています）湯河原は子供の数が少ないと思いますが、安心して預けられる場所を増やして欲しいです
- 病児保育があればもっと働きやすくなるかなと思います
- 核家族、共働きが増えている中、働きながら子育てができるやりやすい環境が必要のように感じています。両実家に頼れない（遠方）時等で、子供が病気や病気の回復期に子供を預かってくれる場所や人があると助かります。病児保育や病児をみってくれるベビーシッターさん等の紹介をしてくれたらと思います。子供の急な病気等で仕事を休むのは仕方無いですが、両親ともに休めない時や元気なのに熱が下がって数日は保育園に行けない等の緊急の際に頼れる場所がないのは非常に困っています。保育園や保育園の先生には子供を大切に育て下さっていると感じており湯河原町で暮らしていて良かったと思えます。いつも感謝しています。既存の制度で特に不満は感じていません
- 0歳の子がいますが、月7000円までのおむつ支援がとてもありがたい。子どもの病児保育があると仕事の幅が広がる方が増えると思う。雨の日に遊べる場所（ゆたぼん）ような所が増えると嬉しい
- 子どもが病気になった時の預け先がないので病児保育があるといいなと思いました。また、湯河原の未満児保育の保育料が高いため、産後仕事に復帰するか迷っています。小学生の子どもの帰りは早いので短時間で働きたいが、保育料のために働くだけになり保育に行かず3才まで自宅で見ると悩みます
- 最低限として他市町村と同一レベルの支援を受ける事が出来れば不備はでないと思います。放課後児童クラブの時間帯の変更を希望します。7:30～18:30になれば、これまで通りの仕事に従事出来ますが、今のままでは働き方に制限が出てしまいます。保育園の19:00位まで延長保育があると助かる場合があると思います
- まだ未就学児の為、病気になった時は母親が休まざるをえないので、民間でも良いので病児保育を行ってもらえるサービスがあると助かる。湯河原にはないので、子供の人数が少ない、あそぶ場所も少ないのでこのままでは減る一方かと思っています。観光のほうばかり税金を使うのではなく、湯河原に住んでいる人や住みたいと思う人を増やす取り組みをして行ってほしい
- 長期休み（春、夏、冬休み）の学童の開始時間を保育園と同じ7：30にして欲しい。保育園の時と同じ働き方が出来ず困った。結果、開始時間前に子どもを連れて行く人は何人もいます。
- 保育園の利用時間が18時半までなので学童の時間も18時半までにして欲しいです。
- 神奈川県内でも取り組みのある市町村もあると思いますが、湯河原でも病児保育サービスがあれば働いている側としては近くに頼れる身内がいなくてもワークバランスの充実が図れると思っています。
- 母親ですが正社員で働いている中で、出張など必要になる場合も多く、その際お迎えに行ける人がいないので、仕事（実績を積む＝収入UP）を制限されることが増えてきました。ファミリーサポートや延長保育（一時預かり）などもう少し遅い時間、早い時間があれば強く思うことがあります。また、子どもの今後を考えた時に、他自治体と比べて、子ども教育に対する政策が最低限ギリギリの印象を受けます。医療費、教育費、子育て支援をもう一歩進めて下さい
- 現在1歳児を育てていますが、おむつ支援サービスは本当にありがたかったです。湯河原町だけではないかなと思っています。とても助かりました。子育て支援について要望は（幼児をもつ親としては）病児保育のサービスがあれば有料でも利用したい。医療費助成が高校卒業までにしてほしい。子供服や子供用品を扱うお店が湯河原にはほとんどないので、そういったお店の誘致をして頂きたい。他県から引っ越して来ましたが、子どもが少ない分のびのびと子育てが出来ています。公園も多く子育て支援センターもよく利用させて頂いており、日々感謝しております
- 夜も預かってもらえるサービスがほしい

学校に関すること

- 今後、湯河原で娘を育てていくにあたり、最も懸念しているのは中学校についてです。とにかくあの海から数メートルという立地、今後起こるであろう大地震での津波を考えると、正直有り得ない場所と思います。南海トラフの想定津波高が7mであっても、想定外で済まされる事ではないと思います。娘は3年前に災害に遭い、生命の危機ととても恐ろしい恐怖を経験しました。もう二度とその様な目に遭わせたくありません。難しい事とは解っておりますが、少しでも安全な場所への、中学校の移設を希望してやみません。どうぞ宜しくお願い致します
- 小学校での音楽、体育、図工などの科目は、専門的な経験や知識を持つ者から、質の高い教育を受けさせて欲しいです。病児保育施設をつくる。認定こども園をつくる。自然を生かした公園をつくる。大きい道路に面する歩道に柵をつけるなどして安心安全な歩道づくり。保育園での日常がわかる様にアプリを導入してどんな様子であったか毎日、職員に入力してもらう。町内で唯一の中学校が海の目の前にありますが、日本は地震大国でもあり、日本の各地で地震による被害が耐えません。東日本大震災では予測をはるかに超えた大津波が襲いました。町内で唯一の中学校は海目の前にあります。東日本大震災を参考にしたら、高さは充分とは言えないと思います。又、135号線も目の前に通っており、大地震が起きてしまった場合、交通量もあるのでパニック状態になり、逃げ遅れる可能性もあると思います。古い建物を整備するなどして安全な場所へ中学校を早急につくってください
- 学校で過ごしている子供たちがどうゆうふうにごくしているのか知りたい
- 学校（PTA）の親の負担が多い、少子化なのに親の仕事が減らない為、役員の回数が増えてしまう。理由をつけてやらない親も多い為、引き受ける親が決まってきてしまう。委員長、副委員長になってしまった場合、定例会がAMの為、その都度仕事を休みづらい。長や副などをなくし定例会をなくせば、やる親も増えて、引き受けている親たちの負担も減ると思う。PTA総会も年々参加する親が減っている為、書面での報告でいいと思う。親の負担を減らせる所はなるべく減らしてほしい。そうすれば役員をやってくれる親も増えると思う。
- 担任の先生によって子供の学校へ行く気持ちが全く違う。この先生が担任になったら、子供はほぼ学校へ行く気なくなるだろう（行けなくなる）という先生がいる時は拒否できる様になると安心感が出ると思う。逆に、この先生なら学校へ行きやすい、や、行く気が出てくるという先生の方もアンケートなどで指名できたら良い気もする。金銭面で子供支援が受けられて、安心して行事や中学や高校の制服の購入にお金を支払えるので、少しでも支援を受けられるのはとても助かる。
- 保育園～中学校まで保護者会PTA等子ども一人につき何回受けて下さい等、何人も子どもがいる人にとって負担が大きすぎます。働く場所もなく正社員として考えるなら町外となると保育園の時間小学校の学童の問題。子育てをしてきて思う事は何かと色々乗り越えてこられたけれど湯河原での子育てを人にすすめる事は出来ないし自分の子供達には湯河原を出て行く事を進めます。
- 町内の小学校で行事や学校として行っている事にあまりに差がある。教育委員会は学校任せで関与せず不平等が生じている。
- 町内の小学生は3つの学校で公立校にも関わらず、内容やレベルに差があります。例えば、なぜ東台と吉浜の6年生は国会議事堂に行けて、湯小にはそれが無いのか？学校の判断であるなら、その判断に至った理由を共有するなり、保護者にアンケートをとるなりしてほしい。吉小のSNSで進んだ情報を見ると、なぜ湯小は色々なことに後手後手なのかと思う。湯河原町として公立校の標準化をきちんと進めてほしいです。公立校ならば公平にチャンスがあるべきです

子育て支援について

- 公的支援制度の対象外の人達に、支援が無い事が問題。支払いをきちんとしている人達が、ゆとりを持って生活している訳では無い。その家庭に支援があれば、更に子供を持つとする家庭が増える可能性がある。子供を助けない人より、子供を育てている家庭の方が子供を出産する可能性が高い。今困っていたり苦しい家庭を助けるのは、最低限の課題。子供を増やしたいなら、それ以上の支援が必要。子供が増えたり、子供を育てやすい環境なら、町内の消費が増えたり移住を推進できるのでは
- 町は観光支援ばかりに力を入れ、子育てにはおざりな印象です。観光会館で行われていた表彰式、子供達の自信につながる大切な行事は今どこ？海が近くにありながら、スイミングスクールがないとは、湯スポを半官半民にするなど何らかの対応を考えるべき。図書館をなんとかしてほしい。勉強スペースも、役場庁舎を新しくするのなら、1フロア図書館に。小田原駅東に図書館のような。観光客にお金を落としてもらっても、人口はどんどん減っていく。若い世帯に税優遇をし、移住者を増やす、医療費は高校まで。若い世帯が住めるよう空き家は放置しない

IV 調査結果 保護者調査

ように湯河原町独自の空き家対策条例をつくる。若い世帯の移住者を増やすために旧態依然とした慣例を見直す。この町は地元出身者が多いので、昔子供が大人になり、50年前と同じ事をしている。伝統継承に重点をおくならば、鹿島踊りもおおやしも吉浜だ、かじやだとせこい事を言わずに町として一つにまとめるべき。地区の回覧板、町内会費を払う加入者だけに回すのは情報共有の観点からおかしい。SNS活用し全町民に周知。“自治体は町政とは別”と言わずに町が主導で全地区まとめるべき

- 子育て支援等の説明をわかりやすく短めにして欲しい。説明されている側は余裕が無い為、その時は分かって後になって分からなくなってしまう事が多い
- 困った時に利用出来る公的支援があってもまずどこに聞いたらよいか分からない。周知されてないことが現状のような気がする。気軽に電話出来る総合窓口みたいのはあるのでしょうか？物価高のためパートの勤務時間を増やしたが、130万の壁で時給が上がってもたくさん働けない。早く中学校を給食にしてほしい。共働きが当たり前になって時代なのでPTA制度について見直すべき
- 節目で絵本をプレゼントという支援は続けて頂きたい
- ミルク支給事業も検討してほしい。子育てに関する光熱費の補助金等

出産可能な病院について

- 子供の人数が減少し続けている状況下で、安心して子育てができる環境づくりの一環として、産科や助産院の誘致が必要だと考えます。学校教育においては、小学校の統合も検討すべきです。また、中学校における給食の無料提供を可能な限り早期に実現すべきです。社会教育においては、放課後の子供の居場所づくりという観点から、例えば、総合型地域スポーツクラブへの支援を行う等、民間の力を活用しながら、また近隣の自治体とも連携しながら、子供が多種多様な経験をできる環境を整えていってほしいです
- 子育てと少し違うかもしれませんが、湯河原に産科や産婦人科がなくまた、婦人科もジェーコーのみ、子育ての中心である母親の身体も大切に作る町であれば子供も増えるかなと思います
- 町内の分娩可能施設の招致。拡充。コミュニティバスのダイヤ改正（16字台増便）、道路舗装（吉浜エリア等ベビーカーや車椅子での移動が危険な箇所が散見されます）町内に分娩可能な施設が無いので町の少子高齢化対策としても必要なものだと思います。コミュニティバスに関しては短時間保育利用者は保育が16：30までであり車を持っていない家庭では徒歩での通園を余儀なくされています。吉浜地区から中央地区の園へ通園させている家庭も多く16：30ないしは16：45等で保育園付近の停留所を通過するダイヤグラムに組み直すべきと考えます
- 町に子供を出産できる病院がないということに驚いた

安全や見守りについて

- 小学校低学年の保護者です。登校時間は通学路に通学、通勤の人がたくさん歩いているので安心なのですが、昼過ぎの下校時刻は誰1人も通学路周辺にいないことがよくあります。（吉中、新崎橋付近です）皆さんお忙しいとは思いますが、地域の方の見守りが大切だと思います。
- 不審者情報も多く聞かれるので、公園や町に防犯カメラをつけたり大人の見守りが強化されると安心です
- 子育てとともしやすい町ですが、不審者など出てしまう町でもあるのでパトロールなど多めに欲しい。たくさん大人の目がある町にして欲しい。他人の子ではなく他人の子も自分の子と思えるような助け合いや叱りも大切だと思う。住む地域で小学校を分けるとかではなく、湯河原町内なら選べるようにして欲しい。急がずのちに引っ越しなどが出来るように
- 公園の防犯カメラの情報を知りたい。どこの公園に何台設置されているなど、設置場所まで公開してしまうと死角を狙った犯行が増えると困るので台数まで。普段行く公園の不審者情報が来ると不安なので防犯カメラの有無だけでも知っていれば少しは安心。死角がないような設置だと嬉しいです。特に女子トイレが危険なようなのでその辺りの設置は重要かと思います。

交流環境について

- 保健センターで行われていた、かるがも教室も再開してほしい。そこで様々な経験をさせてもらえた長男、全くそういう町の企画が無かった次男。もう、コロナや感染症を避けるような生活スタイルは時代遅れです。保健センターだけ時が止まったまま。育児相談でのウェルネスタッチケアもやってほしい。4ヶ月健診など健診の時に、椅子

に座って待っているのは、小さい子供と一緒に大変です。マットを敷いて遊ばせながらのスタイルがありがたいです。健診時のマスク着用もなぜか強要。人が集まる場所であっても、協力を求めるのは違うと思います。学校で給食当番をする祭、子供達の手にアルコールを吹きかけて消毒するのもやめてほしいです。よく手洗いすれば良い事。保育園や学校で、親に許可無く消毒するのはやめてほしいです。どうかご検討お願いします

- 高齢者とこどもが交流でき、身近に感じられる環境になってほしい
- 地元の小中学生との触れ合える機会があるとうれしい（イベントなど音楽発表なども見れる機会があるとうれしい）←お年寄りもちろんです。子ども支援センター、日・月も利用できるととても助かります

移住に関すること

- 高齢化が進む湯河原町で、若い世代、家族の移住促進が重要だと思う。そのために様々な支援をして呼び込む必要があるが、この町は財政的に厳しく、このままでは財政が圧迫する一途だ。何か大きなお金を使って新しい物を建てる時、それなりの収益が発生する物を作らないと赤字になるばかり…e x、千歳川の河口の公園は面積も狭く、駅から歩いていくには遠いし、駐車場を作れても数台…。他市のように、ふるさと納税を上手く使い、すべて子育て支援や移住促進に使ったり、思い切った政策を期待します。お金あつての支援だと思いますので、財源確保にご尽力下さい。
- 湯河原は自然が豊かで子育て環境として良い町だと思うので、子育て世代の居住に援助金を出したら移住が増えると思います。また個性的な遊具（大きな）のある公園づくり（伊豆の多賀の長浜公園のような）など子供向けの施設がもう少し充実すれば、子連れの観光客を増やすことも出来るかかもしれないと思います。以前は都内に在住していましたが、湯河原は海も山もあり雰囲気も子育てしやすく感じています。公園も小さなものがたくさんありますが、もう少しランドマーク的な大きい公園がどこかに1つあると集いやすくも感じます。素敵な町（みかん、ラーメン、温泉、豆腐etc)なのでもっと世の中に知られて欲しいです。アンケートありがとうございました。湯河原の小学生の雰囲気とても良いです。良い町だと感じてます。役場の皆さんに感謝です
- 街全体として子育て世代や子どもがどんどん減っているが、早期リタイアやシニア世代の移住を進めても町は若返らない。子育て世代に向けて湯河原ってこんなに子育てする環境として恵まれていますよ、通勤圏ですよ、とアピールして定住させる、定住後のケアをちゃんとしてあげてください

税金に関すること

- 無駄なオブジェやくだらない政策に億単位の税金を使っていないで、その分子育てしやすい町になるように考えて頂きたいです。町の活性化を考えるなら、お年寄りよりも子供達・若者を優先すべきです
- どうして湯河原町は子供が少ないのかを他の自治体の成功例をあぶり出して、どうして検討なりしないのでしょうか。モニュメントなど大半が考えてもムダと分かる物を使ったり、何のために税金を払っているのか、腹が立ちます。普通に考えておかしいと思う税金の無駄遣いをやめて、子育ての環境へ充てたり、他の必要なことに使って下さい。全ての人が納得するのは難しいでしょうが、全てにおいて湯河原町は遅れています。

その他

- 不登校について。学校の環境、システム（集団性、1クラスの人数や時間など）や先生との関係が選択肢にあると良いかなと思います。友達とは遊びたいけど学校、先生が怖い、と言う子供達が周りに多くいます。夫婦共働き（祖父母も）などで、子供だけで家にいる家庭も多いです。低学年、幼児は心配で外で遊ばせたいが、子供同士の連絡や鍵の管理などが難しく、仕方なく休日ずっと家で過ごす子供達も。学童は低学年までが多く、また祝日など学童がお休みなので、過ごす場が少ない。スクールカウンセラー、教育支援教室など、窓口があってもうまく広まっていない、活用しづらいのがもったいなく思います。スクールカウンセラーさんは、実際は予約が取りづらくないです。学校も17:30以降電話ができなくなったので、働いている家庭はなかなか先生と連絡が取りづらくなったのでは。情報格差を感じます。イベント等も、利用できるのは（時間や金銭的にも）余裕のある家庭だったりします。雨の日でも子供達が遊べる、気軽に行ける場所がほしいです。公園も、夏の日差しや雨が凌げる場所があると良いです。こういったアンケートをしていただける事が何よりありがたいです。日々思う事を書けました。ありがとうございます。ぜひ今後に繋げてほしいです。宜しくお願いします

IV 調査結果 保護者調査

- 私は2人目がなかなかできず、半年間病院にも通いました。不妊治療の金額が高く半年で断念し、今は1人の子を育てています。少しずつ変わっていくかと思いますが、不妊治療に対してもっともっと理解してほしい。年齢の制限を無くすor上げてほしい。高齢の方にこそ100%治療が必要なのに、35才までとか理解しがたいです。また、子育てと仕事がとてもしにくいと思います。今2つパートをしています、子連れ出勤OKの会社でとても助かっています。男性でも女性でも、子育てと仕事が両立できる世界になってほしい。雨でも子供が遊べる場所も、もっとほしいと感じます。ゆたぽんよりもっと広い、ヘルシーの体育館の様な場所、町で作って頂けませんか。雨でも思いつき走り回れる場所がほしいです
- 沢山の情報提供や支援制度を設けて頂きありがとうございます。今後とも子育てしやすい町である事を願います。よろしくお願い致します
- 湯河原は芸術の方も多く住んでいらっしゃるの、小人向けの芸術の教室やイベントがあると楽しそうだし、町の特徴が活かされそう。小説の書き方教室とか、造形教室とか、木彫り教室とか、芸術に特化した学校ができるのもおもしろそう
- 夫と離婚しひとり親で子供3人を育てています。仕事はフルタイムで精一杯仕事をしています。姉は妹のご飯の世話や家事の手伝いをしていますが、ヤングケアラーというのでしょうか？自分の子供の頃はお手伝いといって当たり前だったように思います。なるべく子供の負担にならないようにやっていますが、0にするのは不可能です。言葉次第ですが、境界が不明瞭であまりヤングケアラーという言葉でくられると困るように思います。学費などは支援がありますが、学校の授業だけでは進学には不十分で、塾など不可欠なのですが、ひとり親では高額で十分に通わせるのは難しいとことです。学校教育の充実は重要な課題かと思っています。学校側先生が働き過ぎとかよく聞きますが、学ぶべき内容と授業容量が釣り合い合っていないように日々感じます。
- 今の現代社会又はニーズに合わせたアンケートではないと思った。不快に思ったアンケートあり。
- アンケートでは健常の子メインになっている。障がいがある子へのサポートだったり環境、障がいがあっても安心、安全に過ごせる場所をもう少し作ってほしい。合理的配慮が全然合理的配慮になっていないと思う。「ことばの教室」をそれぞれの学校で普通級と言われる子だけでなく、誰でも利用できればいいのと思う。健常児のみ基準はやめてもらいたい。生計を同一にしている、などでそこに祖父母、おじ、おばなどの収入を足されるのはいかがなものか。その子にかけているお金は親である自分たちなのに一緒に収入で計算されたくない。一緒にされてもそのお金（それぞれの収入）はこちらにこないのだから。
- 順位をつけない明確にしない取り組みが湯河原の学力低下の原因だと思います
- 子どもの母親間で仲間はずれにしたり、聞こえるように複数の人で悪口を言ったり、挨拶しても無視する人がいる現実もあります。リーダー的な人なので、先生とも仲良くおしゃべりし先生にも強く意見が言えます。そんな人がいると親も学校行事に行く日が怖くなり体調を崩してしまうこともあります。そんなごく一部の環境ですが分かって欲しいです。親も「助けて」と気軽に言える所を作って欲しいです
- 国や社会に期待していない
- 私（母）が入院をして今回感じた事は、入院中子供を一人で家においておける年令ではなく世話を必要とする為、実家に預けていました。そのため保育園を休ませなければならなかった為もし小学校中学校の場合困るなと思いました。なので授業など遅れないような対応やシステムがあるといいなと思いました
- 中学生の11人に1人が発達障害をかかえているという現状があるのもっと周りの人達にも知ってもらえたらと思う。湯河原町にも療育の施設があると良いと思う
- 出産祝いのオムツ助成はとてもありがたいですが乳幼児のいる家に生花はお世話できませんでした。おくるみも代2子の人は不要の人もいると思うのでその予算を他の物（選択制、現金など）にしてもらえると嬉しかった。学童保育への金額が高い。小児科がたった2院、1院は受付の対応等で不評、今後不安なので総合病院（JCHOなど）の外来に小児科を招いて欲しい。中学校給食を早く始めて欲しい。耐震が不安なので小中統合、新校舎進めて欲しい
- いつも子ども達のためにありがとうございます。[湯河原町こども計画] 子どもや親、みんなが子育てしやすく「湯河原」に住み続けたいと思えるようなまちづくりを期待しております。【要望】①図書館の建て替え→コミュニティセンターとキッズルーム併設の図書館へ（現在子どもと一緒に図書館を利用していますが、子連れ利用客が少なくまた館内も老朽化により暗く、駐車場も狭く残念で勿体ないです）②町立福浦幼稚園廃園→町立保育園（4園）を町立こども園にする③町立東台福浦小学校廃校→町立吉浜小学校へ合併・統合④小児医療（医療証）について。国際医療福祉大学熱海病院で使用出来るようにしてほしい（県外なので償還払いですが、夜間や救急などで利用す

る方が多いと思いますので、柔軟な対応をして頂けることを願います）⑤小学校や公園にすべり台の設置（老朽化により各所のすべり台がなくなり、すべり台がある公園を毎回探して遠くの公園まで行っています）

- 子どもの衣類文具等がすぐ必要なときにお店を回っているため子育てに不便だなと感じる。本屋もなくなってしまい手軽に購入出来る所が減った。バスも減少していて駐車場がない場所等へ行くのが不便です。学童の開始、終了時刻が保育園よりも早い為共働き世帯では小学生の壁があり子育てが大変と感じている。お祝い金とかではなく継続的支援が理想。保育園の主食の毎日提供
- 保育園について私達が利用していた時親が休みだと保育園に来させず一緒に過ごすべきだということを言う先生がいた。親の負担も内情も知らずそう言われてとても戸惑った。私の子ども達には特に支援はなかったが、他の園に見学に行った時は子ども達が庭で遊んでいたり走っていたりするのに自分達は話して見ていない事が2回ほどありました。一生懸命やっている先生がほとんどですがたまに驚く先生もいます。子どもが園に行っている時は子どもに何かされるかもと思えませんでした。町の人だけでなく他市町村からも採用を広げてみてはどうですか。中学校の給食はいつ始まりますかと町長に伝えて下さい。ご病気なのは分かりますがお仕事ができないなら辞めてほしいです。選挙の時に給食やるって言ってました。弁当じゃだめです。町はもうちょっと子どもにお金をかけてくれませんか。小学校から遊具がなくなるのは悲しすぎます。
- 親も働き子育てするのが当たり前の世の中になり子が家庭や家族で過ごす時間が少なくなり、家族の温かさ当たり前の礼儀や作法が身についていかない時代になってきている。金銭的に余裕があれば習い事などで全て（子育ての）を外部にお任せし、金銭的余裕がなければ子どもはやりたい事も出来ない、チャレンジできない。賃上げは必須だと思うがもっと親が子どもを育てる目を掛けられる環境が必要だと感じる。0才～3才までの保育（長時間預かり）は子どもにとって負担が大きすぎると感じる。
- わたしには子供が4人居ます。子供をたくさん授かり子育てが出来楽しい事もたくさんありますが、自分の子供達や周りの人には子供をたくさん産む事を相談されても勧める事は絶対にしません。理由は子供が成長すれば子供に手はかからなくなりますがお金がかかるようになります。共働きで頑張れば良いと思うかも知れませんが一番下の子はまだ手を掛けなければならない時期だったりもします。子供が多いというのはその分用事や行事も多くなるのに、仕事もあり子供と過ごす時間は減ってしまうし母親の負担は増える一方で、こんな思いを他の人にはして欲しくないと思ってしまいます。子育て支援は小中学校で終わってしまう内容が多いと思うので、せめて子供が社会人として自立する歳までお願いしたいです
- この世の中父も母も共働きでないと家庭がまわらないが、子供を長時間保育施設に預けられる制度を整えるよりも父か母どちらかが共に正社員でも夕方帰宅できて子供の側に居られる社会になってほしい。子供と親の時間は最低限とても大切な時間だと思う。この時間を各々の家庭でつくる事が出来て子供を養う事が出来れば、若い人達も子供を育てようと前向きになれると思います。
- 子供が病気になった際、会社で有休を使用する事となりますが有休が足りなくなる場合があります。とは言え病児ほど親である私達が面倒を見てあげたく病児保育にお願いしようとは思えません。社会全体が子供の介護（病気などの）をする際には有休でなく公休扱いとするのではなくては根本的な解決とならないような気も致します。
- 高齢者や子供の目線から見て、町内の歩道の劣化している所が多く見られ転ぶ危険が高いと思う。道路、歩道の整備をお願いしたいです。ベビーカーで歩くのも難しい所が多いです
- 私はドイツに18年間おりました。とするとドイツと日本の子供の比較をしてしまいます。その点から話すと、日本の子供は自己主張が幼稚です。ドイツの子供達は教育の中で自己主張と議論を学びます。その点はドイツの子供は日本の子供より大人に見えますね。それと社会における子供の立場を教育するんですよ。その点日本の教育は弱いですね。だからドイツのようにしろと言うのではなく、一つの例として挙げてみました。何度か私は中学の教育のお手伝いをしました
- 子育ての環境や支援にあてている財源、予算がどれくらいの割合（全体に含める）なのか、そしてこれらが、どのような背景、要因から利用されているか、この辺の使い方に対して、やや気になる点もあり、お話を聞ける場などがあると有意義です
- 現在、湯河原に住宅購入を考えているが、土地がない、小田原に比べ相場が約800万ほど高い（土地、建坪は々）から不満。そまそまの新築建て売りの件数が少ない。中央や土肥地区に空き家となっていて放置物件が多数あり、スペースがない。湯河原に子どもが少なくなっている現状で、湯河原に住みたいと思う制度、支援が少ない
- 教師・保育士不足解消、防止のための待遇改善が急務だと思います

IV 調査結果 保護者調査

- 子育ての環境や支援には私の言うことが何も無いです。子育てきれいにおせわしたいと思います。よろしくお願いします
- 湯河原に住んでいて思うのは共働きに優しくない事です。保育園の見学でも「小さいうちは親と一緒にが一番だ」と言われ仕事に戻る事を否定された気分になりました。また低年齢の子を土曜日に預ける事をしづられた方がいたようで、その方は「仕事するなって事？」と言ってました。これでは人口が減るのも仕方ないですねと思ってました。そもそも子どもを産む所がない町なので環境ってそこからじゃないですか？湯河原で妊娠することがとっても不安でした。助産院できないのでしょうか？長く住みたいなと思っているからこそ残念に思う所が多いです。基本的に昭和の考えが残ってる町なのかなと。考え方そのものが古い感じが色々な所から感じられます。子育てしやすい町になることを願います

V 調査票

【中学生以上のこども・若者のみなさま】

湯河原町こども計画策定のための アンケート調査 ご協力をお願い

<回答方法について>

- ・ この調査は、宛名の方ご本人がご回答ください。
- ・ 学校から配布された中学生は、中学生ご本人がご回答ください。
- ・ 回答の仕方については、質問の最後に「あてはまるもの1つに○」、「あてはまるものすべてに○」など指定がありますので、それに従ってください。また、「その他」などを選んだ場合は、（ ）内に具体的な内容を記入していただくこともあります。
- ・ お名前を記入いただく必要はありません。調査の集計は統計的に処理しますが、個人が特定されることはありません。また、回答いただいた内容を調査の目的以外に使用することはありません。
- ・ 答えたくない質問には、無理にお答えいただくことはありませんが、お答えいただけるものについては、ありのままをお答えください。

<提出方法について>

- ・ 回答が済みましたら、**3月15日（金）**までに、
 - 学校から配布された方は、配布された封筒に入れ戻して封をし、学校に設置された回収箱に提出してください。
 - 郵送で送られてきた方は、同封の返信用封筒に入れて封をし、ポストに投函してください。
(切手を貼付する必要はありません)

不明点などがありましたら、下記までお問合せください。

問い合わせ

湯河原町役場 こども支援課

TEL : 0465-63-2111 (内線 330)

MAIL : kodomoshien@town.yugawara.kanagawa.jp

あなたのことについて

問1 お住まいの地区をお答えください。（あてはまるもの1つに○）

- | | | | | | |
|---|----|---|-----|----|--------|
| 1 | 福浦 | 5 | 鍛冶屋 | 9 | 宮上 |
| 2 | 川堀 | 6 | 門川 | 10 | 温泉場 |
| 3 | 吉浜 | 7 | 城堀 | 11 | 奥湯河原 |
| 4 | 中央 | 8 | 宮下 | 12 | その他（ ） |

問2 あなたの性別についてお答えください。(あてはまるもの1つに○)

- 1 男性
2 女性
3 答えたくない

問3 あなたの年齢を教えてください。（数字で記入してください）※2024年2月1日現在でお答えください。

歳

問4 あなたの職業などを教えてください。（あてはまるもの主なもの1つに○）

- 1 中学生 4 予備校生 7 社会人（働いていない）
2 高校生 5 大学生・大学院生 8 その他
3 専門学校生 6 社会人（働いている） （ ）

問5 あなたの就業経験についてお答えください。(あてはまるもの1つに○) ※パート・アルバイトを含む

- 1 現在、就業している
- 2 現在、就業しているが、休職や休業中である
- 3 現在は就業していないが、過去に就業経験がある
- 4 これまでに就業経験はない

問6 あなたは誰と一緒に住んでいますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 父親
- 2 母親
- 3 兄弟姉妹
- 4 祖父
- 5 祖母
- 6 配偶者
- 7 自分のこども
- 8 その他（ ）
- 9 一緒に住んでいる人はいない

問7 あなたは、結婚していますか。（あてはまるもの1つに○）

- 1 結婚している
- 2 現在結婚していないが、いつかは結婚したい
- 3 現在結婚していないし、これからも結婚したいと思わない

問8 あなたは、将来何人の子どもがほしいですか。（あなたの理想の子どもの数に1○をつけてください。）

- 1 1人
- 2 2人
- 3 3人
- 4 4人
- 5 5人以上
- 6 わからない

問9 家族のうち、あなたがお世話をしている人はいますか。それはどなたですか。あなたからみた続柄でお答えください。
（あてはまるものすべてに○）

※ここでいう「お世話」とは本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などをすることです。

- 1 母親
- 2 父親
- 3 祖父母
- 4 兄弟姉妹
- 5 その他（ ）
- 6 お世話はしていない →問11 にすすんでください。

問10 前問で1～5を選んだ人にお聞きます。

あなたが行っているお世話の内容をお答えください。（あてはまるものすべてに○）

- 1 家事（食事の準備や掃除、洗濯）
- 2 兄弟姉妹の世話や保育所等への送迎など
- 3 身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）
- 4 外出の付き添い（買い物、散歩など）
- 5 通院の付き添い
- 6 感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）
- 7 見守り
- 8 通訳（日本語や手話など）
- 9 金銭管理
- 10 薬の管理
- 11 その他（ ）

困難に直面した経験について

【すべての人にお聞きます。】

問11 あなたは今までに、社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験がありましたか。または、現在、社会生活や日常生活を円滑に送れていない状況がありますか。最もあてはまるものを選んでください。

(あてはまるもの1つに○)

- 1 今までに経験があった（または、現在ある）
- 2 どちらかといえば、あった（ある）
- 3 どちらかといえば、なかった（ない）
- 4 なかった（ない）
- 5 わからない、答えられない

問12 あなたは、次のような困難に直面したことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 不登校
- 2 引きこもり
- 3 生活困窮
- 4 虐待
- 5 いじめ
- 6 友人との関係
- 7 家族との関係
- 8 家族の介護等で学校へ行けない、好きなことができない
- 9 その他（ ）
- 10 直面していない

問13 困難を乗り越えた方は、どうことが役に立ちましたか。また、困難がまだ続いている方は、どのような支援があればよいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 家族や友人・知人への相談
- 2 町役場や民間機関の相談窓口での支援
- 3 金銭的な支援制度
- 4 同じような境遇の人同士で交流できる場所
- 5 困難とは関係のない仲間、居場所での時間
- 6 家に来てもらっての相談
- 7 電話や SNS などでの相談
- 8 必要なことが勉強できる、訓練できる場所
- 9 住むところを探す支援
- 10 仕事に就くための支援
- 11 その他（ ）
- 12 困難を経験したことがない

問14 あなたが、社会生活や日常生活を円滑に送ることができない状態となったときに、家族や知り合い以外に相談するとすれば、どのような相手や場所なら、相談したいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 相手が同じ悩みを持っている、持っていたことがある
- 2 相手が同世代である
- 3 相手が同性である
- 4 匿名で（自分が誰かを知られずに）相談できる
- 5 電話で相談できる
- 6 SNS やメールなどで相談できる
- 7 曜日・時間帯を気にせずに相談できる
- 8 相談できる場所が自宅から近い
- 9 相手が自宅に来てくれる
- 10 無料で相談できる
- 11 相手先が公的な支援機関である
- 12 相手先が民間の支援団体（NPO など）である
- 13 相手が医師である
- 14 相手がカウンセラーなど心理学の専門家である
- 15 その他（)
- 16 誰にも相談したくない

問15 問 14 で 16 を選んだ人にお聞きます

相談したくないと思う理由は何ですか。（あてはまる番号すべてに○）

- 1 相談しても解決できないと思うから
- 2 自分ひとりで解決するべきだと思うから
- 3 誰にも知られたくないことだから
- 4 自分が変な人に思われるのではないかと不安だから
- 5 自分の欠点や失敗を悪く言われそうだから
- 6 相手がどんな人かわからないから
- 7 何を聞かれるか不安に思うから
- 8 嫌なこと、できないことをするように言われそうだから
- 9 相手にうまく伝えられないから
- 10 裏切られたり、失望するのが嫌だから
- 11 お金がかかると思うから
- 12 その他（)
- 13 特に理由はない、わからない

こども・若者支援について

【すべての人にお聞きします。】

問16 近年、無料又は低額で食事を提供する「子ども食堂」の取組みが増えてきていますが、そうした場所で食事をしたことがありますか。(あてはまるもの1つに○)

- 1 参加している
- 2 参加したことがある
- 3 参加したことはないが、参加してみたい
- 4 参加したことはないし、今後も参加しない

問17 どのような子ども・若者支援の充実が必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 青少年や若者が参加できるイベント等の開催
- 2 青少年や若者が意見を発言できるイベント等の開催
- 3 青少年や若者が自主的に実施するイベント等の支援
- 4 青少年活動のリーダーとなる人の養成
- 5 経済的な困難を抱えている家庭の支援
- 6 いじめや虐待などの悩みを相談できる窓口の充実
- 7 放課後などに気軽にに行ける安全な居場所の提供
- 8 多様な授業（国際交流等）を取り入れるなど、学校教育の充実
- 9 薬物などから子どもたちを守り、非行や犯罪防止につとめる
- 10 インターネットの適正な利用について学ぶ機会の充実
- 11 就職支援の充実
- 12 地域活動や体験活動などの社会参加を通じた青少年育成のまちづくり
- 13 性の悩み相談など思春期の子どもの支援
- 14 その他（ ）
- 15 特になし

ヤングケアラーについて

問18 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありましたか。(あてはまるもの 1 つに○)

- 1 聞いたことがあり、内容も知っている
- 2 聞いたことはあるが、よく知らない
- 3 聞いたことはない

問19 あなたは「ヤングケアラー」にあてはまると思いますか。「ヤングケアラー」について下記に説明があるので、それを見てお答えください。(あてはまるもの 1 つに○)

- 1 あてはまる
- 2 あてはまらない
- 3 わからない

ヤングケアラーはこんな子どもたちです

家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子どもをいいます。



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

©一般社団法人日本ケアラー連盟 / illustration: izumi Shiga

あなたの気持ちや考えについて

問20 今の社会は「こどもまんなか社会」の実現に向かっていていると思いますか。（あてはまるもの1つに○）

- 1 向かっている
- 2 どちらかとうと向かっている
- 3 どちらかとうと向かっていない
- 4 向かっていない
- 5 わからない

問21 全体として、あなたはあなたの最近の生活全般に、どのくらい満足していますか。（あてはまる点数1つに○）



問22 今の自分が好きだ。（あてはまるもの1つに○）

- 1 あてはまる
- 2 どちらかといえば、あてはまる
- 3 どちらかといえば、あてはまらない
- 4 あてはまらない

問23 学校ですぐに友達ができる。（あてはまるもの1つに○）

- 1 まったくその通りだ
- 2 その通りだ
- 3 その通りでない
- 4 まったくその通りでない

問24 自分には自分らしさというものがあると思う。（あてはまるもの1つに○）

- 1 あてはまる
- 2 どちらかといえば、あてはまる
- 3 どちらかといえば、あてはまらない
- 4 あてはまらない

問25 家族・親族は、困った時に助けてくれると思いますか。（あてはまるもの1つに○）

- 1 そう思う
- 2 どちらかといえば、そう思う
- 3 どちらかといえば、そう思わない
- 4 そう思わない

問26 学校で出会った友人（現在通っている学校の友人、かつての同窓生など）は、困った時に助けてくれると思いますか。（あてはまるもの1つに○）

- 1 そう思う
- 2 どちらかといえば、そう思う
- 3 どちらかといえば、そう思わない
- 4 そう思わない

【働いている人・働いていたことがある人にお聞きます。】

問27 職場・アルバイト関係の人（現在及び過去の職場の同僚・上司・部下、その他仕事の関係で知り合った人など）は、困った時に助けてくれると思いますか。（あてはまるもの1つに○）

- 1 そう思う
- 2 どちらかといえば、そう思う
- 3 どちらかといえば、そう思わない
- 4 そう思わない

【すべての人にお聞きます。】

問28 地域の人（近所の人、町内会などの知人、消防団などの地域活動での知人、塾や習い事での知人、参加しているNPO法人など）は、困った時に助けてくれると思いますか。（あてはまるもの1つに○）

- 1 そう思う
- 2 どちらかといえば、そう思う
- 3 どちらかといえば、そう思わない
- 4 そう思わない

問29 インターネット上における人やグループ（実際には会ったことがなかったり、または、何回か会ったことはあっても、基本的にはインターネット中心の付き合いの人やグループ）は、困った時に助けてくれると思いますか。

（あてはまるもの1つに○）

- 1 そう思う
- 2 どちらかといえば、そう思う
- 3 どちらかといえば、そう思わない
- 4 そう思わない

問30 自分の将来について明るい希望を持っていますか。(あてはまるもの1つに○)

- 1 希望がある
- 2 どちらかといえば希望がある
- 3 どちらかといえば希望がない
- 4 希望がない

問31 湯河原町の将来は明るいと思いますか。(あてはまるもの1つに○)

- 1 明るい
- 2 どちらかといえば明るい
- 3 どちらかといえば暗い
- 4 暗い
- 5 わからない

問32 あなたには、将来希望する夢や進路はありますか。(あてはまるもの1つに○)

- 1 あるし、叶えたい
- 2 あるが、あきらめている
- 3 ない

問33 今のあなたにとって安心できる場所がありますか。(あてはまるもの1つに○)

- 1 ある
- 2 ない

問34 あなたは生きづらさを感じることがありますか。(あてはまるもの1つに○)

- 1 ある
- 2 ない

問35 あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。(あてはまるもの1つに○)

- 1 ない
- 2 ほとんどない
- 3 たまにある
- 4 時々ある
- 5 しばしばある・常にある

問36 あなたは、子ども・若者を対象とした育成支援機関等を知っていますか。知っている育成支援機関等をすべて選んでください。（あてはまるものすべてに○）

- 1 ひきこもり地域支援センター（ユースサポートセンター・こころの健康センター）
- 2 発達障害者支援センター
- 3 子ども・若者総合相談センター、教育相談所、相談室などの相談機関
- 4 児童相談所・福祉事務所などの児童福祉機関
- 5 教育支援センター（適応指導教室）
- 6 青少年センターや青少年の家など、若者の自主的な活動を支援する施設
- 7 職業安定所（ハローワーク）・ジョブカフェ・地域若者サポートステーションなどの就労支援機関
- 8 フリースクール（フリースペース）
- 9 通信制高校のサポート校
- 10 その他民間の機関
（自然体験活動、学習支援、就労支援、ひきこもりの支援など若者育成支援を行う NPO など）
- 11 どれも知らない

問37 前問にあるこれらの機関について、利用したいと思いますか。（あてはまるもの 1 つに○）

- 1 利用したことがあり、今後も何かがあれば利用したいと思う
- 2 利用したことはあるが、今後は何かあっても利用したいと思わない
- 3 利用したことはないが、今後何かあれば利用したい
- 4 利用したことがなく、今後何かあっても利用したいと思わない

情報の入手先について

問38 あなたは知識や情報をどのように入手していますか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 インターネット検索
- 2 SNS（LINE、Instagram、TikTok、X 等）
- 3 テレビ・ラジオ
- 4 本
- 5 雑誌・マンガ
- 6 フリーペーパー
- 7 新聞
- 8 家族や友人との会話
- 9 その他（ ）
- 10 特にない

子どもや若者の意見について

問39 子ども政策に関して意見を聞いてもらえていると思いますか。（あてはまるもの1つに○）

- 1 そう思う
- 2 どちらかというとそう思う
- 3 どちらかというとそう思わない
- 4 そう思わない
- 5 わからない

問40 住んでいるまちや身のまわりの生活などをより良くするために、あなたが意見を言う場合、どの方法がよいですか。

（あてはまるものすべてに○）

- 1 意見箱
- 2 SNS（LINE、X など）
- 3 アンケート調査
- 4 メール
- 5 大人もいるグループで意見を言い合う
- 6 同じ年代の人が集まるグループで意見を言い合う
- 7 たくさんの人の前で意見を発表する
- 8 その他（ ）
- 9 考えたことがない
- 10 わからない

問41 子どもや若者のための取り組みについて、ご意見やご要望を自由にご記入ください。

アンケートは以上になります。3月15日（金）までに

- 学校から配布された方は、配布された封筒に入れ戻して封をし、学校に設置された回収箱に提出してください。
- 郵送で送られてきた方は、同封の返信封筒に入れて封をし、ポストに投函してください。

ご協力ありがとうございました。

【保護者のみなさま】

湯河原町こども計画策定のための アンケート調査 ご協力をお願い

＜回答方法について＞

- ・ この調査は、お子さんの保護者の方がご回答ください。
- ・ 園や学校からこの調査票を持ち帰ったお子さんのことについてご回答ください。郵送で送られてきた方は、宛名ラベルに記載のあるお子さんのことについてご回答ください。
- ・ 調査票が複数届いた方は、お手数ですがお子さんごとに複数の調査票にご回答ください。
- ・ 回答の仕方については、質問の最後に「あてはまるもの1つに○」、「あてはまるものすべてに○」など指定がありますので、それに従ってください。また、「その他」などを選んだ場合は、（ ）内に具体的な内容を記入していただくこともあります。
- ・ お名前を記入いただく必要はありません。調査の集計は統計的に処理しますが、個人が特定されることはありません。また、回答いただいた内容を調査の目的以外に使用することはありません。
- ・ 答えたくない質問には、無理にお答えいただくことはありませんが、お答えいただけるものについては、ありのままをお答えください。

＜提出方法について＞

- ・ 回答が済みましたら、**3月15日（金）**までに、
 - 園、学校から配布された方は、配布された封筒に入れ戻して封をし、各園、学校に設置された回収箱に提出してください。
 - 郵送で送られてきた方は、同封の返信用封筒に入れて封をし、ポストに投函してください。（切手を貼付する必要はありません）

不明点などがありましたら、下記までお問合せください。

問い合わせ

湯河原町役場 こども支援課

TEL : 0465-63-2111（内線 330）

MAIL : kodomoshien@town.yugawara.kanagawa.jp

※この調査で「お子さん」とは、調査票を配付したお子さん、または宛名ラベルのお子さんのことをいいます。

世帯のことについて

問1 お住まいの地区をお答えください。(あてはまるもの1つに○)

- | | | |
|------|-------|------------|
| 1 福浦 | 5 鍛冶屋 | 9 宮上 |
| 2 川堀 | 6 門川 | 10 温泉場 |
| 3 吉浜 | 7 城堀 | 11 奥湯河原 |
| 4 中央 | 8 宮下 | 12 その他 () |

問2 お子さんと同じく、生計を同一にしているご家族の人数をお答えください。

※お子さんを含みますが、

単身赴任中の人は含めないでください。

ご家族の人数

人

問3 問2で回答したご家族のうち、令和6年1月1日現在、0歳から18歳以下の人の人数をお答えください。

18歳以下の人数

人

問4 問2で回答した生計を同一にしているご家族は、お子さんから見てどの方ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|-------------|
| 1 母親（継母を含む） |
| 2 父親（継父を含む） |
| 3 祖父母 |
| 4 兄弟姉妹 |
| 5 その他 () |

問5 あなたは、現在の暮らしの状況を総合的に見て、どのように感じていますか。(あてはまるもの1つに○)

- | |
|------------|
| 1 大変苦しい |
| 2 やや苦しい |
| 3 ふつう |
| 4 ややゆとりがある |
| 5 大変ゆとりがある |

問6 昨年（令和5年1月～12月）のあなたの**世帯の収入**（税金や社会保険料等を差し引いた、いわゆる手取り収入）の合計額は、127万円を超えますか。(あてはまるもの1つに○)

※なお、ここでいう収入には仕事で得た収入のほか、株式配当などの副収入、年金収入、児童手当などの公的な手当・給付金、養育費等を含みます。

- | |
|--------------|
| 1 127万円を超える |
| 2 127万円を超えない |

問7 家計の支出の中で、負担が大きいと感じるものは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 食費
- 2 衣類など身の回りの物の購入費
- 3 家賃や光熱水費等、住居にかかる費用
- 4 医療費
- 5 保育料、授業料、教材費など、学校等にかかる費用
- 6 学校の部活動にかかる費用
- 7 学習塾、習い事、スポーツ少年団など、学校以外の教育等にかかる費用
- 8 趣味やレジャー等の遊興費
- 9 その他（ ）
- 10 特に大きな負担は感じない

問8 家族のうち、お子さんがお世話をしている人はいいますか。それはどなたですか。お子さんからみた続柄でお答えください。（あてはまるものすべてに○）

※ここでいう「お世話」とは本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などです。

- 1 お母さん
- 2 お父さん
- 3 おじいさん・おばあさん
- 4 兄弟姉妹
- 5 その他（ ）
- 6 お世話はしていない →問 10 にすすんでください。

問9 問8で 1～5を選んだ人にお聞きます。

お子さんが行っているお世話の内容をお答えください。（あてはまるものすべてに○）

- 1 家事（食事の準備や掃除、洗濯）
- 2 兄弟姉妹の世話や保育所等への送迎など
- 3 身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）
- 4 外出の付き添い（買い物、散歩など）
- 5 通院の付き添い
- 6 感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）
- 7 見守り
- 8 通訳（日本語や手話など）
- 9 金銭管理
- 10 薬の管理
- 11 その他（ ）

お子さんが困難に直面した経験について

【すべての人にお聞きます。】

問12 お子さんは、次のような困難に直面したことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 不登校
- 2 引きこもり
- 3 生活困窮
- 4 虐待
- 5 いじめ
- 6 友人との関係
- 7 家族との関係
- 8 家族の介護等で学校へ行けない、好きなことができない
- 9 その他（ ）
- 10 直面していない

問13 困難を乗り越えた方は、どういうことが役に立ちましたか。また、困難がまだ続いている方は、どのような支援があればよいと思われますか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 家族や友人・知人への相談
- 2 町役場や民間機関の相談窓口での支援
- 3 金銭的な支援制度
- 4 同じような境遇の人同士で交流できる場所
- 5 困難とは関係のない仲間、居場所での時間
- 6 家に来てもらっての相談
- 7 必要なことが勉強できる、訓練できる場所
- 8 住むところを探す支援
- 9 仕事に就くための支援
- 10 町役場への申請の同行
- 11 その他（ ）

子育て支援について

問14 あなたの世帯では、以下の公的支援制度を利用したことがありますか。

（（１）～（９）それぞれについて、あてはまるもの１つに○）

	利用したことがある	利用したことがない				
		利用する必要がなかった	利用したが要件に該当しなかった	利用したがどこに相談すればいいかわからなかった	利用するのがためらわれた	制度のことを知らなかった
（１）児童扶養手当 ひとり親家庭の親等で、18歳になった年度の3月31日（高校卒業）までの児童を養育している人を対象に手当を支給する制度。	1	2	3	4	5	6
（２）特別児童扶養手当 障害のある20歳未満の児童を養育している人を対象に手当を支給する制度。	1	2	3	4	5	6
（３）母子父子寡婦福祉資金貸付 20歳未満の児童を養育しているひとり親家庭等の親又はその子どもを対象に、自立・進学等のための資金を貸し付ける制度。	1	2	3	4	5	6
（４）生活困窮者自立支援制度 生活保護に至る前の生活困窮者に対し、自立相談支援の窓口設置、住宅確保給付金の支給や就労準備支援、家計相談支援、学習支援等を実施する制度。	1	2	3	4	5	6
（５）生活保護 資産や能力等すべてを活用してもなお生活に困窮する人を対象に、困窮の程度に応じて必要な保護を行い、最低限度の生活を保障し自立を助長する制度。	1	2	3	4	5	6
（６）生活福祉資金貸付 低所得者、障がい者又は高齢者に対し、資金の貸付けと必要な相談支援を行うことにより、経済的自立や生活意欲の助長促進等を図る制度。	1	2	3	4	5	6
（７）就学援助 経済的理由などで小・中学生の子どもの就学に困っている保護者を対象に、学用品費や給食費など就学に必要な費用の一部を援助する制度。	1	2	3	4	5	6
（８）高等学校等就学支援金 世帯の所得に応じて、授業料に充てる支援金を給付し、子どもの高等学校等への就学を支援する制度。	1	2	3	4	5	6
（９）高等職業訓練促進給付金 ひとり親家庭の親が、就職に有利な資格を取得するために1年以上養成機関で修業する場合、修業中の生活の安定を図るため一定額を支給する制度。	1	2	3	4	5	6

問15 次のうち、幼少期に利用したい子育て支援サービスがありますか。幼少期を過ぎたお子さんの場合、利用したかったサービスを選んでください。（あてはまるものすべてに○）

1 放課後児童クラブ・放課後こども教室

2 保育園の延長保育

3 病児・病後児保育※ 1

4 一時預かり事業

5 ファミリー・サポート・センター※ 2

6 その他（

）

7 特にない

問16 問 15 で「4 一時預かり事業」「5 ファミリー・サポート・センター」を選んだ人にお聞きします。

平日 1 時間の利用金額が、いくらまでであれば利用したいと思いますか。（あてはまるもの 1 つずつに○）

【一時預かり事業】

1 400 円

2 600 円

3 800 円

4 1,000 円

5 有料なら利用しない

【ファミリー・サポート・センター】

1 500 円

2 700 円

3 1,000 円

4 有料なら利用しない

※ 1 病児・病後児保育

保護者の子育てと就労の両立を支援するために、病中または病気回復期のお子さんを預かり、必要な看護や保護を行う事業。

※ 2 ファミリー・サポート・センター

子どもの送迎や預かりなど、子育ての「援助を受けたい人（依頼会員）」と「援助を行いたい人（提供会員）」が会員となり、育児について助け合う組織。

【すべての人にお聞きます。】

問17 日本の社会が結婚、妊娠、こども・子育てに温かい社会の実現に向かっていると思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

- 1 そう思う
- 2 どちらかといえば、そう思う
- 3 どちらかといえば、そう思わない
- 4 そう思わない

問18 子どもの世話や看病で頼れる人はいますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 いる
- 2 いない
- 3 そのことで頼らない

問19 近年、無料又は低額で食事を提供する「子ども食堂」の取組みが増えてきていますが、そうした場所にお子さんを参加させたいと思いますか。(あてはまるもの1つに○)

- 1 参加させたい
- 2 すでに参加している
- 3 参加させたくない
- 4 わからない

問20 問19で「1 参加させたい」「2 すでに参加している」を選んだ人にお聞きます。

参加させたい・参加している理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 保護者が仕事で不在の時など、お子さんだけでは心配だから
- 2 お子さんにさまざまな人と関わる機会を持たせたいから
- 3 経済的に、家では十分な食事を食べさせられないから
- 4 家事の負担を軽減したいから
- 5 その他 ()

ヤングケアラーについて

【すべての人にお聞きます。】

問21 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありましたか。（あてはまるもの 1 つに○）

- 1 聞いたことがあり、内容も知っている
- 2 聞いたことはあるが、よく知らない
- 3 聞いたことはない

問22 お子さんは「ヤングケアラー」にあてはまると思いますか。「ヤングケアラー」について下記に説明があるので、それを見てお答えください。（あてはまるもの 1 つに○）

- 1 あてはまる
- 2 あてはまらない
- 3 わからない

ヤングケアラーはこんな子どもたちです

家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子どもをいいます。



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

©一般社団法人日本ケアラー連盟 / illustration : Izumi Shiga

相談や情報の入手先について

問23 お子さんの子育てや教育について、気軽に相談できる人や場所はありますか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 子どもの母親または父親
- 2 子どもの祖父母等の親族
- 3 友人や知人
- 4 近所の人
- 5 教育・保育施設の保育士や先生、学校の先生やカウンセラー等
- 6 町の子育て関連担当窓口
- 7 子育て支援施設（地域子育て支援センター、児童センター等）
- 8 民生委員・児童委員、主任児童委員
- 9 かかりつけの医師
- 10 その他（ ）
- 11 いらない・ない

問24 県や町が実施している子育てや生活に関する支援の情報をどうやって知りますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 広報ゆがわら
- 2 子育てガイドブック
- 3 町の子ども・子育て支援サイト
- 4 町や県のホームページ
- 5 教育・保育施設や学校からのお便り
- 6 家族や友人からの情報
- 7 民間の子育て支援サイト
- 8 SNS
- 9 その他 ()
- 10 特になし
- 11 入手方法がわからない

町の取り組みについて

問25 どのような子育て・生活支援の充実が必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 仕事で帰宅が遅くなる場合や休日勤務の場合等の保育サービスの充実
- 2 病児・病後児保育の充実
- 3 子どもの医療費支援の充実
- 4 保護者の医療費支援の充実
- 5 保育料や授業料の負担軽減
- 6 就学援助の充実
- 7 進学のための奨学金等の充実
- 8 無料又は低額の子どもの学習支援の充実
- 9 無料又は低額で食事の提供を行う「子ども食堂」の充実
- 10 子どもの就職支援の充実
- 11 保護者の就職支援の充実
- 12 相談窓口の充実
- 13 家賃の安い賃貸住宅の確保に関する支援の充実
- 14 その他（
- 15 特になし

問26 どのような子ども・若者支援の充実が必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 青少年や若者が参加できるイベント等の開催
- 2 青少年や若者が意見が発言できるイベント等の開催
- 3 青少年や若者が自主的に実施するイベント等の支援
- 4 青少年活動のリーダーとなる人の養成
- 5 経済的な困難を抱えている家庭の支援
- 6 いじめや虐待などの悩みを相談できる窓口の充実
- 7 放課後などに気軽に行ける安全な居場所の提供
- 8 多様な授業（国際交流等）を取り入れるなど、学校教育の充実
- 9 薬物などから子どもたちを守り、非行や犯罪防止につとめる
- 10 インターネットの適正な利用について学ぶ機会の充実
- 11 就職支援の充実
- 12 地域活動や体験活動などの社会参加を通じた青少年育成のまちづくり
- 13 性の悩み相談など思春期の子どもの支援
- 14 その他（
- 15 特になし

問27 子育ての環境や支援について、ご意見やご要望を自由にご記入ください。

アンケートは以上になります。3月15日（金）までに

- 園や学校から配布された方は、配布された封筒に入れ戻して封をし、各園、学校に設置された回収箱に提出してください。
- 郵送で送られてきた方は、同封の返信封筒に入れて封をし、ポストに投函してください。

ご協力ありがとうございました。